

2009年度

講義計画

桃山学院大学

語義

義

計

圖

科目名 クラス 講義区分	
英語留学準備講座 - TOEFL 7A <春>	
柳本麻美	1単位

【講義概要】

半年英語特訓留学希望者を主に対象とする講座であるが、留学に通用する英語を学びたい、留学に必要な知識を得たいという学生も対象とする。英語留学準備講座TOEFL-4を合わせて受講することが非常に望ましい。主にリーディングとライティングを中心に、TOEFL 1の講座で習得した基本スキルを、より実践的に解説していく。また、TOEFL iBTに加え、適宜、IPT対策を行う。留学した際、必要となるリーディング力、ライティング力を身につけるためには、講義に参加するだけでは十分とはいえない。課題も多く、自宅での学習も相当量必要となるので、勉強を本気でやるという覚悟を持って積極的に授業に参加すること。

【学習目標】

TOEFL ITP 450点 (TOEFL iBT 45点)、長期留学を希望する学生はTOEFL iBT 61点取得を目指す。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 READING Strategies
- 第3回 READING Question Types 1
- 第4回 READING Question Types 2
- 第5回 READING Question Types 3 WRITING Task 1
- 第6回 READING Question Types 4 WRITING Task 1
- 第7回 READING Question Types 5 WRITING Task 1
- 第8回 READING Question Types 6 WRITING Task 1
- 第9回 READING Question Types 7 WRITING Task 2
- 第10回 READING Question Types 8 WRITING Task 2
- 第11回 READING Question Types 9 WRITING Task 2
- 第12回 READING Question Types 10 WRITING Task 2
- 第13回 MINI-TEST
- 第14回 MINI-TEST
- 第15回 学期末テスト

【成績評価の方法】

試験 50%
学期末テスト (50%)、TOEFLスコア、出席、小テストなどで総合的に判断する。(開講時に詳細のプリントを配布する)

【教科書】

(Corporate Author) KAPLAN TOEFL iBT 2008-2009 KAPLAN
テキストはCD ROMとアンサーキー付
その他ハンドアウトを配布する。

【参考文献】

適宜、指示する。

【備考】

<04~07生>の【全学部・全学科】履修可、
<08~09生>の【経済・社会・経営・法学部】履修可、
<08生>の【国際教養学部 各専修生】
(但し英語コミュニケーション専修生は長期派遣留学希望者のみ対象とする。英語コミュニケーション専修生で英語特待生留学を希望する者は3A~6Bクラスに応募する事)

科目名 クラス 講義区分	
英語留学準備講座 - TOEFL 7B <秋>	
柳本麻美	1単位

【講義概要】

半年英語特訓留学希望者を主に対象とする講座であるが、留学に通用する英語を学びたい、留学に必要な知識を得たいという学生も対象とする。英語留学準備講座TOEFL-4を合わせて受講することが非常に望ましい。主にリーディングとライティングを中心に、TOEFL 1の講座で習得した基本スキルを、より実践的に解説していく。また、TOEFL iBTに加え、適宜、IPT対策を行う。留学した際、必要となるリーディング力、ライティング力を身につけるためには、講義に参加するだけでは十分とはいえない。課題も多く、自宅での学習も相当量必要となるので、勉強を本気でやるという覚悟を持って積極的に授業に参加すること。

【学習目標】

TOEFL ITP 450点 (TOEFL iBT 45点)、長期留学を希望する学生はTOEFL iBT 61点取得を目指す。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 READING Strategies
- 第3回 READING Question Types 1
- 第4回 READING Question Types 2
- 第5回 READING Question Types 3 WRITING Task 1
- 第6回 READING Question Types 4 WRITING Task 1
- 第7回 READING Question Types 5 WRITING Task 1
- 第8回 READING Question Types 6 WRITING Task 1
- 第9回 READING Question Types 7 WRITING Task 2
- 第10回 READING Question Types 8 WRITING Task 2
- 第11回 READING Question Types 9 WRITING Task 2
- 第12回 READING Question Types 10 WRITING Task 2
- 第13回 MINI-TEST
- 第14回 MINI-TEST
- 第15回 学期末テスト

【成績評価の方法】

試験 50%
学期末テスト (50%)、TOEFLスコア、出席、小テストなどで総合的に判断する。(開講時に詳細のプリントを配布する)

【教科書】

(Corporate Author) KAPLAN TOEFL iBT 2008-2009 KAPLAN
テキストはCD ROMとアンサーキー付
その他ハンドアウトを配布する。

【参考文献】

適宜、指示する。

【備考】

<04~07生>の【全学部・全学科】履修可、
<08~09生>の【経済・社会・経営・法学部】履修可、
<08生>の【国際教養学部 各専修生】
(但し英語コミュニケーション専修生は長期派遣留学希望者のみ対象とする。英語コミュニケーション専修生で英語特待生留学を希望する者は3A~6Bクラスに応募する事)

科目名 クラス 講義区分	
英語留学準備講座 - TOEFL 8A <春>	
柳本麻美	1単位

【講義概要】

半年英語特訓留学希望者を主に対象とする講座であるが、留学に通用する英語を学びたい、留学に必要な知識を得たいという学生も対象とする。英語留学準備講座TOEFL-3を合わせて受講することが非常に望ましい。主にリスニングとスピーキングを中心に、TOEFL 2の講座で習得した基本スキルを、より実践的に解説していく。また、TOEFL iBTに加え、適宜、IPT対策を行う。留学した際、必要となるリスニングとスピーキング力を身につけるためには、講義に参加するだけでは十分とはいえない。課題も多く、自宅での学習も相当量必要となるので、勉強を本気でやるという覚悟を持って積極的に授業に参加すること。

【学習目標】

TOEFL ITP 450点 (TOEFL iBT 45点)、長期留学を希望する学生はTOEFL iBT 61点取得を目指す。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 LISTENING Strategies
- 第3回 LISTENING Question Types 1
- 第4回 LISTENING Question Types 2
- 第5回 LISTENING Question Types 3
- 第6回 LISTENING Question Types 4 SPEAKING Strategies
- 第7回 LISTENING Question Types 5 SPEAKING TASK 1
- 第8回 LISTENING Question Types 6 SPEAKING TASK 2
- 第9回 LISTENING Question Types 7 SPEAKING TASK 3
- 第10回 LISTENING Question Types 8 SPEAKING TASK 4
- 第11回 LISTENING Question Types 9 SPEAKING TASK 5
- 第12回 LISTENING Question Types 10 SPEAKING TASK 6
- 第13回 MINI-TEST
- 第14回 MINI-TEST
- 第15回 学期末テスト

【成績評価の方法】

試験 50%
 学期末テスト (50%)、TOEFLスコア、出席、小テストなどで総合的に判断する。(開講時に詳細のプリントを配布する)

【教科書】

(Corporate Author) KAPLAN TOEFL iBT 2008-2009 KAPLAN
 テキストはCD ROMとアンサーキー付
 その他ハンドアウトを配布する。

【参考文献】

適宜、指示する。

【備考】

<04~07生>の【全学部・全学科】履修可、
 <08~09生>の【経済・社会・経営・法学部】履修可、
 <08生>の【国際教養学部 各専修生】
 (但し英語コミュニケーション専修生は長期派遣留学希望者のみ対象とする。英語コミュニケーション専修生で英語特待生留学を希望する者は3A~6Bクラスに応募する事)

科目名 クラス 講義区分	
英語留学準備講座 - TOEFL 8B <秋>	
柳本麻美	1単位

【講義概要】

半年英語特訓留学希望者を主に対象とする講座であるが、留学に通用する英語を学びたい、留学に必要な知識を得たいという学生も対象とする。英語留学準備講座TOEFL-3を合わせて受講することが非常に望ましい。主にリスニングとスピーキングを中心に、TOEFL 2の講座で習得した基本スキルを、より実践的に解説していく。また、TOEFL iBTに加え、適宜、IPT対策を行う。留学した際、必要となるリスニングとスピーキング力を身につけるためには、講義に参加するだけでは十分とはいえない。課題も多く、自宅での学習も相当量必要となるので、勉強を本気でやるという覚悟を持って積極的に授業に参加すること。

【学習目標】

TOEFL ITP 450点 (TOEFL iBT 45点)、長期留学を希望する学生はTOEFL iBT 61点取得を目指す。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 LISTENING Strategies
- 第3回 LISTENING Question Types 1
- 第4回 LISTENING Question Types 2
- 第5回 LISTENING Question Types 3
- 第6回 LISTENING Question Types 4 SPEAKING Strategies
- 第7回 LISTENING Question Types 5 SPEAKING TASK 1
- 第8回 LISTENING Question Types 6 SPEAKING TASK 2
- 第9回 LISTENING Question Types 7 SPEAKING TASK 3
- 第10回 LISTENING Question Types 8 SPEAKING TASK 4
- 第11回 LISTENING Question Types 9 SPEAKING TASK 5
- 第12回 LISTENING Question Types 10 SPEAKING TASK 6
- 第13回 MINI-TEST
- 第14回 MINI-TEST
- 第15回 学期末テスト

【成績評価の方法】

試験 50%
 学期末テスト (50%)、TOEFLスコア、出席、小テストなどで総合的に判断する。(開講時に詳細のプリントを配布する)

【教科書】

(Corporate Author) KAPLAN TOEFL iBT 2008-2009 KAPLAN
 テキストはCD ROMとアンサーキー付
 その他ハンドアウトを配布する。

【参考文献】

適宜、指示する。

【備考】

<04~07生>の【全学部・全学科】履修可、
 <08~09生>の【経済・社会・経営・法学部】履修可、
 <08生>の【国際教養学部 各専修生】
 (但し英語コミュニケーション専修生は長期派遣留学希望者のみ対象とする。英語コミュニケーション専修生で英語特待生留学を希望する者は3A~6Bクラスに応募する事)

科目名 クラス 講義区分	
英語留学準備講座 - TOEFL 9A <春>	
村瀬 寿代	1単位

【講義概要】

半年英語特訓留学希望者を主に対象とする講座であるが、留学に通用する英語を学びたい、留学に必要な知識を得たいという学生も対象とする。本講座は上級準備講座であり、長期留学を目指す学生も歓迎する。英語留学準備講座TOEFL-10を合わせて受講することが非常に望ましい。主にリーディングとライティングを中心に、TOEFL iBTのスコアアップを目指す。また、TOEFL iBTに加え、適宜、IPT対策を行う。留学した際、必要となるリーディング力、ライティング力を身につけるためには、講義に参加するだけでは到底不可能である。従って、課題も多く、自宅での学習も相当量必要となるので、勉強を本気でやるという覚悟を持って積極的に授業に参加すること。

【学習目標】

TOEFL ITP 450点 (TOEFL iBT 45点)、長期留学を希望する学生はTOEFL iBT 61点取得を目指す。

【講義計画】

- 第1回 講座説明
- 第2回 READING SKILL 1 WRITING SKILL 1 & 2
- 第3回 READING SKILL 2 WRITING SKILL 3
- 第4回 READING SKILL 3 WRITING SKILL 4
- 第5回 READING SKILL 4 WRITING SKILL 5
- 第6回 READING SKILL 5 WRITING SKILL 6
- 第7回 READING SKILL 6 WRITING SKILL 7
- 第8回 READING SKILL 7 WRITING SKILL 8
- 第9回 READING SKILL 8 WRITING SKILL 9
- 第10回 READING SKILL 9 WRITING SKILL 10 & 11
- 第11回 READING SKILL 10 WRITING SKILL 12 & 13
- 第12回 READING DIAGNOSTIC PRE-TEST WRITING SKILL 14 & 15
- 第13回 READING POST-TEST WRITING DIAGNOSTIC PRE-TEST
- 第14回 MINI-TESTS 1 & 2 WRITING SKILL POST-TEST
- 第15回 学期末試験

【成績評価の方法】

試験 70% 出席 30%
TOEFLスコア、出席、小テスト、小論文等総合的に判断する。

【教科書】

Deborah Phillips LONGMAN Preparation Course for the TOEFL TEST iBT PEARSON Longman
テキストはCD ROMとアンサーキー付。
その他ハンドアウトを配布する。

【参考文献】

適宜、指示する。

【備考】

<04~07生>の【全学部・全学科】履修可、
<08~09生>の【経済・社会・経営・法学部】履修可、
<08生>の【国際教養学部 各専修生】
(但し英語コミュニケーション専修生は長期派遣留学希望者のみ対象とする。英語コミュニケーション専修生で英語特待生留学を希望する者は3A~6Bクラスに応募する事)

科目名 クラス 講義区分	
英語留学準備講座 - TOEFL 9B <秋>	
村瀬 寿代	1単位

【講義概要】

半年英語特訓留学希望者を主に対象とする講座であるが、留学に通用する英語を学びたい、留学に必要な知識を得たいという学生も対象とする。本講座は上級準備講座であり、長期留学を目指す学生も歓迎する。英語留学準備講座TOEFL-10を合わせて受講することが非常に望ましい。主にリーディングとライティングを中心に、TOEFL iBTのスコアアップを目指す。また、TOEFL iBTに加え、適宜、IPT対策を行う。留学した際、必要となるリーディング力、ライティング力を身につけるためには、講義に参加するだけでは到底不可能である。従って、課題も多く、自宅での学習も相当量必要となるので、勉強を本気でやるという覚悟を持って積極的に授業に参加すること。

【学習目標】

TOEFL ITP 450点 (TOEFL iBT 45点)、長期留学を希望する学生はTOEFL iBT 61点取得を目指す。

【講義計画】

- 第1回 講座説明
- 第2回 READING SKILL 1 WRITING SKILL 1 & 2
- 第3回 READING SKILL 2 WRITING SKILL 3
- 第4回 READING SKILL 3 WRITING SKILL 4
- 第5回 READING SKILL 4 WRITING SKILL 5
- 第6回 READING SKILL 5 WRITING SKILL 6
- 第7回 READING SKILL 6 WRITING SKILL 7
- 第8回 READING SKILL 7 WRITING SKILL 8
- 第9回 READING SKILL 8 WRITING SKILL 9
- 第10回 READING SKILL 9 WRITING SKILL 10 & 11
- 第11回 READING SKILL 10 WRITING SKILL 12 & 13
- 第12回 READING DIAGNOSTIC PRE-TEST WRITING SKILL 14 & 15
- 第13回 READING POST-TEST WRITING DIAGNOSTIC PRE-TEST
- 第14回 MINI-TESTS 1 & 2 WRITING SKILL POST-TEST
- 第15回 学期末試験

【成績評価の方法】

試験 70% 出席 30%
TOEFLスコア、出席、小テスト、小論文等総合的に判断する。

【教科書】

Deborah Phillips LONGMAN Preparation Course for the TOEFL TEST iBT PEARSON Longman
テキストはCD ROMとアンサーキー付。
その他ハンドアウトを配布する。

【参考文献】

適宜、指示する。

【備考】

<04~07生>の【全学部・全学科】履修可、
<08~09生>の【経済・社会・経営・法学部】履修可、
<08生>の【国際教養学部 各専修生】
(但し英語コミュニケーション専修生は長期派遣留学希望者のみ対象とする。英語コミュニケーション専修生で英語特待生留学を希望する者は3A~6Bクラスに応募する事)

科目名 クラス 講義区分	
英語留学準備講座 - TOEFL 10A <春>	
村瀬 寿代	1 単位

【講義概要】

半年英語特訓留学希望者を主に対象とする講座であるが、留学に通用する英語を学びたい、留学に必要な知識を得たいという学生も対象とする。本講座は上級準備講座であり、長期留学を目指す学生も歓迎する。英語留学準備講座TOEFL-9を合わせて受講することが非常に望ましい。主にスピーキングとリスニングであるが、TOEFL iBTのスコアアップはもちろんのこと、大学の授業を理解し、自分の意見を論理的に述べることができる英語力を養うことを目的とする。また、TOEFL iBTに加え、適宜、IPT対策を行う。もちろん、講義に参加するだけでは不十分であるのは言うまでもない。毎日勉強するつもりで取り組む覚悟で受講すること。

【学習目標】

TOEFL ITP 450点 (TOEFL iBT 45点)、長期留学を希望する学生はTOEFL iBT 61点取得を目指す。

【講義計画】

- 第1回 講座説明
- 第2回 LISTENING SKILL 1 SPEAKING SKILL 1 & 2
- 第3回 LISTENING SKILL 2 SPEAKING SKILL 3 & 4
- 第4回 LISTENING SKILL 3 SPEAKING SKILL 5 & 6
- 第5回 LISTENING SKILL 4 SPEAKING SKILL 7 & 8
- 第6回 LISTENING SKILL 5 SPEAKING SKILL 9 & 10
- 第7回 LISTENING SKILL 6 SPEAKING SKILL 11 & 12
- 第8回 LISTENING SKILL 7 SPEAKING SKILL 13 & 14
- 第9回 LISTENING SKILL 8 SPEAKING SKILL 15
- 第10回 LISTENING SKILL 9 SPEAKING SKILL 16
- 第11回 LISTENING SKILL 10 SPEAKING SKILL 17 & 18
- 第12回 LISTENING DIAGNOSTIC TEST SPEAKING DIAGNOSTIC TEST
- 第13回 LISTENING POST-TEST SPEAKING POST TEST
- 第14回 MINI-TEST 1 & 2
- 第15回 学期末試験

【成績評価の方法】

試験 70% 出席 30%
TOEFLスコア、出席、小テスト等総合的に判断する。

【教科書】

Deborah Phillips LONGMAN Preparation Course for the TOEFL TEST iBT PEARSON Longman
テキストはCD ROMとアンサーキー付。
その他ハンドアウトを配布する。

【参考文献】

適宜、指示する。

【備考】

<04~07生>の【全学部・全学科】履修可、
<08~09生>の【経済・社会・経営・法学部】履修可、
<08生>の【国際教養学部 各専修生】
(但し英語コミュニケーション専修生は長期派遣留学希望者のみ対象とする。英語コミュニケーション専修生で英語特待生留学を希望する者は3A~6Bクラスに応募する事)

科目名 クラス 講義区分	
英語留学準備講座 - TOEFL 10B <秋>	
村瀬 寿代	1 単位

【講義概要】

半年英語特訓留学希望者を主に対象とする講座であるが、留学に通用する英語を学びたい、留学に必要な知識を得たいという学生も対象とする。本講座は上級準備講座であり、長期留学を目指す学生も歓迎する。英語留学準備講座TOEFL-9を合わせて受講することが非常に望ましい。主にスピーキングとリスニングであるが、TOEFL iBTのスコアアップはもちろんのこと、大学の授業を理解し、自分の意見を論理的に述べるができる英語力を養うことを目的とする。また、TOEFL iBTに加え、適宜、IPT対策を行う。もちろん、講義に参加するだけでは不十分であるのは言うまでもない。毎日勉強するつもりで取り組む覚悟で受講すること。

【学習目標】

TOEFL ITP 450点 (TOEFL iBT 45点)、長期留学を希望する学生はTOEFL iBT 61点取得を目指す

【講義計画】

- 第1回 講座説明
- 第2回 LISTENING SKILL 1 SPEAKING SKILL 1 & 2
- 第3回 LISTENING SKILL 2 SPEAKING SKILL 3 & 4
- 第4回 LISTENING SKILL 3 SPEAKING SKILL 5 & 6
- 第5回 LISTENING SKILL 4 SPEAKING SKILL 7 & 8
- 第6回 LISTENING SKILL 5 SPEAKING SKILL 9 & 10
- 第7回 LISTENING SKILL 6 SPEAKING SKILL 11 & 12
- 第8回 LISTENING SKILL 7 SPEAKING SKILL 13 & 14
- 第9回 LISTENING SKILL 8 SPEAKING SKILL 15
- 第10回 LISTENING SKILL 9 SPEAKING SKILL 16
- 第11回 LISTENING SKILL 10 SPEAKING SKILL 17 & 18
- 第12回 LISTENING DIAGNOSTIC TEST SPEAKING DIAGNOSTIC TEST
- 第13回 LISTENING POST-TEST SPEAKING POST TEST
- 第14回 MINI-TEST 1 & 2
- 第15回 学期末試験

【成績評価の方法】

試験 70% 出席 30%
TOEFLスコア、出席、小テスト等総合的に判断する。

【教科書】

Deborah Phillips LONGMAN Preparation Course for the TOEFL TEST iBT PEARSON Longman
テキストはCD ROMとアンサーキー付。
その他ハンドアウトを配布する。

【参考文献】

適宜、指示する。

【備考】

<04~07生>の【全学部・全学科】履修可、
<08~09生>の【経済・社会・経営・法学部】履修可、
<08生>の【国際教養学部 各専修生】
(但し英語コミュニケーション専修生は長期派遣留学希望者のみ対象とする。英語コミュニケーション専修生で英語特待生留学を希望する者は3A~6Bクラスに応募する事)

科目名 クラス 講義区分	
英語留学準備講座 - TOEFL 11A <春>	
村瀬 寿代	1単位

【講義概要】

主に長期留学希望者及び半年英語特訓留学経験者を対象とする上級レベルの講座であるが、更に英語力を伸ばしたいという学生も対象とする。英語留学準備講座 TOEFL-12も合わせて受講することが望ましい。主にリーディングとライティングを中心にすすめる。留学した際必要となるアカデミックなリーディング力、ライティング力を養うことを目指す。パッセージを訳すことは行わず、読解力をつけ、理解力を高めることに焦点を当てる。授業の速度は速く、アカデミックな内容であることを了解した上受講すること。講義に参加するだけでは目標スコア達成は困難であり、小論文などの課題、自宅での学習は相当量必要となる。TOEFL iBTに関して、あらかじめ、ある程度の知識を得ておくことが望ましい。長期留学を目指す学生は是非受講してほしい。授業は英語で行う。また、春学期はテキストの前半、秋学期はテキストの後半を使用する。

【学習目標】

TOEFL iBT 61点、すでにスコアを取得している学生は TOEFL iBT 79点取得を目指す。

【講義計画】

- 第1回 講座説明。ハンドアウト配布。
- 第2回 MODEL TEST 1
- 第3回 MODEL TEST 1
- 第4回 MODEL TEST 1
- 第5回 ACADEMIC SKILLS
- 第6回 ACADEMIC SKILLS
- 第7回 ACADEMIC SKILLS
- 第8回 ACADEMIC SKILLS
- 第9回 ACADEMIC SKILLS
- 第10回 MODEL TEST 2
- 第11回 MODEL TEST 2
- 第12回 MODEL TEST 2
- 第13回 MODEL TEST 3
- 第14回 MODEL TEST 3
- 第15回 MODEL TEST 3

【成績評価の方法】

試験 60% 出席 40%
テストは小テスト等を含む。
授業中に行うテスト、TOEFLスコア、出席、小テスト、小論文等総合的に判断する。

【教科書】

Pamela J. Sharpe BARRON' S TOEFL iBT Internet-Based Test 2008 with CD-ROM BARRON' S

【参考文献】

適宜、指示する。

【備考】

<04~07生>の【全学部・全学科】履修可、
<08~09生>の【経済・社会・経営・法学部】履修可、
<08生>の【国際教養学部 各専修生】
(但し英語コミュニケーション専修生は長期派遣留学希望者のみ対象とする。英語コミュニケーション専修生で英語特待生留学を希望する者は3A~6Bクラスに応募する事)

科目名 クラス 講義区分	
英語留学準備講座 - TOEFL 11B <秋>	
村瀬 寿代	1単位

【講義概要】

主に長期留学希望者及び半年英語特訓留学経験者を対象とする上級レベルの講座であるが、更に英語力を伸ばしたいという学生も対象とする。英語留学準備講座 TOEFL-12も合わせて受講することが望ましい。主にリーディングとライティングを中心にすすめる。留学した際必要となるアカデミックなリーディング力、ライティング力を養うことを目指す。パッセージを訳すことは行わず、読解力をつけ、理解力を高めることに焦点を当てる。授業の速度は速く、アカデミックな内容であることを了解した上受講すること。講義に参加するだけでは目標スコア達成は困難であり、小論文などの課題、自宅での学習は相当量必要となる。TOEFL iBTに関して、あらかじめ、ある程度の知識を得ておくことが望ましい。長期留学を目指す学生は是非受講してほしい。授業は英語で行う。また、春学期はテキストの前半、秋学期はテキストの後半を使用する。

【学習目標】

TOEFL iBT 61点、すでにスコアを取得している学生は TOEFL iBT 79点取得を目指す。

【講義計画】

- 第1回 MODEL TEST 4
- 第2回 MODEL TEST 4
- 第3回 MODEL TEST 4
- 第4回 MODEL TEST 4
- 第5回 MODEL TEST 5
- 第6回 MODEL TEST 5
- 第7回 MODEL TEST 5
- 第8回 MODEL TEST 5
- 第9回 MODEL TEST 6
- 第10回 MODEL TEST 6
- 第11回 MODEL TEST 6
- 第12回 MODEL TEST 6
- 第13回 MODEL TEST 7
- 第14回 MODEL TEST 7
- 第15回 MODEL TEST 7

【成績評価の方法】

試験 60% 出席 40%
テストは小テスト等を含む。
授業中に行うテスト、TOEFLスコア、出席、小テスト、小論文等総合的に判断する。

【参考文献】

適宜、指示する。

【備考】

<04~07生>の【全学部・全学科】履修可、
<08~09生>の【経済・社会・経営・法学部】履修可、
<08生>の【国際教養学部 各専修生】
(但し英語コミュニケーション専修生は長期派遣留学希望者のみ対象とする。英語コミュニケーション専修生で英語特待生留学を希望する者は3A~6Bクラスに応募する事)

科目名 クラス 講義区分	
英語留学準備講座 - TOEFL 12A <春>	
村瀬 寿代	1単位

【講義概要】

主に長期留学希望者及び半年英語特訓留学経験者を対象とする上級レベルの講座であるが、更に英語力を伸ばしたいという学生も対象とする。英語留学準備講座 TOEFL-11も合わせて受講することが望ましい。主にスピーキングとリスニングを中心にすすめ、後半にはプレゼンテーションを行う。長期留学には少なくともTOEFL iBT 61点 (PBT 500点) が必要であるので、それ以上のスコアを目指すとともに、留学した際必要となるスピーキング力、リスニング力を養うことを目指す。単なる英会話ではなく、理解し要約する、論理的に意見を述べるなどアカデミックな内容であることを了解した上受講すること。また、講義に参加するだけでは目標スコア達成は困難であり、小論文などの課題、自宅での学習は相当量必要となる。TOEFL iBTに関して、あらかじめ、ある程度の知識を得ておくことが望ましい。半年間、本気で勉強したいと考えている学生は、是非、挑戦してほしい。授業は英語で行う。また、春学期はテキストの前半、秋学期はテキストの後半を使用する。

【学習目標】

TOEFL iBT 61点、すでにスコアを取得している学生は TOEFL iBT 79点取得を目指す。

【講義計画】

- 第1回 講座説明。ハンドアウト配布。
- 第2回 MODEL TEST 1
- 第3回 MODEL TEST 1
- 第4回 MODEL TEST 1
- 第5回 ACADEMIC SKILLS
- 第6回 ACADEMIC SKILLS
- 第7回 ACADEMIC SKILLS
- 第8回 ACADEMIC SKILLS
- 第9回 ACADEMIC SKILLS プレゼンテーション
- 第10回 MODEL TEST 2 プレゼンテーション
- 第11回 MODEL TEST 2 プレゼンテーション
- 第12回 MODEL TEST 2 プレゼンテーション
- 第13回 MODEL TEST 3 プレゼンテーション
- 第14回 MODEL TEST 3 プレゼンテーション
- 第15回 MODEL TEST 3 プレゼンテーション

【成績評価の方法】

試験 60% 出席 40%
 テストはプレゼンテーション等を含む。
 授業中に行うテスト、TOEFLスコア、出席、小テスト、プレゼンテーション等総合的に判断する。

【参考文献】

適宜、指示する。

【備考】

プレゼンテーションはCALL教室使用予定。
 <04~07生>の【全学部・全学科】履修可、
 <08~09生>の【経済・社会・経営・法学部】履修可、
 <08生>の【国際教養学部 各専修生】
 (但し英語コミュニケーション専修生は長期派遣留学希望者のみ対象とする。英語コミュニケーション専修生で英語特待生留学を希望する者は3A~6Bクラスに応募する事)

科目名 クラス 講義区分	
英語留学準備講座 - TOEFL 12B <秋>	
村瀬 寿代	1単位

【講義概要】

主に長期留学希望者及び半年英語特訓留学経験者を対象とする上級レベルの講座であるが、更に英語力を伸ばしたいという学生も対象とする。英語留学準備講座 TOEFL-11も合わせて受講することが望ましい。主にスピーキングとリスニングを中心にすすめ、後半にはプレゼンテーションを行う。長期留学には少なくともTOEFL iBT 61点 (PBT 500点) が必要であるので、それ以上のスコアを目指すとともに、留学した際必要となるスピーキング力、リスニング力を養うことを目指す。単なる英会話ではなく、理解し要約する、論理的に意見を述べるなどアカデミックな内容であることを了解した上受講すること。また、講義に参加するだけでは目標スコア達成は困難であり、小論文などの課題、自宅での学習は相当量必要となる。TOEFL iBTに関して、あらかじめ、ある程度の知識を得ておくことが望ましい。半年間、本気で勉強したいと考えている学生は、是非、挑戦してほしい。授業は英語で行う。また、春学期はテキストの前半、秋学期はテキストの後半を使用する。

【学習目標】

TOEFL iBT 61点、すでにスコアを取得している学生は TOEFL iBT 79点取得を目指す。

【講義計画】

- 第1回 MODEL TEST 4
- 第2回 MODEL TEST 4
- 第3回 MODEL TEST 4
- 第4回 MODEL TEST 5
- 第5回 MODEL TEST 5
- 第6回 MODEL TEST 5
- 第7回 MODEL TEST 6
- 第8回 MODEL TEST 6
- 第9回 MODEL TEST 6 プレゼンテーション
- 第10回 MODEL TEST 6 プレゼンテーション
- 第11回 MODEL TEST 7 プレゼンテーション
- 第12回 MODEL TEST 7 プレゼンテーション
- 第13回 MODEL TEST 7 プレゼンテーション
- 第14回 MODEL TEST 7 プレゼンテーション
- 第15回 REVIEW プレゼンテーション

【成績評価の方法】

試験 60% 出席 40%
 テストはプレゼンテーション等を含む。
 授業中に行うテスト、TOEFLスコア、出席、小テスト、プレゼンテーション等総合的に判断する。

【教科書】

Pamela J. Sharpe BARRON' S TOEFL iBT Internet-Based Test 2008 with CD-ROM BARRON' S

【参考文献】

適宜、指示する。

【備考】

プレゼンテーションはCALL教室使用予定。
 <04~07生>の【全学部・全学科】履修可、
 <08~09生>の【経済・社会・経営・法学部】履修可、
 <08生>の【国際教養学部 各専修生】
 (但し英語コミュニケーション専修生は長期派遣留学希望者のみ対象とする。英語コミュニケーション専修生で英語特待生留学を希望する者は3A~6Bクラスに応募する事)

科目名 クラス 講義区分	
映像メディア論 <春集>	
南 出 和 余	4 単位

【講義概要】

映像メディア論では、映像人類学を中心として、これまでに制作された映像作品（民族誌映画、ドキュメンタリー）や映像に関する議論を基に、「映像を解した社会理解」について考える。そのなかでも特に留意すべきは、撮る者（撮影者）／撮られる者（被写体）／観る者（視聴者）の関係である。映像を見るときに、それぞれの立場を考慮することにより、その映像が「誰のために、何を、どう撮っているのか」がおのずと見えてくるだろう。これを活かし、授業後半では、静止画による映像制作を実際に体験する。

【学習目標】

私たちの日常は、映像メディアによる情報に溢れている。遠く離れた外国に住む人びとや異文化についても、私たちは映像を介して、あたかも行ったことがあるかの如く、知ることができる。しかし、「映像」がどれだけ詳細で多角的な情報を与えようとも、それは全体の一部を切り取った情報であることを私たちは意識しなければならない。逆に、映像を作るということは、制作者の意図やメッセージがそこに示されることを意味する。見る経験と実際に作る経験を通じて、映像を意識的に見るという姿勢を身に付けてもらいたい。なお、この授業は一部実習課題をとともうため、授業外の作業が必要となる。受講生は、そのことを覚悟のうえで受講してもらいたい。

【講義計画】

- 第1回 イントロダクション：情報化時代に生きる私たち
- 第2回 ドキュメンタリーの多様性
- 第3回 文化人類学と映像人類学
- 第4回 フィールドワークにおける映像の活用
- 第5回 映像人類学の歴史(1)映像の誕生—シネマトグラフ—
- 第6回 事例映像
- 第7回 映像人類学の歴史(2)記録映像
- 第8回 事例映像
- 第9回 映像人類学の歴史(3)関係を撮る
- 第10回 事例映像
- 第11回 映像で見る日本文化—外国人が撮った日本—
- 第12回 事例映像
- 第13回 セルフドキュメンタリーという潮流
- 第14回 事例映像
- 第15回 静止画映像制作
- 第16回 制作(1)テーマ設定、制作者の視点
- 第17回 制作(2)調査の方法
- 第18回 制作(3)撮影の技術
- 第19回 制作(4)「事実」の構成、ストーリー作り
- 第20回 制作(5)編集作業
- 第21回 制作(6)タイトルと字幕
- 第22回 制作(7)クレジット
- 第23回 制作発表と講評(1)
- 第24回 制作発表と講評(2)
- 第25回 制作発表と講評(3)
- 第26回 制作発表と講評(4)
- 第27回 ドキュメンタリー映像のウソとホント
- 第28回 映らないものを理解する
- 第29回 映像は誰のものか
- 第30回 まとめ

【成績評価の方法】

映像制作発表と、授業中、必要に応じて提出を求めるコメントカード（兼出席カード）から総合的評価を決める。映像制作発表は必須

【教科書】

テキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

山中速人（編）『マルチメディアでフィールドワーク』有斐閣2002

【備考】

〔02～07L生〕は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
英米文学概論 01 <春集>	
中 井 紀 明	4 単位

【講義概要】

文学とは何だろうか。文学の「定義」は難しいが、具体的な「文学作品」をあげることは難しいことではない。夏目漱石をはじめとするいわゆる「古典的」文学作品から山田悠介の『レンタル・チルドレン』そして有名無名の「文学」作品が基にあふれている。我々も英文学科で小説、詩、演劇作品など様々な英米文学作品を読んでいる。この講義では、英米文学の詩、短編小説、劇、映画、エッセイを読み進めながら「文学」を考える。文学を専門に「研究」というのはどのようなことをすることなのか。読みに何か特別な「専門家」らしきことを加えることなのか。英米文学を「専攻」とするのは何か特別な「研究方法」を習得することなのか。作者・テキスト・読者、意味、解釈そして文学能力、レトリック、語りなどに言及・考察しながら作品を詳しく読み、文学という制度を考えていく。

【学習目標】

8編の詩、4篇の短編小説、そして劇（映画版）、映画、エッセイそれぞれ一つずつを文学としてしっかり精読しながら文学という制度を考える

【講義計画】

- 第1回 William Wordsworth (1770 - 1850), "Resolution and Independence" (1807)
- 第2回 Samuel Taylor Coleridge (1772-1834), "The Rime of the Ancient Mariner" (1798)
- 第3回 Samuel Taylor Coleridge, "The Rime of the Ancient Mariner" (1798) (2)
- 第4回 Samuel Taylor Coleridge, "The Rime of the Ancient Mariner" (1798) (3)
- 第5回 Samuel Taylor Coleridge, "The Rime of the Ancient Mariner" (1798) (4)
- 第6回 Percy Bysshe Shelly (1792-1822), "Ode to the West Wind" (1820)
- 第7回 Walt Whitman (1819-1892), "Crossing Brooklyn Ferry" (1856)
- 第8回 Emily Dickinson (1830-1886), ten poems(1)
- 第9回 Emily Dickinson, ten poems(2)
- 第10回 D. H. Lawrence (1885 - 1930), "The Ship of Death" (1932) (1)
- 第11回 D. H. Lawrence, "The Ship of Death" (1932) (2)
- 第12回 Robert Frost (1874-1963), "Birches"
- 第13回 Marianne Moore (1887-1972), "Marriage" (1)
- 第14回 Marianne Moore, "Marriage" (2)
- 第15回 Marianne Moore, "Marriage" (3)
- 第16回 Nathaniel Hawthorne (1804 - 1864), "Young Goodman Brown" (1)
- 第17回 Nathaniel Hawthorne, "Young Goodman Brown" (2)
- 第18回 Nathaniel Hawthorne, "Young Goodman Brown" (3)
- 第19回 William Faulkner (1897-1962), "A Rose for Emily"(1)
- 第20回 William Faulkner, "A Rose for Emily" (2)
- 第21回 William Faulkner, "A Rose for Emily" (3)
- 第22回 Ernest Hemingway (1899 - 1961), "Hills like White Elephants"
- 第23回 Flannery O' Connor (1925-1964), "A Good Man is Hard to Find" (1)
- 第24回 Flannery O' Connor, "A Good Man is Hard to Find" (2)
- 第25回 Flannery O' Connor, "A Good Man is Hard to Find" (3)
- 第26回 Henrik Ibsen (1828-1906), A Doll' s House
- 第27回 Henrik Ibsen, A Doll' s House(2)
- 第28回 Orson Welles (1915-1985), Citizen Kane
- 第29回 Orson Welles, Citizen Kane(2)
- 第30回 George Orwell (1903-1950), "Shooting an Elephant"

【成績評価の方法】

試験（小テスト、定期テスト）： 50% レポート： 30%
出席： 20%

出席重視は当然であるが、毎回配布される原文資料集をきっちり読みこなせているか（小テストでチェック）がポイントになる。

【教科書】

教材はすべてプリントで準備する。

【参考文献】

廣野由美子著『批評理論入門』中公新書
 Robert Eaglestone, Doing English
 Jonathan Culler, Literary Theory
 George Lakoff, Metaphors We Live by
 他は授業中に言及する。

科目名 クラス 講義区分

英米文学概論 02 <秋集>

小 野 良 子

4単位

【講義概要】

授業の概要
 英米文学作品読解と文化研究

【学習目標】

授業の到達目標及びテーマ
 英米の文学作品を読む楽しさを経験すると共に、文化的背景の知識を深める。英語教員を目指す人のために、英文読解と文化理解にポイントを置くことで、概論科目としてふさわしいものになりたい。

1. 幼年期から壮年期まで、各世代に支持される作品を読むことで、人生の局面を英米文学作品を通じて考え、英米文化圏の人々の文学体験、あるいは人生を擬似体験する。
2. 作品理解に必要な文化的コンテクストー風俗、習慣、思想、社会構造ーを概観することで、文化理解を深める。
3. 幼年期に読む作品から始めて、自己の読解力の「英語年齢」を点検する。また、映画鑑賞で多様な英語を聴く力を養う。

【講義計画】

第1回 英米文学の読み方ー理論と実践(1)
 第2回 英米文学の読み方ー理論と実践(2)
 第3回 『不思議の国のアリス』鑑賞と分析(1)
 第4回 『不思議の国のアリス』鑑賞と分析(2)
 第5回 『ナルニア国物語』 鑑賞と分析(1)
 第6回 『ナルニア国物語』 鑑賞と分析(2)
 第7回 『ライ麦畑で捕まえて』鑑賞と分析(1)
 第8回 『ライ麦畑で捕まえて』鑑賞と分析(2)
 第9回 『高慢と偏見』 鑑賞と分析(1)
 第10回 『高慢と偏見』 鑑賞と分析(2)
 第11回 『高慢と偏見』 鑑賞と分析(3)
 第12回 『嵐が丘』 鑑賞と分析(1)
 第13回 『緋文字』 鑑賞と分析(1)
 第14回 『嵐が丘』 鑑賞と分析(2)
 第15回 『嵐が丘』 鑑賞と分析(3)
 第16回 『緋文字』 鑑賞と分析(2)
 第17回 『緋文字』 鑑賞と分析(3)
 第18回 『オリバー・ツイスト』 鑑賞と分析(1)
 第19回 『オリバー・ツイスト』 鑑賞と分析(2)
 第20回 『グレート・ギャツビー』 鑑賞と分析(1)
 第21回 『グレート・ギャツビー』 鑑賞と分析(2)
 第22回 『碾き臼』 鑑賞と分析(1)
 第23回 『碾き臼』 鑑賞と分析(2)
 第24回 『ガラスの動物園』 鑑賞と分析(1)
 第25回 『ガラスの動物園』 鑑賞と分析(2)
 第26回 『セールスマンの死』 鑑賞と分析(1)
 第27回 『セールスマンの死』 鑑賞と分析(2)
 第28回 『ハムレット』 鑑賞と分析(1)
 第29回 『ハムレット』 鑑賞と分析(2)
 第30回 まとめ

【成績評価の方法】

1. 小レポート： 毎回、講義に関する質問、コメント等を書いて提出(400~600字程度)
2. 期末レポート： 与えられたテーマで4000~5000字程度のレポートを書く

【教科書】

プリントを配布(各作品ごとに20~40ページの原文)

【参考文献】

授業で通知する

「演習 I」クラス・研究テーマ一覧

クラス	担当者	研究テーマ
01	辻 洋一郎	リテラシーの基本を学ぶ
02	荒木 英一	大学生活スタート
03	井田 憲計	経済学、はじめの一步
04	一ノ瀬 篤	日本経済の基礎知識
05	上野 勝男	貧困について考える
06	梅田 百合香	日本の政治と社会の諸問題
07	木村 二郎	経済学入門と基礎的学習能力（読み書き話す力）育成
08	佐賀 朝	現代社会の諸問題
09	滝田 和夫	経済学入門
10	津田 直則	日本と世界について考える
11	藤間 真	大学生として学び生きる
12	中村 勝之	会社の「化けの皮」をはがす ～簿記&財務諸表分析入門～
13	西川 憲二	大学生活入門・経済入門
14	藤田 香	経済学入門ー経済と社会について考える
15	前田 治郎	社説を読む
16	松尾 純	大学に入学はしたけれども・・・
17	吉田 恵子	メディアから読み解く経済学
18	吉田 恵子	メディアから読み解く経済学

科目名	クラス	講義区分
演習 I 01 <通期>		
辻	洋一郎	4単位

【講義概要】

入学おめでとうございます。
本来、「演習」科目は、課題について自分で調べ・考えたことを「発表し、みんなで討論する」場です。とはいえ、誰しもすぐにホイホイと思った通りに発表し、討論できるわけではありません。そこでこの「演習 I」では、次年次以降の演習科目で成果が上がるために必要な、①考え方の技術や②演習の作法を学習します。

【学習目標】

春学期最初の数回は、大学生活に慣れること、施設の紹介や使い方を学びます。慣れるにつれて、いろいろな教材（ゲームやビデオ、映画）を使って、思考の技術、表現の仕方の勉強をします。以下の授業計画は、順不同で行います。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 図書館ガイダンス
- 第3回 建学の精神を学ぶ（チャペル見学）
- 第4回 情報センターガイダンス
- 第5回 リテラシー能力を鍛える①
- 第6回 リテラシー能力を鍛える②
- 第7回 リテラシー能力を鍛える③
- 第8回 リテラシー能力を鍛える④
- 第9回 リテラシー能力を鍛える⑤
- 第10回 リテラシー能力を鍛える⑥
- 第11回 リテラシー能力を鍛える⑦
- 第12回 リテラシー能力を鍛える⑧
- 第13回 リテラシー能力を鍛える⑨
- 第14回 春学期のまとめ
- 第15回 秋学期のオリエンテーション
- 第16回 春学期の復習
- 第17回 コミュニケーション能力を鍛える①
- 第18回 コミュニケーション能力を鍛える②
- 第19回 コミュニケーション能力を鍛える③
- 第20回 コミュニケーション能力を鍛える④
- 第21回 コミュニケーション能力を鍛える⑤
- 第22回 コミュニケーション能力を鍛える⑥
- 第23回 コミュニケーション能力を鍛える⑦
- 第24回 コミュニケーション能力を鍛える⑧
- 第25回 コミュニケーション能力を鍛える⑨
- 第26回 コミュニケーション能力を鍛える⑩
- 第27回 コミュニケーション能力を鍛える⑪
- 第28回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 0% レポート 30% 出席 70%
出席を重視します。
やむを得ず欠席する場合は、事前に担当教員にメール（ytsuji@andrew.ac.jp）で連絡すること。

【教科書】

使いません。必要に応じて資料やプリントを配布します。

【参考文献】

必要に応じて講義中に指示します。

科目名	クラス	講義区分
演習 I 02 <通期>		
荒木	英一	4単位

【講義概要】

身の回りのことや社会のことについて、映画を見たりニュースを読んだり、ざっくばらんに話しあいながら、経済学や経済問題への関心を深めていきましょう。情報センターや図書館をはじめとして、大学にあふれている「資源」の活用法についても、ガイダンスをしたいと思います。

【学習目標】

- (1) 経済学と経済問題に興味を持てるようになること
- (2) パソコンと図書館の利用に習熟すること
- (3) 人と議論をしたり人前でのプレゼンテーションに慣れていくこと

【講義計画】

- 第1回 世界や日本のニュースを読む(1)
- 第2回 世界や日本のニュースを読む(2)
- 第3回 世界や日本のニュースを読む(3)
- 第4回 映画(DVD)を見る(1)
- 第5回 映画(DVD)を見る(2)
- 第6回 図書館ガイダンス
- 第7回 パソコンを活用する(1)
- 第8回 パソコンを活用する(2)
- 第9回 パソコンを活用する(3)
- 第10回 英語のニュースも読んでみる(1)
- 第11回 英語のニュースも読んでみる(2)
- 第12回 英語のニュースも読んでみる(3)
- 第13回 日本経済の輝かしい実績に感動する(1)
- 第14回 日本経済の輝かしい実績に感動する(2)
- 第15回 日本経済の輝かしい実績に感動する(3)
- 第16回 新しい技術を体現したガジェットに感動する(1)
- 第17回 新しい技術を体現したガジェットに感動する(2)
- 第18回 新しい技術を体現したガジェットに感動する(3)
- 第19回 新聞社説などを要約する(1)
- 第20回 新聞社説などを要約する(2)
- 第21回 新聞社説などを要約する(3)
- 第22回 自分の意見をレポートにまとめる(1)
- 第23回 自分の意見をレポートにまとめる(2)
- 第24回 自分の意見をレポートにまとめる(3)
- 第25回 プレゼンテーション(1)
- 第26回 プレゼンテーション(2)
- 第27回 プレゼンテーション(3)
- 第28回 プレゼンテーション(4)

【成績評価の方法】

レポート 50% 出席 50%

科目名 クラス 講義区分	
演習 I 03 <通期>	
井田 憲 計	4 単位

【講義概要】

テーマ「経済学、はじめの一步」
 大学生活を始めるにあたってのオリエンテーションの後、経済学を学ぶ意義や方法について基礎的なガイダンスを行う。

【学習目標】

少人数のゼミナール形式で、テキストの輪読、発表、討論を通じて、経済学部での大学生活に必要なノウハウと習慣を身に付けることを目指す。

【講義計画】

- 第1回 1. ガイダンス
- 第2回 I. 大学生入門
- 第3回 2. オリエンテーション
- 第4回 3. 建学の精神 (チャペルにて)
- 第5回 4. 図書館ガイダンス
- 第6回 5. パソコン演習 (タイピング)
- 第7回 6. パソコン演習 (インターネットの利用)
- 第8回 7. パソコン演習 (ワープロソフト)
- 第9回 8. パソコン演習 (表計算ソフト)
- 第10回 9. パソコン演習 (レポート作成)
- 第11回 10. パソコン演習 (プレゼンテーションソフト)
- 第12回 II. 経済学部入門
- 第13回 11. テキスト (その1) について
- 第14回 12. レジュメ作成
- 第15回 13. 報告と討論
- 第16回 14. 書評作成
- 第17回 15. テキスト (その2) について
- 第18回 16. レジュメ作成
- 第19回 17. 報告と討論
- 第20回 18. 書評作成
- 第21回 III. 経済学入門
- 第22回 19. テーマ (その1) 選定
- 第23回 20. レポート作成
- 第24回 21. 報告と討論 1
- 第25回 22. 報告と討論 2
- 第26回 23. 報告と討論 3
- 第27回 24. テーマ (その2) 選定
- 第28回 25. レポート作成
- 26. 報告と討論 1
- 27. 報告と討論 2
- 28. 報告と討論 3

【成績評価の方法】

レポート 40% 出席 60%
 出席 (無断欠席は許されない) [約30%]、報告 [約30%]、レポート・成果物 [約40%] を総合 (上記%で配分) して評価する。

【教科書】

佐々木俊尚 グーグルGoogle—既存のビジネスを破壊する— 文春文庫
 (¥760+税)

【参考文献】

適宜指示する。

科目名 クラス 講義区分	
演習 I 04 <通期>	
一ノ瀬 篤	4 単位

【講義概要】

三橋規宏・内田茂男・池田吉紀『ゼミナール日本経済入門』日本経済新聞社 (最新版) を読みながら、基礎知識、基礎用語、基礎理論を説明する。

ただし、学習の形式は、ゼミ参加者による「テキスト担当箇所のまとめと問題提起」およびそれに関する討論、教師による解説、という形をとる。

「授業計画」に示した各項目に対応するテキストの章節を、示した順序で読む形で進める。一読後は演習参加者が任意のテーマに基づいて自由に研究発表する時間を数コマ設ける。

【学習目標】

戦後の日本経済について、基本知識・用語の学習を目標とする。

【講義計画】

- 第1回 戦後日本の景気循環、景気の波いろいろ
- 第2回 経済計画と経済成長
- 第3回 戦後日本の経済成長
- 第4回 デフレ・インフレの経済学
- 第5回 日本的物価問題
- 第6回 財政の役割と仕組み
- 第7回 国の歳入構造
- 第8回 国と地方
- 第9回 銀行の不良債権問題
- 第10回 マネーサプライ管理政策
- 第11回 アジアの成長・挫折・回復
- 第12回 中国の加盟とWTO体制
- 第13回 日本の貿易構造
- 第14回 ドル支配の終わり
- 第15回 国際通貨制度
- 第16回 外国為替
- 第17回 伸びる産業、沈む産業
- 第18回 産業構造の移り変わり
- 第19回 変革期を迎えた企業経営
- 第20回 構造変化する労働市場
- 第21回 地球温暖化対策の現状と課題
- 第22回 京都議定書発効後の取り組み
- 第23回 公害防止先進国への道
- 第24回 外部不経済と公害
- 第25回 自由研究発表①
- 第26回 自由研究発表②
- 第27回 自由研究発表③
- 第28回 自由研究発表④

【成績評価の方法】

試験 20% レポート 30% 出席 50%
 上記の「試験」は、ときどき行う基礎知識・基礎語句に関する小テストを意味する。また「レポート」は、自由研究発表を意味する。

【教科書】

三橋規宏・内田茂男『ゼミナール日本経済入門 (最新版)』日本経済新聞社

科目名 クラス 講義区分	
演習 I 05 < 通期 >	
上野 勝男	4 単位

【講義概要】

基本的な内容は、主に勉学面について大学生生活に慣れるための学習と、年間テーマ「貧困を考える」について学生参加型の授業である演習形式で勉強していくことです。

【学習目標】

- (1) 大学を知って大学生生活に慣れる。
- (2) 読んで、理解し、伝え説明する力を少しずつ身につける。
- (3) 経済学の根っこにある社会への関心をつちかう。
- (4) 経済学をかじってみる。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス：授業の進め方、成績評価の方法
- 第2回 大学を知って大学に慣れよう その1 キャンパスあちこち
- 第3回 大学を知って大学に慣れよう その2 カリキュラムを理解する
- 第4回 大学を知って大学に慣れよう その3 メールやインターネット
- 第5回 大学を知って大学に慣れよう その4 図書館を利用する
- 第6回 君を紹介してください その1 まずはパワーポイントの使い方
- 第7回 君を紹介してください その2 続き
- 第8回 君を紹介してください その3 プレゼン
- 第9回 君を紹介してください その4 プレゼン続き
- 第10回 新聞を拾い読みして解説する、一緒に考える その1
- 第11回 新聞を拾い読みして解説する、一緒に考える その2
- 第12回 新聞を拾い読みして解説する、一緒に考える その3
- 第13回 新聞を拾い読みして解説する、一緒に考える その4
- 第14回 新聞を拾い読みして解説する、一緒に考える その5
- 第15回 春学期のまとめ
- 第16回 年間テーマの研究：進め方
- 第17回 本・文献を読んで、解説する その1
- 第18回 本・文献を読んで、解説する その2
- 第19回 本・文献を読んで、解説する その3
- 第20回 本・文献を読んで、解説する その4
- 第21回 本・文献を読んで、解説する その5
- 第22回 グループ研究 その1
- 第23回 グループ研究 その2
- 第24回 グループ研究 その3
- 第25回 グループ研究 その4
- 第26回 グループ研究 その5
- 第27回 グループ研究 その6 発表
- 第28回 年間のまとめ

【成績評価の方法】

出席（授業への積極的姿勢）50%
課題（報告や発表など）50%

【備考】

予定は都合で変更されることがあります。

科目名 クラス 講義区分	
演習 I 06 < 通期 >	
梅田 百合香	4 単位

【講義概要】

日本の社会・政治問題について多角的に検討する。ゼミは、報告担当者がテキストの要約と論点提起（疑問点と自己の意見の提示等）を行い、それをもとに各グループごとで討論する形をとる。テキストの理解を経たうえで、各自が課題を設定し、学期末レポートを提出する。

【学習目標】

日本の社会および政治の基本構造と現代の問題に関する一般的知識の取得。

【講義計画】

- 第1回 ゼミの説明、テキスト紹介、グループ編成、テキスト輪読割当および報告担当日の決定
- 第2回 レジュメ作成、報告と討論のやり方の説明と練習
- 第3回 図書館ガイダンス
- 第4回 映像資料による日本社会の一般問題の把握と討論
- 第5回 テキスト『反貧困』の報告と討論①
- 第6回 テキスト『反貧困』の報告と討論②
- 第7回 テキスト『反貧困』の報告と討論③
- 第8回 テキスト『反貧困』の報告と討論④
- 第9回 テキスト『反貧困』の報告と討論⑤
- 第10回 テキスト『反貧困』の報告と討論⑥
- 第11回 テキスト『反貧困』の報告と討論⑦
- 第12回 テキストの総括と各自のレポート課題の決定
レポートの書き方の説明
- 第13回 各自のレポート課題に関わる新聞記事・参考文献の発表
- 第14回 レポートの概要発表と提出
- 第15回 テキスト紹介、グループ編成、テキスト輪読割当および報告担当日の決定
- 第16回 情報センターガイダンス
- 第17回 映像資料による日本政治の一般問題の把握と討論
- 第18回 テキスト『日本の統治構造』の報告と討論①
- 第19回 テキスト『日本の統治構造』の報告と討論②
- 第20回 テキスト『日本の統治構造』の報告と討論③
- 第21回 テキスト『日本の統治構造』の報告と討論④
- 第22回 テキスト『日本の統治構造』の報告と討論⑤
- 第23回 テキスト『日本の統治構造』の報告と討論⑥
- 第24回 テキスト『日本の統治構造』の報告と討論⑦
- 第25回 テキストの総括と各自のレポート課題の決定
- 第26回 各自のレポート課題に関わる新聞記事・参考文献の発表
- 第27回 各自のレポート課題に関わる新聞記事・参考文献の内容報告
- 第28回 レポートの概要発表と提出

【成績評価の方法】

演習への参加姿勢（報告および討論の内容と積極性）60%、春学期末レポート20%、秋学期末レポート20%。

出席することが前提であり、やむをえず欠席する場合は、事前に教員へメールで連絡すること。出席態度が不良の場合（遅刻、無断欠席、ゼミ中の携帯電話／メールの使用等）は除籍となるので注意すること。

【教科書】

湯浅誠 反貧困一「すべり台社会」からの脱出 岩波書店
岩波新書777円
飯尾潤 日本の統治構造—官僚内閣制から議院内閣制へ 中央公論新社
中公新書840円

【備考】

テキストを生協で各自購入のこと。
授業計画は、受講者の理解度や進行状況等によって変更する場合があります。

科目名 クラス 講義区分	
演習 I 07 <通期>	
木村二郎	4単位

【講義概要】

ゼミ活動を通じて、本大学で4年間充実した生活を過ごすために必要な知識や基礎能力を育成する。また、テキストを輪読して、経済学の面白さを体験し、秋学期には研究レポートの発表をパワーポイントで行う。テキストは第1回の演習で指定する。授業計画は、諸事情により変更することがある。

【学習目標】

自分の人生を念頭に大学4年間をいかに位置づけるかを明確化する。本大学で経済学を学ぶ上で必要なスキル（読み・書き・話し）とコミュニケーション能力を身につける。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス：班分け、自己紹介、スケジュール決定、テキスト指定
- 第2回 図書館ガイダンス
- 第3回 桃山学院大学の歴史を学ぶ
- 第4回 キャリアについて考える
- 第5回 交換留学生との交流会
- 第6回 パワーポイント使用法
- 第7回 検索ガイダンス
- 第8回 テキスト輪読：担当班がレジメ作成・発表、全体で討論
- 第9回 テキスト輪読：担当班がレジメ作成・発表、全体で討論
- 第10回 テキスト輪読：担当班がレジメ作成・発表、全体で討論
- 第11回 テキスト輪読：担当班がレジメ作成・発表、全体で討論
- 第12回 テキスト輪読：担当班がレジメ作成・発表、全体で討論
- 第13回 テキスト輪読：担当班がレジメ作成・発表、全体で討論
- 第14回 春学期まとめ
- 第16回 夏休み課題の報告：研究レポートのテーマ
- 第17回 時事問題ビデオに関するレポート作成、討論
- 第18回 時事問題報告（班別）
- 第19回 時事問題報告（班別）
- 第20回 時事問題報告（班別）
- 第21回 時事問題報告（班別）
- 第22回 時事問題報告（班別）
- 第23回 研究レポート発表（班別）
- 第24回 研究レポート発表（班別）
- 第25回 研究レポート発表（班別）
- 第26回 研究レポート発表（班別）
- 第27回 研究レポート発表（班別）
- 第28回 秋学期まとめ

【成績評価の方法】

演習参加態度、発表やレポートの内容、試験などの総合評価（出席は前提）

科目名 クラス 講義区分	
演習 I 08 <通期>	
佐賀朝	4単位

【講義概要】

この演習では、大学で学習・研究を行っていくための基本的な能力を身につけるため、現代の世界と日本をめぐるさまざまな社会問題（時事問題）を取り上げて、共同で学習、調査し、発表や討論を通じて理解を深めていく。

【学習目標】

演習を通じて以下のような能力の獲得を目標とする。
 まず①論述的な文章を読み、その内容を正確に理解すること、次に、②特定のテーマについて調べるために文献や資料を収集し、整理・分析すること、さらに③そのようにして調べ、分析した結果やそれに対する自分の意見を、文章や発表の形で表現すること、その上で④他人との間で討論し、批判しあうことを通じて意見の相違や共通点を確認し、問題についての理解を深めること、である。
 書くことや議論すること、あるいは自分で読み、調べ、自分の頭で考え、整理することなどを通じて、自分の疑問や意見を掘り起こし、深めていくことは、他人とは異なる自分を発見・創造し、豊かにしていくためにひじょうに大切な作業である。
 1年間の演習を通じて、受講生それぞれが社会問題への関心を深め、自分が取り組むべき何らかの課題を発見することができれば、と考える。

（春学期）

ある問題についての新聞記事や論説・論文などを読み、全員で、あるいは担当者を決めて、その要約や論点整理を行い、関連する資料を調べるなどしながら、疑問・批判なども提示する形で発表し、それを素材にグループごとに討論を行う。
 場合によっては、各自の意見を文章化し、その文面・内容を相互に検討したり、討論の内容をまとめるなどの課題を追加する。
 以上の行程を一つの基本サイクルとして作業を進め、まず他人の文章を正確に理解し要約すること、感想や疑問を持ち、それを意見や批判にまで高めること、討論をしながら自分の考えを深めること、論述的文章を書く能力を身につけること、などをめざす。

（秋学期）

基本的なサイクルは春学期と同じ形で進め、扱う文章の分量や内容をレベルアップするとともに、議論を積み重ねていくことを通じて、より内容の豊富な討論や文章作成をめざす。また秋学期の最後には、対論形式のディベートも実施する。

*取り上げるテーマとしては、憲法や戦争・平和、環境問題、教育、食の問題から、少子化や若者の雇用問題などなど、様々なものが考えられるが、受講生の関心も汲み上げながら設定していきたい。

【講義計画】

- 第1回 自己紹介
- 第2回 図書館利用ガイダンス
- 第3回 Webサイトによる情報検索のガイダンス（その1）
- 第4回 Webサイトによる情報検索のガイダンス（その2）
- 第5回 Webサイトによる情報検索のガイダンス（その3）
- 第6回 時事問題その1 ①資料講読編
- 第7回 時事問題その1 ②発表編
- 第8回 時事問題その1 ③ディスカッション編
- 第9回 時事問題その2 ①資料講読編
- 第10回 時事問題その2 ②発表編
- 第11回 時事問題その2 ③ディスカッション編
- 第12回 時事問題その3 ①資料講読編
- 第13回 時事問題その3 ②発表編
- 第14回 時事問題その3 ③ディスカッション編
- 第15回 春学期のまとめ（期末小テスト）
- 第16回 時事問題その4 ①資料講読編
- 第17回 時事問題その4 ②発表編
- 第18回 時事問題その4 ③ディスカッション編
- 第19回 時事問題その5 ①資料講読編
- 第20回 時事問題その5 ②発表編
- 第21回 時事問題その5 ③ディスカッション編
- 第22回 時事問題その6 ①資料講読編
- 第23回 時事問題その6 ②発表編
- 第24回 時事問題その6 ③ディスカッション編
- 第25回 時事問題その6 ④ディベート＝対論編
- 第26回 時事問題その7 ①資料講読編

- 第27回 時事問題その7 (②発表編)
- 第28回 時事問題その7 (③ディスカッション編)
- 第29回 時事問題その7 (④ディベート=対論編)
- 第30回 秋学期のまとめ (期末小テスト)

【成績評価の方法】

出席・受講態度、ほぼ毎回提出してもらうワークシートのほか、発表、討論、小テスト、レポートなどを総合的に評価する。

【参考文献】

テキストは特に定めず、随時、プリントなどを配付する。
参考文献は、授業の中で随時、提示する。

科目名 クラス 講義区分

演習Ⅰ 09 <通期>

滝田和夫

4単位

【講義概要】

この演習では、はじめに数回、自己紹介や図書館、パソコンなどのガイダンスを行う。その後第20回目頃までは、毎回の演習において、社会・経済問題に関する論説や新聞記事を読んでいく。そこでは、あらかじめ決めた報告者の報告に基づき討論していく。また時々、指定した課題について全員にレポートを提出していただく。夏休み前頃に各人が自分の研究テーマを設定し、夏休み中にその研究テーマに関する文献や資料を調査する。第21回目頃からの演習においては、各人が自分の研究テーマについて調べたことを発表し、それに対する討論を行っていく。この研究報告の1回の報告者は数名とし、この報告と討論を経て、最終的にある程度まとまった分量の研究レポートを全員に提出していただく。

なお、(イ) 最初の数回で行なう図書館、パソコンガイダンスについては、予約の都合によりガイダンス日程が変更になるかもしれないこと、また(ロ) これは演習科目なので、学生の理解・関心・討論状況等によって多少の予定変更があるかもしれないことを了解願いたい。

【学習目標】

この演習では二つのことを目標にしたい。一つは、これからの大学生活を送っていく上で必要な理解・表現能力を身につけること。もう一つの目標は、経済学部の学生として現代の社会・経済問題にある程度馴れ親しむことである。

【講義計画】

- 第1回 演習ガイダンスと自己紹介
- 第2回 図書館ガイダンス
- 第3回 パソコンガイダンス 1
- 第4回 パソコンガイダンス 2
- 第5回 パソコンガイダンス 3
- 第6回 格差社会について 1
- 第7回 格差社会について 2
- 第8回 少子高齢化について 1
- 第9回 少子高齢化について 2
- 第10回 BRICs経済について 1
- 第11回 BRICs経済について 2
- 第12回 最近の金融危機について 1
- 第13回 最近の金融危機について 2
- 第14回 各人の研究テーマの設定について
- 第15回 日本の財政問題 1
- 第16回 日本の財政問題 2
- 第17回 資源・環境問題 1
- 第18回 資源・環境問題 2
- 第19回 世界の貧困問題 1
- 第20回 世界の貧困問題 2
- 第21回 各人の研究報告 1
- 第22回 各人の研究報告 2
- 第23回 各人の研究報告 3
- 第24回 各人の研究報告 4
- 第25回 各人の研究報告 5
- 第26回 各人の研究報告 6
- 第27回 各人の研究報告 7
- 第28回 各人の研究報告 8

【成績評価の方法】

試験 10% レポート 40% 出席 50%
上の試験とは時々書いてもらう要約等のことであり、またレポートは報告を含む。

【教科書】

テキストは指定せず、随時プリントを配布する。

【参考文献】

随時指示する。

科目名 クラス 講義区分	
演習 I 10 < 通期 >	
津田直則	4単位

【講義概要】

- 1) 新聞・雑誌・インターネットなどの記事を読んで要約しまとめる。
- 2) 与えられたテーマについて自分の意見をまとめる。
- 3) 取り上げる問題は、①資源環境問題、②経済学の諸問題、③社会貢献問題
- 4) 身近な問題としてとらえることから出発し、専門的な問題へと進める。
- 5) 問題についてのまとめを何回か作成し、それをつなげてレポートを作成する。

【学習目標】

- 1) 多くの情報の中から必要な情報を「見つけ出す力」を養う。
- 2) 資料を「読む力」とまとめて「書く力」を養う。
- 3) 短い文章を何度も書きそれを「つなげる力」を養う。
- 4) 自分の意見をまとめることにより「考える力」を養う。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
①授業の概要、学習目標、スケジュール、成績評価の説明
②自己紹介
③情報検索の方法（新聞、雑誌、インターネット、書籍など）
- 第2回 エネルギー・環境問題第1回
第3回 エネルギー・環境問題第2回
第4回 エネルギー・環境問題第3回
第5回 エネルギー・環境問題第4回
第6回 世界の食料・水・農業問題第1回
第7回 世界の食料・水・農業問題第2回
第8回 世界の食料・水・農業問題第3回
第9回 食品偽装
第10回 ふりかえりとレポート作成
第11回 レポート発表
第12回 労働問題第1回
第13回 労働問題第2回
第14回 労働問題第3回
第15回 労働問題第4回
第16回 消費者金融とマイクロクレジット第1回
第17回 消費者金融とマイクロクレジット第2回
第18回 アメリカ資本主義と経済恐慌第1回
第19回 アメリカ資本主義と経済恐慌第2回
第20回 アメリカ資本主義と日本の経営
第21回 ふりかえりとレポート作成
第22回 レポート発表
第23回 社会貢献と国際貢献第1回
第24回 社会貢献と国際貢献第2回
第25回 社会貢献と国際貢献第3回
第26回 社会貢献と国際貢献第4回
第27回 ふりかえりとレポート作成
第28回 レポート発表

【成績評価の方法】

試験 0% レポート 40% 出席 60%
ここでいうレポートは、小さなカードにその日のテーマについて書いて提出することをいう。カードは最低2回に一度の授業で提出する。

【参考文献】

雑誌記事、新聞記事、インターネット情報が必要な資料。

科目名 クラス 講義区分	
演習 I 11 < 通期 >	
藤間真	4単位

【講義概要】

入学おめでとうございます。
本来、「演習」科目は、課題について自分で調べ・考えたことを「発表し、みんなで討論する」場です。とはいえ、誰しもうちにホイホイと思った通りに発表し、討論できるわけではありません。そこでこの「演習 I」では、大学生活で成果が上がるように、①考え方の技術②演習の作法を実習を通じて学びます。
また、高校までと違い、大学では「ホームルーム」というものはありませんが、この「演習 I」はホームルーム的な意味も込めて講義運営いたします。

【学習目標】

世界市民として学び生きるための基礎的な力を涵養することがこの講義の目標です。
そのために、
①考え方の技術
②演習の作法
を会得することを目的とします。

【講義計画】

- 第1回 春学期最初の数回は、大学生活に慣れること、施設の紹介や使い方を学びます。慣れるにつれて、いろいろな教材（ゲームやビデオ、映画）を使って、思考の技術、表現の仕方の勉強をします。
その後、下記の事項について扱っていきますが、一年生配当・クラス分け指定という設定も含めた科目の性質上、提出された課題の内容に応じて、予定を組み替えることが必要となることが予想されます。
詳細は、授業中に扱います。
- 第2回 桃山学院大学に慣れる(1)
第3回 桃山学院大学に慣れる(2)
第4回 桃山学院大学に慣れる(3)
第5回 桃山学院大学に慣れる(4)
第6回 コミュニケーションの受け手として(1)
第7回 コミュニケーションの受け手として(2)
第8回 コミュニケーションの受け手として(3)
第9回 コミュニケーションの送り手として(1)
第10回 コミュニケーションの送り手として(2)
第11回 コミュニケーションの送り手として(3)
第12回 思考の方法(1)
第13回 思考の方法(2)
第14回 思考の方法(3)
第15回 中間まとめ
第16回 社会問題について調べてまとめる(1)
第17回 社会問題について調べてまとめる(2)
第18回 社会問題について調べてまとめる(3)
第19回 社会問題について調べてまとめる(4)
第20回 共同で調べてまとめる(1)
第21回 共同で調べてまとめる(2)
第22回 共同で調べてまとめる(3)
第23回 共同で調べてまとめる(4)
第24回 レポート作成(1)
第25回 レポート作成(2)
第26回 レポート作成(3)
第27回 総合演習(1)
第28回 総合演習(2)
第29回 総合演習(3)
第30回 総合演習(4)

【成績評価の方法】

出席 100%
出席点が100%になっていますが、物理的に出席していれば単位が認定されるという意味ではありません。
出席は当然として、その上で、活動への参加状況、課題の提出状況等で評価します。

やむを得ず欠席する場合は、事前に担当教員にメール (m. tohma@andrew.ac.jp) で連絡すること。

科目名 クラス 講義区分	
演習 I 12 <通期>	
中 村 勝 之	4 単位

【講義概要】

それなりの努力をして自由を（本当の意味で）謳歌できる大学にせつかく入学できたのだから、思いっきり遊んでやろう…そういう「幻想」を根底から破壊し、来るべき大学卒業後に備えて今から力を蓄えるために、この演習は開講される。そのためにこの演習では2つの目標を掲げ、それに向かって邁進して行く予定にしている。

1つ目の目標は、何がしかの「資格」を取得することである。しかし聞こえは良くても実際には役に立ちそうにない資格も（思いの他）たくさんあるので、ここでは「簿記3級」の取得を目指す。その理由は、実際の企業活動がどんなことをしているのかを簿記の勉強を通じてイメージしてもらうことと、2つ目の目標を達成するのに必要不可欠の知識だからである。

2つ目は、就職活動する上で敵である企業の「実態を暴き出そう」とするための手法の習得を目指す。イメージが良さ気な企業だとしても、本当に（自分にとって）いい企業なのか不明な場合がほとんどである。それ以前に、自分が就職した後でもその企業が継続的に仕事していけるのか、言い換えるとそれだけ儲かっているのかを知る必要がまずある。

やっけて行くうちに分かってくるが、この演習は他の演習に比べるとやるべきハードルを意識的に高く設定している。しかし実社会の厳しさはこんなものではない。この点だけは肝に銘じて受講に臨んで頂きたい。

【学習目標】

①簿記3級合格

②経営分析

この2つをじっくり目指す。

【講義計画】

第1回 ガイダンス

（以下は簿記検定試験のスケジュールで講義進行が変更する場合がある）

第2回 図書館ガイダンス

第3回 希望進路先ランキング

第4回 採用予定者ランキング

第5回 簿記(1)

第6回 簿記(2)

第7回 簿記(3)

第8回 簿記(4)

第9回 簿記(5)

第10回 簿記(6)

第11回 簿記(7)

第12回 簿記(8)

第13回 簿記(9)

第14回 中間試験(簿記)

第15回 簿記(10)

第16回 簿記(11)

第17回 簿記(12)

第18回 簿記(13)

第19回 簿記(14)

第20回 簿記(15)

第21回 簿記(16)

第22回 経営分析入門(1)

第23回 経営分析入門(2)

第24回 レポート作成実習(1)

第25回 レポート作成実習(2)

第26回 レポート作成実習(3)

第27回 レポート作成実習(4)

第28回 本演習のまとめ

【成績評価の方法】

試験 100% レポート 100%

①中間試験(春学期末に簿記の試験)

②期末レポート(秋学期末に経営分析に関する報告書)

③簿記コースワーク(小レポート)

④簿記3級合格

※上記①～④を総合的に判断する。なお評価に「出席点」は含まれない。

【教科書】

第1回演習時に指示する。

【参考文献】

必要に応じて指示する。

科目名 クラス 講義区分	
演習 I 13 <通期>	
西 川 憲 二	4 単位

【講義概要】

大学生生活入門からはじめ、働き方や働くということの意味を考える。そして、社会問題、経済問題を考え議論する。

【学習目標】

社会経済問題について、考える力、議論する力、要約する力を向上させる。

【講義計画】

第1回 授業の進め方

第2回 図書館ガイダンス

第3回 情報センターガイダンス

第4回 チャペルガイダンス

第5回 ビデオ教材のテーマの選択

第6回 ビデオをみて議論し要約する

第7回 ビデオをみて議論し要約する

第8回 ビデオをみて議論し要約する

第9回 ビデオをみて議論し要約する

第10回 ビデオをみて議論し要約する

第11回 ビデオをみて議論し要約する

第12回 ビデオをみて議論し要約する

第13回 ビデオをみて議論し要約する

第14回 ビデオをみて議論し要約する

第15回 ビデオをみて議論し要約する

第16回 新聞記事からの発表と議論と要約

第17回 新聞記事からの発表と議論と要約

第18回 新聞記事からの発表と議論と要約

第19回 新聞記事からの発表と議論と要約

第20回 新聞記事からの発表と議論と要約

第21回 新聞の経済記事からの発表と議論と要約

第22回 新聞の経済記事からの発表と議論と要約

第23回 新聞の経済記事からの発表と議論と要約

第24回 新聞の経済記事からの発表と議論と要約

第25回 新聞の経済記事からの発表と議論と要約

第26回 新聞の経済記事からの発表と議論と要約

第27回 新聞の経済記事からの発表と議論と要約

第28回 新聞の経済記事からの発表と議論と要約

【成績評価の方法】

レポート 30% 出席 70%

発表、出席、レポート

科目名	クラス	講義区分
演習 I 14 <通期>		
藤田	香	4単位

【講義概要】

経済学とは何か？

この演習では、身近な経済現象から経済学の基本的な枠組みについて学習します。

経済学は、何の役に立つのか？

経済に関する意味や仕組みを理解するのは「しんどい」です。しかしながら、ひとたび経済学の知識を身につければ、経済の複雑な問題の輪郭がはっきりしてきます。理解できれば、興味がわき、問題の本質を自分で考え、判断することも可能となるでしょう。

【学習目標】

この演習を通じて、経済学の基礎知識及び大学生としてのスキルを学び、経済学部での大学生活をうまく過ごせるノウハウを身につけましょう。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 大学生入門(1)
- 第3回 大学生入門(2)
- 第4回 大学生入門(2)
- 第5回 日本経済新聞を読む(1)
- 第6回 日本経済新聞を読む(2)
- 第7回 需要と供給(1)
- 第8回 需要と供給(2)
- 第9回 市場メカニズム(1)
- 第10回 市場メカニズム(2)
- 第11回 なぜ政府が必要なのか(1)
- 第12回 なぜ政府が必要なのか(2)
- 第13回 パソコン実習(1)
- 第14回 春学期のまとめ
- 第15回 秋学期のガイダンス
- 第16回 パソコン実習(2)
- 第17回 パソコン実習(3)
- 第18回 パソコン実習(4)
- 第19回 景気について(1)
- 第20回 景気について(2)
- 第21回 お金の動き(1)
- 第22回 お金の動き(2)
- 第23回 税金と財政(1)
- 第24回 税金と財政(2)
- 第25回 環境と経済(1)
- 第26回 環境と経済(2)
- 第27回 環境と経済(3)
- 第28回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 20% レポート 20% 出席 60%

(注意事項)

出席することは前提です。

社会常識やマナーを守って行動しない場合(私語、睡眠、携帯(メール)、飲食、遅刻、途中退出、内職、無断欠席等)は除籍いたします。

その上で、演習に対する取り組みの積極性(ただじっと座っているだけでは評価しません)、出席、報告、討論、レポート、テストにより総合的評価します。

【参考文献】

第1回講義の際に、受講生と相談の上、テキストを決定する。参考文献は、適宜紹介する。

科目名	クラス	講義区分
演習 I 15 <通期>		
前田	治郎	4単位

【講義概要】

大学での学習スタイルは、高校までのそれとは大きく異なっており、とまどう人も多い。たとえば、決まった答えのない問題(だからこそ研究に値する)を取り上げ、自分独自の見解を見つけだしたり、レジュメ(概要)を提示して自分の意見をわかりやすく説明するプレゼンテーション能力が求められたりする。この演習では、新聞記事を素材にして、まず全員で要旨や論点の整理の仕方を勉強した後、参加者各人に興味のあるテーマ設定をしてもらい、その報告を積み上げた上で最後にレポート作成をもらう。

【学習目標】

インターネットをはじめ、我々は溢れるような情報にさらされている。その中から有益なもの、必要なものを整理し、身につける術を学べば、社会や経済を観る目が鍛えられるはずである。こうした能力を、実際の作業を通じて向上させたい。

【講義計画】

- 第1回 講義概要の説明
- 第2回 図書館、情報センターなどのガイダンス
- 第3回 図書館、情報センターなどのガイダンス
- 第4回 図書館、情報センターなどのガイダンス
- 第5回 主要新聞の2009年年頭社説の読み比べ
- 第6回 主要新聞の2009年年頭社説の読み比べ
- 第7回 主要新聞の2009年年頭社説の読み比べ
- 第8回 主要新聞の2009年年頭社説の読み比べ
- 第9回 重要問題に関する各社社説の読み比べ
- 第10回 重要問題に関する各社社説の読み比べ
- 第11回 重要問題に関する各社社説の読み比べ
- 第12回 重要問題に関する各社社説の読み比べ
- 第13回 重要問題に関する各社社説の読み比べ
- 第14回 重要問題に関する各社社説の読み比べ
- 第15回 各自のテーマ設定
- 第16回 各自のテーマ設定
- 第17回 設定テーマに関する報告の積み重ね
- 第18回 設定テーマに関する報告の積み重ね
- 第19回 設定テーマに関する報告の積み重ね
- 第20回 設定テーマに関する報告の積み重ね
- 第21回 設定テーマに関する報告の積み重ね
- 第22回 設定テーマに関する報告の積み重ね
- 第23回 設定テーマに関する報告の積み重ね
- 第24回 設定テーマに関する報告の積み重ね
- 第25回 設定テーマに関する報告の積み重ね
- 第26回 設定テーマに関する報告の積み重ね
- 第27回 設定テーマに関する報告の積み重ね
- 第28回 講義のまとめ

【成績評価の方法】

レポート 40% 出席 60%

出席状況や授業態度などの平常評価と、最後に提出するレポートとを総合して評価する。

科目名 クラス 講義区分	
演習 I 16 < 通期 >	
松尾 純	4 単位

【講義概要】

学習目標と授業計画を参照して下さい。

【学習目標】

いま、皆さんは、大学の経済学部に入學したけれども、これから先、どんな生活をおくり、どのように勉学していけば、卒業に必要な単位を無事取得でき、そして 4 年後に結果として、どのような未来が開け、どのような職につくことができるのか、いろいろと心配されていることでしょう。

この演習 I は、皆さんのそのような不安を解消して、出来るだけ早く大学生活に馴染むことができるように、いろいろな手助けをする場です。

この演習 I が、学生生活一般・勉学・課外活動などの不安や心配事について、なんでも話し合える場になるようにしたいと思います。

【講義計画】

- 第 1 回 演習 I 全体の概説。授業の進め方・成績評価の方法等のガイダンス。
- 第 2 回 大学生活に馴染むためのプログラム——①。キャンパス見学。
- 第 3 回 同上——②。カリキュラム・ガイダンス。
- 第 4 回 同上——③。情報センターに行って E-Mail・インターネット等を使えるようになる。
- 第 5 回 同上——④。図書館を上手に利用し情報を効率的に取得・利用できるようになる。
- 第 6 回 最近話題の社会問題について話し合ってみよう I——①。
(6 回程度)
教師が提供する新聞・雑誌記事をテーマにディスカッションしてみよう。
話し合ったことの要約 (=レジュメ) を作成してみよう。
- 第 7 回 同上——②。
- 第 8 回 同上——③。
- 第 9 回 同上——④。
- 第 10 回 同上——⑤。
- 第 11 回 同上——⑥。
- 第 12 回 最近話題の社会問題について話し合ってみよう II——①。
(6 回程度)
学生が提供する新聞・雑誌記事をテーマにディスカッションしてみよう。
話し合ったことの要約 (=レジュメ) を作成してみよう。
- 第 13 回 同上——②。
- 第 14 回 同上——③。
- 第 15 回 同上——④。
- 第 16 回 同上——⑤。
- 第 17 回 同上——⑥。
- 第 18 回 授業の中間総括。
- 第 19 回 研究テーマを設定して共同研究をやってみよう III——①。
(6 回程度)
学生数人がグループでテーマを設定して、共同研究をして、その研究結果を 報告し、討論をしてみよう。
- 第 20 回 同上——②。
- 第 21 回 同上——③。
- 第 22 回 同上——④。
- 第 23 回 同上——⑤。
- 第 24 回 同上——⑥。
- 第 25 回 共同研究のレポートを作成をしよう IV——①レポートの書き方を学ぶ。
- 第 26 回 同上——②レポートを実際書いてみる。
- 第 27 回 同上——③レポートを完成させる。
- 第 28 回 演習 I 全体の総括。

【成績評価の方法】

試験 0% レポート 50% 出席 50%
出席回数や報告担当者になった場合の報告内容などの平常評価と学期末に提出してもらう共同研究のレポートとを総合評価する。

科目名 クラス 講義区分	
演習 I 17 < 通期 >	
吉田 恵子	4 単位

【講義概要】

経済にかかわる文書を配布もしくはビデオ教材を視聴し、1000 字程度のレポートをまとめてもらう。作成したレポートでもって出席とする。

【学習目標】

経済学の基礎知識と、論理的な文章を作成する技能の習得がこの講義の学習目標である。

【講義計画】

- 第 1 回 インTRODakション：自己紹介
- 第 2 回 経済学とは何か
- 第 3 回 経済ニュースを理解する
- 第 4 回 文章を読む 1
- 第 5 回 文章を読む 2
- 第 6 回 文章を読む 3
- 第 7 回 文章を読む 4
- 第 8 回 文章を書く 1
- 第 9 回 文章を書く 2
- 第 10 回 文章を書く 3
- 第 11 回 文章を書く 4
- 第 12 回 論理的な文章とは
- 第 13 回 論理的な文章を書く 1
- 第 14 回 論理的な文章を書く 2
- 第 15 回 論理的な文章を書く 3
- 第 16 回 日経新聞を読む 1
- 第 17 回 日経新聞を読む 2
- 第 18 回 日経新聞を読む 3
- 第 19 回 日経新聞を読む 4
- 第 20 回 時事問題 1
- 第 21 回 時事問題 2
- 第 22 回 時事問題 3
- 第 23 回 時事問題 4
- 第 24 回 データを読み解く 1
- 第 25 回 データを読み解く 2
- 第 26 回 データを読み解く 3
- 第 27 回 データを読み解く 4
- 第 28 回 データを読み解く 5
- 第 29 回 まとめ
- 第 30 回 テスト

【成績評価の方法】

出席 100%
毎回指定するレポート提出したことで出席とする。

科目名 クラス 講義区分	
演習 I 18 <通期>	
吉 田 恵 子	4 単位

【講義概要】

経済にかかわる文書を配布もしくはビデオ教材を視聴し、1000字程度のレポートをまとめてもらう。作成したレポートでもって出席とする。

【学習目標】

経済学の基礎知識と、論理的な文章を作成する技能の習得がこの講義の学習目標である。

【講義計画】

- 第1回 イントロダクション：自己紹介
- 第2回 経済学とは何か
- 第3回 経済ニュースを理解する
- 第4回 文章を読む1
- 第5回 文章を読む2
- 第6回 文章を読む3
- 第7回 文章を読む4
- 第8回 文章を書く1
- 第9回 文章を書く2
- 第10回 文章を書く3
- 第11回 文章を書く4
- 第12回 論理的な文章とは
- 第13回 論理的な文章を書く1
- 第14回 論理的な文章を書く2
- 第15回 論理的な文章を書く3
- 第16回 日経新聞を読む1
- 第17回 日経新聞を読む2
- 第18回 日経新聞を読む3
- 第19回 日経新聞を読む4
- 第20回 時事問題1
- 第21回 時事問題2
- 第22回 時事問題3
- 第23回 時事問題4
- 第24回 データを読み解く1
- 第25回 データを読み解く2
- 第26回 データを読み解く3
- 第27回 データを読み解く4
- 第28回 データを読み解く5
- 第29回 まとめ
- 第30回 テスト

【成績評価の方法】

出席 100%
毎回指定するレポート提出したことで出席とする。

「演習ⅡA」クラス・研究テーマ一覧

クラス	担当者	研究テーマ
01	阿部 秀二郎	経済学で考える
02	大澤 健	グローバル化
03	佐々木 和子	「食べ物」を考える①
04	谷口 和久	私たちの生活と経済学
05	松本 誠	地域政策とまちづくりを考える（自分を語る能力を身につける）
06	三原 裕子	格差について考えてみよう（その1）
07	山田 雄久	日本人の仕事について考える
08	吉川 真裕	株式投資を学ぶ（1）
09	吉川 真裕	金持ち父さんに学ぶ（1）
10	木村 二郎	米国経済社会と貧困
11	津田 直則	環境の危機、システムの危機、人間性の危機
12	中村 勝之	KJ法的文章理解法（その1）
13	西川 憲二	経済入門1
14	鈴木 健	新聞を読んで世界と日本の経済について勉強しよう
15	矢根 眞二	経済学で人生相談

科目名	クラス	講義区分
演習Ⅱ A 01 <春>		
阿部 秀二郎	2単位	

【講義概要】

この授業では、1年生で培われた基礎的な知識を利用して、少しずつ発展的に勉強をします。少人数という特徴を利用して、経済学を利用して、個人的な能力の向上を目指します。

【学習目標】

基本的なテキストを読み、書き、批判的に考えられる能力の獲得を目指します。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション：授業の説明、授業の進め方、成績評価についての考え方の提示と議論
- 第2回 書く能力の向上1
- 第3回 書く能力の向上2
- 第4回 書く能力の向上3
- 第5回 読む能力の向上1
- 第6回 読む能力の向上2
- 第7回 読む能力の向上3
- 第8回 グループワーク
- 第9回 話す能力の向上1
- 第10回 話す能力の向上2
- 第11回 検索方法についての講義
- 第12回 グループでの検索1
- 第13回 グループでの検索2
- 第14回 グループでの報告
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

成績評価については、初回のオリエンテーションのときに、私が考え方を提示します。その考え方について、議論をして決定します。

【教科書】

ロバート・H・フランク 日常の疑問を経済学で考える 日本経済新聞出版社
少し高いのですが、投資と考えて購入してください。

科目名	クラス	講義区分
演習Ⅱ A 02 <春>		
大澤 健	2単位	

【講義概要】

21世紀の経済を語るときに、最も重要なキーワードは「グローバリゼーション」です。この講義では、グローバリゼーションを素材にしながら、現在の経済について考えていきます。
この講義は、ゼミ形式で行います。

【学習目標】

グローバリゼーションについての基礎的な知識を習得するとともに、「コミュニケーション能力」の向上を目指しています。「内容を理解する」「まとめる」「伝える」「議論する」といった基本的な能力を身につけることで、コミュニケーションを通じて「考え」を発展させる方法を習得しましょう。

【講義計画】

- 第1回 自己紹介およびガイダンス
- 第2回 グローバリゼーションについてのキーワード
- 第3回 グローバリゼーションについてのキーワードの調査
- 第4回 調査結果のプレゼンテーション①
- 第5回 調査結果のプレゼンテーション②
- 第6回 ビデオ視聴
- 第7回 ビデオについての論点調査
- 第8回 調査結果のプレゼンテーション①
- 第9回 調査結果のプレゼンテーション②
- 第10回 ビデオ視聴
- 第11回 ビデオについての論点調査
- 第12回 調査結果のプレゼンテーション①
- 第13回 調査結果のプレゼンテーション②
- 第14回 調査結果のプレゼンテーション③
- 第15回 春学期のまとめ

【成績評価の方法】

試験 0% レポート 40% 出席 60%
レポートは講義時間内でまとめてもらいます。

【教科書】

特に用いません。

科目名 クラス 講義区分	
演習Ⅱ A 03<春>	
佐々木 和子	2単位

【講義概要】

テーマは、「食べる」ことを考える。
 春学期は「食と価格」に焦点をあてる。
 私たちは、「食べる」ことなしでは、生きていけない。
 「食」を取り巻く現状を自らの生活を通して、認識し、
 自分たちの足元からの問題点の解決方法を探る。

【学習目標】

- 1、自らの生活の中で、問題点をみつける。
- 2、問題点と日本社会の現状をリンクさせて考察する能力を育てる。
- 3、統計、資料によって、現状分析をおこなう。
- 4、調査内容を人に伝える。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
 以下の計画やテキスト、参考文献について説明し、
 今後の進め方を履修者とともに考える。
 ただ、演習であるので、授業計画は進行状況に応じて変更
 することがある。
- 第2回 自らの食生活についての考察
 第3回 ワークショップ
 第4回 質疑・討論
 第5回 テキスト輪読1
 第6回 テキスト輪読2
 第7回 テキスト輪読3
 第8回 テキストについての質疑・討論
 第9回 日本の食料問題についての考察
 第10回 ワークショップ
 第11回 ワークショップ
 第12回 ワークショップ
 第13回 研究発表
 第14回 総合討論

【成績評価の方法】

出席・課題提出・ゼミ発表など平常点を重視する。

【教科書】

西日本新聞社「食 暮らし」取材班著 食卓の向こう側 キャンパス
 編 西日本新聞社

【参考文献】

山本 謙治『日本の「食」は安すぎる』講談社+α新書、2008年
 神門 善久『日本の食と農 日本の〈現代〉危機の本質』NTT出版、
 2006年
 中田 哲也『フード・マイレージ あなたの食が地球を変える』
 日本評論社、2007年
 小笠原 喜康『インターネット完全活用編大学生のためのレポ
 ート・論文術』講談社現代新書、2003年

科目名 クラス 講義区分	
演習Ⅱ A 04<春>	
谷口和久	2単位

【講義概要】

ありふれた日常生活での実感を大切にして、経済学で学んだことが
 どのようにいかされているか。あるいは、逆に、経済学で学んだこ
 とが日常生活のどの部分に関連しているのか。自分の感覚を大切に
 して、学問としての経済学を考えていきます。

【学習目標】

基本的には、テキストの輪読と報告という形式で進め、必要に応じ
 て関連文献も読んでもらいます。分からない点は、積極的に自分で
 図書館の文献などを調べ、報告の要旨を作成し、発表してもらいま
 す。能動的・積極的に参加することで、調査・報告・発表の力が自
 然と養われていきます。ただ座って他の発表者の報告を聞いている
 だけでは力がつきません。そこが、演習が講義とは異なる点で、ま
 たおもしろいところです。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
 第2回 テキストの輪読と報告
 第3回 テキストの輪読と報告
 第4回 テキストの輪読と報告
 第5回 テキストの輪読と報告
 第6回 テキストの輪読と報告
 第7回 テキストの輪読と報告
 第8回 テキストの輪読と報告
 第9回 テキストの輪読と報告
 第10回 テキストの輪読と報告
 第11回 テキストの輪読と報告
 第12回 テキストの輪読と報告
 第13回 テキストの輪読と報告
 第14回 テキストの輪読と報告

【成績評価の方法】

レポート 50% 出席 50%
 積極的な参加を重視します

【教科書】

安富歩 生きるための経済学 日本放送協会

科目名 クラス 講義区分	
演習Ⅱ A 05 <春>	
松本 誠	2単位

【講義概要】

21世紀社会は、地方自治体を中心とした分権型社会が日本でも急激に進む。その中心的課題となるのは、地域が自立できる地域政策と住民主体のまちづくりを進める住民自治である。

こうした、新しい地域政策とまちづくりを進めるための課題は何か。本演習では、新しい地域政策のあり方を学び、新しいまちづくりに取り組んでいく課題を、多彩な実践事例から学ぶことをめざす。

【学習目標】

担当教員は長年にわたり新聞記者として地域づくり、まちづくり、地方自治の現場をジャーナリストの視点から観察し、報道・評論するとともに、市民が担うまちづくり活動を実践してきた。幅広い視野から、新しい社会のあり方や学生諸君のアプローチの仕方とともに学び、力をつけていきたい。

授業の中では、作文やレポートの書き方を習熟するための添削指導なども重視し、社会人としての基礎的素養も身に付けることを目標とする。

【講義計画】

第1回 本演習では、上記の目標を達成するために、以下のプロセスによって演習を進める。

1. テキストを読み込みながら、ポイントを整理する。
2. 各回の演習ごとに、その回の担当者が担当した部分をレジュメにまとめて報告する。
3. 報告を聞いて、出席者全員で問題点や疑問点を出し合い、質疑応答の形で議論を進める
4. 教員が報告内容や出席者の発言に対してアドバイスや解説を行い、その日のテーマを確認する。
5. 報告者は、その日の議論を集約し、次回の演習の際に文書にまとめて報告する。
6. 学生諸君の日程の都合がつけば、街に出て暮らしの現場からの学び方を体験するフィールド学習も行う。

第2回 テキストを輪読し、各章、各節ごとに発表者がレポートし、内容について理解と身近な問題に敷衍させて議論していく。

第3回 したがって、各回のテーマや課題の設定は、演習Ⅱ出席したメンバーの人数や希望等によって柔軟に決めていく。

第4回 テーマは、地域のまちづくりを進めていくための市民の役割や課題、具体的な実践を学ぶ。

【成績評価の方法】

試験 0% レポート 50% 出席 50%

期末のレポートのほか、授業中の発表や理解度等を加味して評価する。

【教科書】

田村 明 まちづくりの実践 岩波新書
神野直彦 地域再生の経済学 中公新書

【参考文献】

田村 明著 「まちづくりの発想」(岩波新書)
地域情報会議編著 「地域の価値を創る」(時事通信社)
川村健一+小門裕幸著 「サステイナブル・コミュニティ」(学芸出版社)
松本 誠著 「市民が変える明石のまち」(文理閣)

科目名 クラス 講義区分	
演習Ⅱ A 06 <春>	
三原 裕子	2単位

【講義概要】

みなさんは「格差」という単語からどのようなイメージを連想しますか？中には正規社員と（現在大問題になっている）非正規社員、さらにはニート、はたまた裕福な親を持つ子どもとそうでない子ども、を連想する人は多いのではないのでしょうか。では、「格差って何ですか？」と問われたら、答える事はできるのでしょうか？

昨今、「格差」という言葉がマスメディアを騒がせています。この「格差」とは一体何なのでしょう。「格差」という問題を考えるにあたっては、どうしても感情が入ってしまいます。なぜならば、自分は所得のうえで貧しいな、という実感は他者との比較において生じるからであり、その意味で格差問題には感情がつきまとい、感情が入る限りにおいて未来永劫「格差」はなくなるまいでしょう。しかし、感情で語るがゆえに「格差」という問題があまりにも一人歩きしているような気が（私自身）してなりません。

そこで、この演習では「格差」を冷静に、かつ出来る限り客観的に眺めてみる事を目的とします。そのために、まずは新書やテキストを用いて、格差とは何なのか、さらに格差とはどのように測る事ができるのか、という事から整理していきます。

【学習目標】

本講義の目標は、「格差」という問題（1つのお題を徹底的に）を調べ、さらに自分の意見を整理して、討論する事を通じて、自分自身が問題整理の際に欠けている点を発見してもらう事を目的とします。

【講義計画】

第1回 ガイダンス—今後の予定を中心に説明—

第2回 「格差」についてのイメージをみんなでまとめてみよう

第3回 実際に、「格差」とは何によって測られているのかを調べてみよう

第4回 「格差」に関する新聞記事を調べてみる

第5回 「格差」に関する新聞記事を読んでみる

第6回 「格差」に関する新聞記事を読んでみる

第7回 「格差」に関する新聞記事を読んでみる

第8回 「格差」について、他者の意見を新書を通じて調べてみる

第9回 「格差」について、他者の意見を新書を通じて調べてみる

第10回 「格差」について、他者の意見を新書を通じて調べてみる

第11回 「格差」について、他者の意見を新書を通じて調べてみる

第12回 「格差」について、他者の意見を新書を通じて調べてみる

第13回 「格差」について、他者の意見を新書を通じて調べてみる

第14回 「格差」について、他者の意見を新書を通じて調べてみる

【成績評価の方法】

成績評価としては、出席点を3割程度で考慮し、その残りは出席態度および報告姿勢等により評価します。

【参考文献】

1回目のガイダンスにて、紹介します。

【備考】

授業計画のペースおよび内容は、受講生の人数等によって変更される場合があります。

科目名 クラス 講義区分	
演習Ⅱ A 07 <春>	
山田 雄久	2単位

【講義概要】

私たちが社会でどのような仕事を行い、経済活動を行うべきかを考えるため、労働経済の理論にもとづいて、戦前から日本企業の一員として活動してきた日本人の仕事に対するあり方と働き方について、歴史的に振り返りつつ学びます。とくにブルーカラーからホワイトカラーへと仕事の内容やスキルのあり方も大きく変化しつつある21世紀において、グローバル化が進む時代の日本企業がいかなる労働力を求め、必要としているのかを考えながら、仕事の実態についてディスカッションを行います。

【学習目標】

演習では、現代社会で問題となっている派遣社員や雇用契約についてもテーマに取り上げて、学生の皆さんが自由な立場から意見を出して考えることを目標とします。ガイダンスの時間には、取り上げるべきテーマを出し合って、参加者が関心を持つ内容にそって授業計画を作成します。次に設定したテーマについて、担当するグループを決定し、授業時間に段階的にディスカッションを進めていき、テーマの論点を絞り込みます。ビデオや雑誌記事などを援用しながら、ジャーナリスティックな方面からの意見や考え方についても積極的に活用して考察を深めます。担当したテーマについて、授業の最終時間までにメンバーが共同で簡単なレポートを作成し、演習のまとめを行います。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス(演習の目的)
参加希望者による自己紹介、演習に対する希望
テーマの候補、担当者決定
スケジュールについての相談
- 第2回 テーマについて(グループワーク)
- 第3回 テーマに関する報告A(グループ1)
- 第4回 テーマに関する報告A(グループ2)
- 第5回 テーマに関する報告A(グループ3)
- 第6回 テーマに関する報告B(グループ1)
- 第7回 テーマに関する報告B(グループ2)
- 第8回 テーマに関する報告B(グループ3)
- 第9回 テーマに関する報告C(グループ1)
- 第10回 テーマに関する報告C(グループ2)
- 第11回 テーマに関する報告C(グループ3)
- 第12回 テーマに関するレポートについて
- 第13回 レポート報告会
- 第14回 レポートの修正・提出
- 第15回 演習テーマのまとめ

【成績評価の方法】

試験 0% レポート 30% 出席 70%
参加状況と報告内容、発言内容にもとづいて評価を行います。
なお、無断欠席は厳禁とし(参加態度として成績評価に反映させるため)、欠席時には必ず事前(または事後)の連絡をお願いします。

【教科書】

大竹文雄編『こんなに使える経済学』ちくま新書

【参考文献】

関連する文献について、授業中に随時紹介します。

科目名 クラス 講義区分	
演習Ⅱ A 08 <春>	
吉川 真裕	2単位

【講義概要】

株式会社や株式市場、株式投資を理解することは現代の社会を理解する上で不可欠だけでなく、安定した老後の生活を送るためにもなくてはならないものである。銀行預金や国債だけではインフレの生じやすい現代の世の中で長期にわたって購買力を保持することは困難である。また、リスクをとらない活動ばかりでは経済成長も限られてしまう。株式投資はギャンブルにもなるが、使い方を間違わなければ有利な資産運用方法であり、そのことを知っているのといかないのでは大きな差がついてしまう。

授業はグループごとに分かれて指定するテーマに関する発表をしてもらい、その内容について議論していく形で進める。それと同時に、各自に株式投資のシュミレーションを行ってもらい、株式投資シュミレーション結果の発表を各自に行ってもらおう。

【学習目標】

株式会社の仕組みや株式市場の仕組みを理解し、インターネットを使ったシュミレーション(投資ゲーム)を通じて株式投資を自分で行えるようになることを目標とする。

【講義計画】

- 第1回 グループ分けを行い、バーチャル株式投資ゲームの説明をする。
- 第2回 株式会社の仕組み
- 第3回 株式市場の仕組み
- 第4回 ファンダメンタル分析(1)株主資本利益率
- 第5回 ファンダメンタル分析(2)配当利回り
- 第6回 ファンダメンタル分析(3)株価収益率
- 第7回 ファンダメンタル分析(4)株価純資産倍率
- 第8回 インターネット・セミナー(1)
- 第9回 テクニカル分析(1)ローソク足
- 第10回 テクニカル分析(2)移動平均
- 第11回 テクニカル分析(3)サイコロジカル・ライン
- 第12回 テクニカル分析(4)相対力指数
- 第13回 インターネット・セミナー(2)
- 第14回 株式投資ゲーム結果の発表

【成績評価の方法】

授業態度によって評価する。バーチャル株式投資ゲームの結果の発表を義務付ける。

科目名 クラス 講義区分	
演習Ⅱ A 09 <春>	
吉川 真裕	2単位

【講義概要】

世界的なベストセラーであるロバート・キヨサキの『金持ち父さん』シリーズの一冊をテキストとして、各自に発表してもらい、その内容について議論する。そして、テキストの考え方をより深く理解するために、著者が考案したボードゲーム『キャッシュフロー101』を全員でプレイしてもらう。

【学習目標】

「よく勉強して、良い学校を出て、良い会社に勤めることがお金持ちになることにはつながらない」という著者の主張は、勉強しなくてもお金持ちになれるということではない。学校では教えられない「お金」に関する勉強が必要であるというのが著者の主張である。著者の言う「金持ち父さんの世界」を理解することを目標とする。

【講義計画】

- 第1回 ダビデはなぜ巨人ゴリアテに戦いを挑んだか
- 第2回 若くして豊かに引退する方法
- 第3回 なぜできるだけ早く引退するのがいいのか
- 第4回 私はこうやって早期引退を実現した
- 第5回 どうしたら早く引退できるか
- 第6回 頭脳のレバレッジで現実を広げる
- 第7回 あなたは何が危険だと思うか
- 第8回 仕事量を減らして収入を増やす
- 第9回 金持ちになる一番の近道
- 第10回 ボードゲーム『キャッシュフロー101』
- 第11回 ボードゲーム『キャッシュフロー101』
- 第12回 ボードゲーム『キャッシュフロー101』
- 第13回 ボードゲーム『キャッシュフロー101』
- 第14回 ボードゲーム『キャッシュフロー101』

【成績評価の方法】

授業態度によって評価する。
事前にテキストを読んできて、議論に参加することが単位取得の条件であるので、意欲のある学生の参加を望む。

【教科書】

ロバート・キヨサキ、シャロン・レクター『金持ち父さんの若くして豊かに引退する方法』筑摩書房
演習Ⅱ B (09) と同じテキスト

【参考文献】

- 『金持ち父さん 貧乏父さん』筑摩書房、2000年。
 - 『金持ち父さんのキャッシュフロー・クワドラント』筑摩、2001年。
 - 『金持ち父さんの投資ガイド 入門編』筑摩、2002年。
 - 『金持ち父さんの投資ガイド 上級編』筑摩、2002年。
 - 『金持ち父さんの子供はみんな天才』筑摩、2002年。
 - 『金持ち父さんの予言』筑摩、2004年。
 - 『金持ち父さんの金持ちになるガイドブック』筑摩、2004年。
 - 『金持ち父さんのサクセス・ストーリーズ』筑摩、2004年。
 - 『金持ち父さんのビジネススクール セカンドエディション』マイクromaマガジン、2004年。
 - 『金持ち父さんのパワー投資術』筑摩、2005年。
 - 『金持ち父さんの学校では教えてくれないお金の秘密』筑摩、2006年。
 - 『金持ち父さんの起業する前に必ず読む本』筑摩、2006年。
 - 『金持ち父さんの金持ちがますます金持ちになる理由』筑摩、2008年。
 - 『金持ち父さんのファイナンシャルIQ』筑摩、2008年。
- 以下のサイトに最新の情報がある。
英語ホームページ (<http://www.richdad.com>)
日本語ホームページ (<http://richdad-jp.com/top.html>)

科目名 クラス 講義区分	
演習Ⅱ A 10 <春>	
木村 二郎	2単位

【講義概要】

テキストの輪読を中心にして、米国の格差・貧困問題を学習する。そして、関連のテーマ（日本の格差・貧困問題など）を班ごとに設定して、資料検索・分析作業ののち、研究レポートの発表を行う。なお、テーマ以外に、キャリアについて学び、また、世界市民としての感性を磨く機会を設ける。授業計画は、諸事情により変更することがある。

【学習目標】

現代の格差・貧困問題の本質を理解する。班別の共同研究を通じて、問題を多面的に考察する能力を身につける。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス：班分け、自己紹介、スケジュール決定
- 第2回 文献検索ガイダンス
- 第3回 パワーポイント使用方法
- 第4回 キャリアについて考える
- 第5回 交換留学生との交流会
- 第6回 テキスト輪読：担当班がレジメ作成・発表、全体で討論
- 第7回 テキスト輪読：担当班がレジメ作成・発表、全体で討論
- 第8回 テキスト輪読：担当班がレジメ作成・発表、全体で討論
- 第9回 テキスト輪読：担当班がレジメ作成・発表、全体で討論
- 第10回 テキスト輪読：担当班がレジメ作成・発表、全体で討論
- 第11回 研究レポートの発表
- 第12回 研究レポートの発表
- 第13回 研究レポートの発表
- 第14回 まとめ

【成績評価の方法】

演習参加態度、発表やレポートの内容、試験などの総合評価（出席は前提）

【教科書】

堤未果 ルボ 貧困大国アメリカ 岩波書店

科目名 クラス 講義区分	
演習Ⅱ A 11 <春>	
津田直則	2単位

【講義概要】

- 1) 与えられたテーマについてインターネット記事を読んで要約しまとめるとともに自分の意見を述べる。
- 2) 取り上げるテーマは、世界中の資源・環境・エネルギー・水・食料・農業問題のトピックス
- 3) 作成した文章はファイルに残し、いくつかのファイルをつなげていく。
- 4) ファイルをつなげ最終レポートを作成する。

【学習目標】

- 1) 資料を読む力とまとめて「書く力」を養う。
- 2) レポートを「体系的に編集する力」や「考える力」を養う。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション：
 ①授業概要、学習目標、スケジュール、成績評価についての説明
 ②自己紹介
 ③レポートの体系的編集方法の説明
 ④情報検索の学習（新聞、雑誌、インターネット、書籍）
- 第2回 資源・環境・エネルギー問題第1回
 第3回 資源・環境・エネルギー問題第2回
 第4回 資源・環境・エネルギー問題第3回
 第5回 資源・環境・エネルギー問題第4回
 第6回 レポート発表と討論
 第7回 水・食料・農業問題第1回
 第8回 水・食料・農業問題第2回
 第9回 水・食料・農業問題第3回
 第10回 水・食料・農業問題第4回
 第11回 レポート発表と討論
 第12回 最終レポート作成
 第13回 最終レポート作成
 第14回 ふりかえりと反省会

【成績評価の方法】

試験 0% レポート 40% 出席 60%
 授業中に作成した文章はそのつどプリントアウトして提出する。ここでいうレポートとはプリントアウトして提出した文章のことをいう。

【教科書】

なし

【参考文献】

雑誌記事、新聞記事、インターネット情報が授業のための資料。

科目名 クラス 講義区分	
演習Ⅱ A 12 <春>	
中村勝之	2単位

【講義概要】

「暇」であるのは人間最大の武器である。暇だからこそ色々な事にチャレンジできるし、色々な考えも湧いてくる。持て余す位ならば暇なんぞいらぬ。1年かけて「本を読む」トレーニングを積んでみないか。この演習はそのために提供される。
 この演習での目標は2つ。参加者が(1)論理&推理力を獲得する。(2)コトバの真の意味を体得する。これらは今後のあらゆる局面で必ず必要になる。それを今のうちから身につけておこう。

【学習目標】

- ここで使用するテキストを通じて、
- ①勉強に対する自身の取るべきスタンス
 - ②時間配分の重要性
- この点は最低限押さえて行きたい。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
 ※この演習を通じて「KJ法」という手法を用いる。具体的にはテキストの該当箇所を精読し、その中から「キーワード」を考えられるだけあげてもらい。次にあげたキーワードから、幾つかの共通項で「グループ化」する作業を行う。最後にグループ化された共通項を論旨にそって結びつけ、それを「フローチャート」という絵にしていく。
 ※これら一連の作業は参加者全員で行う。そのため参加状況によって演習の進行が変わってくる。

【成績評価の方法】

試験 100%
 基本は、演習初期段階と最終段階で行われる「テスト」の出来栄で評価する。

【教科書】

渡部昇一 知的生活の方法 講談社現代新書436

【参考文献】

- 川喜田二郎 (1967) 『発想法』中公新書136
 川喜田二郎 (1970) 『続・発想法』中公新書210

【備考】

演習情報についてはホームページ (<http://rio.andrew.ac.jp/~nakamura/>) を参照すること。

科目名 クラス 講義区分	
演習Ⅱ A 13 <春>	
西川 憲二	2単位

【講義概要】

人前での発表が苦手な人、コミュニケーションに自信がない人、働くということの実感がわからない人、経済学が身近でない人のための演習です。ビデオと経済記事を教材として、発表、議論、要約をしていきます。

【学習目標】

経済問題について、考える力、発表する力を向上させることを目標とする。

【講義計画】

- 第1回 授業の進め方
- 第2回 ビデオ教材の選択
- 第3回 ビデオをみて議論し要約する
- 第4回 ビデオをみて議論し要約する
- 第5回 ビデオをみて議論し要約する
- 第6回 ビデオをみて議論し要約する
- 第7回 ビデオをみて議論し要約する
- 第8回 ビデオをみて議論し要約する
- 第9回 ビデオをみて議論し要約する
- 第10回 新聞の経済記事から発表と要約
- 第11回 新聞の経済記事から発表と要約
- 第12回 新聞の経済記事から発表と要約
- 第13回 新聞の経済記事から発表と要約
- 第14回 新聞の経済記事から発表と要約

【成績評価の方法】

レポート 30% 出席 70%
発表、レポート、出席

科目名 クラス 講義区分	
演習Ⅱ A 14 <春>	
鈴木 健	2単位

【講義概要】

現代の資本主義経済は過剰な金融化によって特徴付けられる。07年以降、アメリカ発金融危機が世界を覆い、1930年代以来の世界大恐慌の勃発さえ懸念される状況にあるが、もじどおり、金融化した経済の行き着く姿がそこにある。「百年に一度」ともいわれる金融危機の真つ只中であつて、事態の推移を逐一観察できる時代に生きていることは、あえて言えば僥倖と言うべきである。本演習では、アメリカ発金融危機をとりあげ、経済の金融化の異常な現状について、事実即して検討を加えることにする。

【学習目標】

本演習の獲得目標は、新聞の経済記事ならどれを読んでも、そこに書かれていることの7割は理解できると言えるだけの経済感覚(知識だけではない)を身につけてもらうことである。経済現象を受け止める敏感な感性を養い、できるだけ多くの経済知識を身につけ、そして蓄積した経済的理解を、口頭で、文章で人に伝えるという力である。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
「金融化」の話ー第1回
- 第2回 「金融化」の話ー第2回
- 第3回 「金融化」の話ー第3回
- 第4回 「金融化」の話ー第4回
- 第5回 新聞記事を読んで世界経済(金融化)について知るー第1回
- 第6回 新聞記事を読んで世界経済(金融化)について知るー第2回
- 第7回 新聞記事を読んで世界経済(金融化)について知るー第3回
- 第8回 新聞記事を読んで世界経済(金融化)について知るー第4回
- 第9回 新聞記事を読んで世界経済(金融化)について知るー第5回
- 第10回 新聞記事を読んで世界経済(金融化)について知るー第6回
- 第11回 新聞記事を読んで日本経済(金融化)について知るー第1回
- 第12回 新聞記事を読んで日本経済(金融化)について知るー第2回
- 第13回 新聞記事を読んで日本経済(金融化)について知るー第3回
- 第14回 新聞記事を読んで日本経済(金融化)について知るー第4回

【成績評価の方法】

演習に①出席し、②担当した報告を責任をもって行ったかどうか、③他の報告者の報告に質問に、積極的に討論に参加したかどうか、以上の点を勘案して評価する。①は無条件の前提であるから、欠席しても単位は大丈夫だろうなどと高を括ることのないように。

【参考文献】

大槻久志『金融化の災い』(新日本出版社、2008年)

【備考】

第1回から4回までは、担当者がレジュメを用意して講義を行う。第五回以降、演習参加者が新聞を見て報告する。各自の報告するテーマは担当者が指定する。

【講義概要】**【仮想テーマ】** 経済学DE人生相談ゲーム

経済学のキーワードを用いて人生相談風に書かれているテキストを選んだ場合、相談者からの悩みを解決する相談員を演じるロールプレイングゲームを通じて、論理的なコミュニケーション能力の養成と経済学の基礎知識の向上を目指すようなプログラムを想定しています

【学習目標】

社会生活に重要な「説得力のある話し方と論理的な質疑応答力」の養成が目標です。もし演習1のように多人数ならディベートゲームが最適ですが、(たぶん)少人数の演習2では代替ゲームや通常の輪読の方が負担が軽くなるでしょう。そこで具体的なスタイルは初回に希望を聞いて最終決定する予定ですが、いずれの形にせよ、積極的な討論を楽しめるようになることを学習の第一目標と考えています。

【講義計画】

第1回 1 演習スタイルとテキストの最終決定

初回は受講予定者の希望と人数の確認が重要になりますから、第1回目の授業は必ず研究室に集合して下さい。

以下は仮に上記ゲームに4名の希望者があったと仮想した場合のシナリオですから、受講者の要望や人数に応じて詳細は変化します。

第2回 ゲーム例「寿退社の女性はすべての送別会をゴチになって良いか？」

第3回 ゲームのマニュアル確認と担当者の割当・スケジュールの決定

第4回 PowerPoint ガイダンス

第5回 PowerPoint によるプレゼン資料の作成&印刷

第6回 ゲーム1 & ゲーム2

第7回 ゲーム3 & ゲーム4

第8回 経済学キーワードの再解説1 & プレゼンのポイント1

第9回 ゲーム5 & ゲーム6

第10回 ゲーム7 & ゲーム8

第11回 経済学キーワードの再解説2 & プレゼンのポイント2

第12回 ゲーム9 & ゲーム10

第13回 ゲーム11 & ゲーム12

第14回 演習総括

【成績評価の方法】

ゲーム上の相談員や相談者の役割の相互評価をベースにして総合評価します

【教科書】

西村和雄 満員御礼！経済学なんでもお悩み相談所 日経ビジネス人文庫

家族・人生・商売・男女の悩みに対して経済学の先生が(ケッコウ強引に?) 回答するというコンパクトで読みやすい文庫本ですが、希望する他のテキストがあれば変更可能なうえ人数確認もあるので、初回は必ず研究室(アンデレ館11階)に集合して下さい。

「演習ⅡB」クラス・研究テーマ一覧

クラス	担当者	研究テーマ
01	阿部 秀二郎	経済学で議論する
02	大澤 健	グローバルゼーション
03	佐々木 和子	「食べ物」を考える②
04	谷口 和久	制度と進化の経済学
05	松本 誠	地域政策とまちづくりを考える（自分を語る能力を身につける）
06	三原 裕子	格差について考えてみよう（その2）
07	山田 雄久	近代の大阪経済について考える
08	吉川 真裕	株式投資を学ぶ（2）
09	吉川 真裕	金持ち父さんに学ぶ（2）
10	木村 二郎	米国発金融危機と現代経済
11	津田 直則	環境の危機、システムの危機、人間性の危機
12	中村 勝之	KJ法的文章理解法（その2）
13	西川 憲二	経済入門2

科目名 クラス 講義区分	
演習ⅡB 01 <秋>	
阿部 秀二郎	2単位

【講義概要】

経済学について、議論します。したがって経済学の知識について、わからない場合には、調査し理解することが、基礎的な部分でできていることが必要です。

【学習目標】

経済学を使用して、他人と議論することが最終的で大きな目標です。そのために、わからないことは自分で調べる、または大きなテーマについては自分たちで調べ、議論し、結論を導出する能力の習得が目標です。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション：授業の説明、授業の進め方の説明、成績評価についての私の考え方の説明
- 第2回 読み書き能力の確認1
- 第3回 読み書き能力の確認2
- 第4回 グループニング
- 第5回 テキストの内容から、各グループの調査項目の分担決定
- 第6回 調査・検索についての講義
- 第7回 各グループの役割分担
- 第8回 各グループの調査1
- 第9回 各グループの調査2
- 第10回 途中報告・講評・ポイント
- 第11回 各グループの調査3
- 第12回 各グループの調査4
- 第13回 各グループの調査5
- 第14回 報告・講評
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

最初のオリエンテーションにおいて、成績評価の方法について、私の考え方を提示し、議論します。そして決定します。

【教科書】

ロバート・H・フランク 日常の疑問を経済学で考える 日本経済新聞出版社
 春学期と同じものを利用します。少し高いのですが、投資と考えると、購入してください。

科目名 クラス 講義区分	
演習ⅡB 02 <秋>	
大澤 健	2単位

【講義概要】

21世紀の経済を語るときに、最も重要なキーワードは「グローバルゼーション」です。この講義では、グローバルゼーションを素材にしながら、現在の経済について考えていきます。

【学習目標】

演習ⅡAで養成した基礎的能力の上に、「コミュニケーション能力」のさらなる向上を目指しています。「内容を理解する」「まとめる」「伝える」「議論する」といった基本的な能力を身につけることで、コミュニケーションを通じて「考え」を発展させる方法を習得しましょう。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンスと自己紹介
- 第2回 グローバリゼーションについての論点整理
- 第3回 論点の調査
- 第4回 調査結果のプレゼンテーション①
- 第5回 調査結果のプレゼンテーション②
- 第6回 グローバリゼーションについての基礎文献の講読
- 第7回 講読についてのプレゼンテーション①
- 第8回 講読についてのプレゼンテーション②
- 第9回 グローバリゼーションについての基礎文献の講読
- 第10回 講読についてのプレゼンテーション①
- 第11回 講読についてのプレゼンテーション②
- 第12回 レポートから論文への技術指導
- 第13回 最終調査結果のプレゼンテーション①
- 第14回 最終調査結果のプレゼンテーション②
- 第15回 秋学期のまとめと反省会

【成績評価の方法】

試験 0% レポート 40% 出席 60%
 レポートは講義時間内に作成してもらいます。

【教科書】

特に使いません。

科目名 クラス 講義区分	
演習ⅡB 03<秋>	
佐々木 和子	2単位

【講義概要】

テーマは、「食べる」ことを考える。
 秋学期は「生産地からの距離」に焦点をあてる。
 私たちは、「食べる」ことなしでは、生きていけない。
 「食」を取り巻く現状を自らの生活を通して、認識し、
 自分たちの足元からの問題点の解決方法を探る。

【学習目標】

- 1、自らの生活の中で、問題点を見つける。
- 2、問題点と日本社会の現状をリンクさせて考察する能力を育てる。
- 3、統計、資料によって、現状分析をおこなう。
- 4、調査内容を人に伝える。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
 春学期からの継続履修生がいるかどうかを確認し、今後の進め方を履修者とともに考える。
 ただ、演習であるので、授業計画は進行状況に応じて変更することがある。
- 第2回 自給率についての考察
 第3回 テキスト輪読1
 第4回 テキスト輪読2
 第5回 テキスト輪読3
 第6回 テキスト輪読4
 第7回 テキストについての質疑・討論
 第8回 自分たちの「食」とフードマイレージについての考察
 第9回 ワークショップ
 第10回 ワークショップ
 第11回 ワークショップ
 第12回 研究発表1
 第13回 研究発表2
 第14回 総合討論

【成績評価の方法】

出席・課題提出・ゼミ発表など平常点を重視する。

【教科書】

西日本新聞社「食くらし」取材班 食卓の向こう側 キャンパス編
 西日本新聞社

【参考文献】

- 末松広行『食料自給率の「なぜ?」』扶桑社、2008年
 神門 善久『日本の食と農 日本の〈現代〉危機の本質』NTT出版、2006年
 中田 哲也『フード・マイレージ あなたの食が地球を変える』日本評論社、2007年
 小笠原 喜康『インターネット完全活用編大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2003年

科目名 クラス 講義区分	
演習ⅡB 04<秋>	
谷口和久	2単位

【講義概要】

経済学には、様々な「学派」があり、学派が異なると経済学的な思考法が異なります。例えば、昨今の金融危機や失業の問題など、同じ経済現象であっても、それらへの対処の仕方は異なります。この演習では、経済学上のさまざまな問題を、代表的な学派をとりあげて、それぞれの学派にどのような特徴があるのか考えていきます。

【学習目標】

基本的には、テキストの輪読と報告という形式で進め、必要に応じて関連文献も読んでもらいます。分からない点は、積極的に自分で図書館の文献などを調べ、報告の要旨を作成し、発表してもらいます。能動的・積極的に参加することで、調査・報告・発表の力が自然と養われていきます。ただ座って他の発表者の報告を聞いているだけでは力がつきません。そこが、演習が講義とは異なる点で、またおもしろいところです。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
 第2回 テキストの輪読と報告
 第3回 テキストの輪読と報告
 第4回 テキストの輪読と報告
 第5回 テキストの輪読と報告
 第6回 テキストの輪読と報告
 第7回 テキストの輪読と報告
 第8回 テキストの輪読と報告
 第9回 テキストの輪読と報告
 第10回 テキストの輪読と報告
 第11回 テキストの輪読と報告
 第12回 テキストの輪読と報告
 第13回 テキストの輪読と報告
 第14回 テキストの輪読と報告

【成績評価の方法】

レポート 50% 出席 50%
 積極的な参加を重視します

【教科書】

根井雅弘 わかる現代経済学 朝日新聞社

科目名 クラス 講義区分	
演習ⅡB 05<秋>	
松本 誠	2単位

【講義概要】

21世紀社会は、地方自治体を中心とした分権型社会が日本でも急激に進む。その中心的課題となるのは、地域が自立できる地域政策と住民主体のまちづくりを進める住民自治である。

こうした、新しい地域政策とまちづくりを進めるための課題は何か。本演習では、新しい地域政策のあり方を学び、新しいまちづくりに取り組んでいく課題を、多彩な実践事例から学ぶことをめざす。

【学習目標】

担当教員は長年にわたり新聞記者として地域づくり、まちづくり、地方自治の現場をジャーナリストの視点から観察し、報道・評論するとともに、市民が担うまちづくり活動を実践してきた。幅広い視野から、新しい社会のあり方や学生諸君のアプローチの仕方をとらえ、学び、力をつけていきたい。

授業の中では、作文やレポートの書き方を習熟するための添削指導なども重視し、社会人としての基礎的素養も身に付けることを目標とする。

できれば春、秋通じて履修することが望ましいが、いずれか一方の履修でも支障のないようにテーマ展開し、個別指導を重視する。

【講義計画】

第1回 本演習では、上記の目標を達成するために、以下のプロセスによって演習を進める。

1. テキストを読み込みながら、ポイントを整理する。
2. 各回の演習ごとに、その回の担当者が担当した部分をレジュメにまとめて報告する。
3. 報告を聞いて、出席者全員で問題点や疑問点を出し合い、質疑応答の形で議論を進める
4. 教員が報告内容や出席者の発言に対してアドバイスや解説を行い、その日のテーマを確認する。
5. 報告者は、その日の議論を集約し、次回の演習の際に文書にまとめて報告する。
6. 学生諸君の日程の都合がつけば、街に出て暮らしの現場からの学び方を体験するフィールド学習も行う。

第2回 テキストを輪読し、各章、各節ごとに発表者がレポートし、内容について理解と身近な問題に敷衍させて議論していく。

第3回 したがって、各回のテーマや課題の設定は、演習Ⅱ出席したメンバーの人数や希望等によって柔軟に決めていく。

第4回 テーマは、地域のまちづくりを進めていくための市民の役割や課題、具体的な実践を学ぶ。

【成績評価の方法】

試験 0% レポート 50% 出席 50%

期末のレポートのほか、授業中の発表や理解度等を加味して評価する。

【教科書】

田村 明 まちづくりの実践 岩波新書
 神野直彦 地域再生の経済学 中公新書

【参考文献】

田村 明著 「まちづくりの発想」(岩波新書)
 地域情報会議編著 「地域の価値を創る」(時事通信社)
 川村健一+小門裕幸著 「サステイナブル・コミュニティ」(学芸出版社)
 松本 誠著 「市民が変える明石のまち」(文理閣)

科目名 クラス 講義区分	
演習ⅡB 06<秋>	
三原 裕子	2単位

【講義概要】

みなさんは「格差」という単語からどのようなイメージを連想しますか？中には正規社員と（現在大問題になっている）非正規社員、さらにはニート、はたまた裕福な親を持つ子どもとそうでない子ども、を連想する人は多いのではないのでしょうか。では、「格差って何ですか？」と問われたら、答える事はできるのでしょうか？

昨今、「格差」という言葉がマスメディアを騒がせています。この「格差」とは一体何なのでしょう。「格差」という問題を考えるにあたっては、どうしても感情が入ってしまいます。なぜならば、自分は所得のうえで貧しいな、という実感は他者との比較において生じるからであり、その意味で格差問題には感情が付きまとい、感情が入る限りにおいて未来永劫「格差」はなくなるでしょう。しかし、感情で語るがゆえに「格差」という問題があまりにも一人歩きしているような気が（私自身）してなりません。

そこで、この演習では「格差」を冷静に、かつ出来る限り客観的に眺めてみる事を目的とします。そのために、まずは新書やテキストを用いて、格差とは何なのか、さらに格差とはどのように測る事ができるのか、という事から整理していきます。

【学習目標】

秋学期では、各自のテーマにそって最終的にはレジュメをきちんとしたものにて完成できるように、レジュメ作成等の能力も身につける事を目標とします。

【講義計画】

第1回 春学期において調べた「格差」について、各個人の問題意識をまとめてみます

第2回 春学期において調べた「格差」について、各個人の問題意識をまとめてみます

第3回 各個人の問題意識をもとに、各々がテーマを設定して報告

第4回 各個人の問題意識をもとに、各々がテーマを設定して報告

第5回 各個人の問題意識をもとに、各々がテーマを設定して報告

第6回 各個人の問題意識をもとに、各々がテーマを設定して報告

第7回 各個人の問題意識をもとに、各々がテーマを設定して報告

第8回 各個人の問題意識をもとに、各々がテーマを設定して報告

第9回 各個人の問題意識をもとに、各々がテーマを設定して報告

第10回 各個人の問題意識をもとに、各々がテーマを設定して報告

第11回 各個人の問題意識をもとに、各々がテーマを設定して報告

第12回 各個人の問題意識をもとに、各々がテーマを設定して報告

第13回 各個人の問題意識をもとに、各々がテーマを設定して報告

第14回 まとめ

【成績評価の方法】

成績評価としては、出席点を3割程度で考慮し、その残りは出席態度および報告姿勢等により評価します。

【参考文献】

1回目のガイダンスにて、紹介します。

【備考】

授業計画のペースおよび内容は、受講生の人数等によって変更される場合があります。

科目名 クラス 講義区分	
演習ⅡB 07 <秋>	
山田 雄久	2単位

【講義概要】

私たちが日ごろ生活する大阪の都市空間について考え、大阪の経済社会について歴史的に振り返ります。近代という時代が大阪にとってどのような存在であったかを学ぶことで、これからの大阪が進むべき方向について学生の皆さんと話し合い、大阪の活性化と経済発展を展望します。関西は戦前には繊維の街として、そしてサービス産業が急速に展開する都市として歩んできました。欧米だけでなくアジアとの共生をもたらし、自由な経済活動を続けてきた都市であり続けるためにも、21世紀に大阪が果たすべき役割とは何かを考え、ディスカッションを行います。

【学習目標】

この授業では、大阪の近代遺産を実際に見学し、さらにどのような街として現代の大阪が発展しつつあるのかを考えます。ガイダンス時に、テキストから授業で取り上げるテーマについて、学生の意見に沿って決定します。その後、複数のテーマについて担当者を決め、それぞれHPや各種資料にもとづいて内容確認を行い、テキストの知識をさらに発展させます。実地での見学会を通じて、授業中に調べた内容を確認するとともに、新しい知見を得てレポートを作成します。最後に、各自作成したレポートについて発表会を行い、トータルな近代大阪像を取りまとめ、演習の報告集を完成します。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス（演習の目的）
参加希望者による自己紹介、演習に対する希望
テーマの候補、担当者決定
スケジュールについての相談
実地見学会のスケジュール
- 第2回 テーマについて（グループワーク）
- 第3回 テーマに関する報告A（グループ1）
- 第4回 テーマに関する報告A（グループ2）
- 第5回 テーマに関する報告A（グループ3）
- 第6回 テーマに関する報告B（グループ1）
- 第7回 テーマに関する報告B（グループ2）
- 第8回 テーマに関する報告B（グループ3）
- 第9回 実地見学（1）
- 第10回 実地見学（2）
- 第11回 テーマに関するディスカッション（1）
- 第12回 テーマに関するディスカッション（2）
- 第13回 レポート作成作業
- 第14回 レポート報告会
- 第15回 演習テーマのまとめ

【成績評価の方法】

試験 0% レポート 30% 出席 70%

参加状況と報告内容、発言内容にもとづいて評価を行います。なお、履修には実地見学会への参加を希望しますが、公欠等の理由がある場合は考慮したいと思いますので、ガイダンス時にあらかじめ相談してください。（見学会の日程は履修登録者の希望を優先して決定します）

【教科書】

橋爪紳也『明治の迷宮都市—東京・大阪の遊楽空間—』ちくま学芸文庫

【参考文献】

阿部武司『近代大阪経済史』大阪大学出版会、2006年。
その他、関連する文献について、授業中に随時紹介します。

科目名 クラス 講義区分	
演習ⅡB 08 <秋>	
吉川 真裕	2単位

【講義概要】

株式会社や株式市場、株式投資を理解することは現代の社会を理解する上で不可欠なだけでなく、安定した老後の生活を送るためにもなくてはならないものである。銀行預金や国債だけではインフレの生じやすい現代の世の中で長期にわたって購買力を保持することは困難である。また、リスクをとらない活動ばかりでは経済成長も限られてしまう。株式投資はギャンブルにもなるが、使い方を間違わなければ有利な資産運用方法であり、そのことを知っているのといないのでは大きな差がついてしまう。

授業では現代ファイナンス理論に基づいた株式投資に関する講義をパワーポイントを用いて行う一方、インターネットを使ったシュミレーション（投資ゲーム）を各自に行ってもらおう。そして、シュミレーション結果を発表してもらい、シュミレーション結果に関するレポートを提出してもらおう。

【学習目標】

現代ファイナンス理論に基づいた株式投資の方法を学習してもらい、株式投資を自分で行えるようになることを目標とする。

【講義計画】

- 第1回 株式投資シュミレーションの説明
- 第2回 金融商品と金融市場
- 第3回 ファイナンス理論の基本
- 第4回 リスクとリターン（1）
- 第5回 リスクとリターン（2）
- 第6回 ポートフォリオ投資（1）
- 第7回 ポートフォリオ投資（2）
- 第8回 市場ポートフォリオと分離定理（1）
- 第9回 市場ポートフォリオと分離定理（2）
- 第10回 投資信託（1）
- 第11回 投資信託（2）
- 第12回 年金運用と証券投資
- 第13回 株式投資シュミレーションの結果の発表
- 第14回 授業評価／株式投資シュミレーションのレポート提出

【成績評価の方法】

授業態度によって評価する。株式投資シュミレーションの結果の発表とレポートの提出を義務付ける。

【参考文献】

井出正介・高橋文郎『証券投資入門』日本経済新聞社、
久保田敬一『よくわかるファイナンス』東洋経済新報社

【備考】

演習ⅡA（08）を受講していることを前提として授業を進めていく。

科目名 クラス 講義区分	
演習ⅡB 09<秋>	
吉川 真裕	2単位

【講義概要】

世界的なベストセラーであるロバート・キヨサキの『金持ち父さん』シリーズの一冊をテキストとして、各自に発表してもらい、その内容について議論する。そして、テキストの考え方をより深く理解するために、ボードゲーム『キャッシュフロー101』よりも高度なボードゲーム『キャッシュフロー202』を全員でプレイしてもらう。

【学習目標】

「よく勉強して、良い学校を出て、良い会社に勤めることがお金持ちになることにはつながらない」という著者の主張は、勉強しなくてもお金持ちになれるということではない。学校では教えられない「お金」に関する勉強が必要であるというのが著者の主張である。著者の言う「金持ち父さんの世界」をより深く理解することを目標とする。

【講義計画】

- 第1回 あなたのプランは遅いか、早いか
- 第2回 豊かに未来を見ることのレバレッジ
- 第3回 一貫性のレバレッジ
- 第4回 童話のレバレッジ
- 第5回 気前よさのレバレッジ
- 第6回 習慣のレバレッジ
- 第7回 あなたのお金のレバレッジ
- 第8回 不動産のレバレッジ
- 第9回 紙の資産のレバレッジ
- 第10回 Bクワドラント・ビジネスのレバレッジ
- 第11回 ボードゲーム『キャッシュフロー202』
- 第12回 ボードゲーム『キャッシュフロー202』
- 第13回 ボードゲーム『キャッシュフロー202』
- 第14回 ボードゲーム『キャッシュフロー202』

【成績評価の方法】

授業態度によって評価する。
事前にテキストを読んできて、議論に参加することが単位取得の条件であるので、意欲のある学生の参加を望む。

【教科書】

ロバート・キヨサキ、シャロン・レクター『金持ち父さんの若くして豊かに引退する方法』筑摩書房
演習ⅡA (09) と同じテキスト

【参考文献】

- 『金持ち父さん 貧乏父さん』筑摩書房、2000年。
 - 『金持ち父さんのキャッシュフロー・クワドラント』筑摩、2001年。
 - 『金持ち父さんの投資ガイド 入門編』筑摩、2002年。
 - 『金持ち父さんの投資ガイド 上級編』筑摩、2002年。
 - 『金持ち父さんの子供はみんな天才』筑摩、2002年。
 - 『金持ち父さんの予言』筑摩、2004年。
 - 『金持ち父さんの金持ちになるガイドブック』筑摩、2004年。
 - 『金持ち父さんのサクセス・ストーリーズ』筑摩、2004年。
 - 『金持ち父さんのビジネススクール セカンドエディション』マイクログマガジン、2004年。
 - 『金持ち父さんのパワー投資術』筑摩、2005年。
 - 『金持ち父さんの学校では教えてくれないお金の秘密』筑摩、2006年。
 - 『金持ち父さんの起業する前に必ず読む本』筑摩、2006年。
 - 『金持ち父さんの金持ちがますます金持ちになる理由』筑摩、2008年。
 - 『金持ち父さんのファイナンシャルIQ』筑摩、2008年。
- 以下のサイトに最新の情報がある。
英語ホームページ (<http://www.richdad.com>)
日本語ホームページ (<http://richdad-jp.com/top.html>)

【備考】

テキストの前半部分を扱った演習ⅡA (09) を受けていることを前提として授業を進める。

科目名 クラス 講義区分	
演習ⅡB 10<秋>	
木村 二郎	2単位

【講義概要】

米国発金融危機と現代経済というホットなテーマをとりあげ、テキストの輪読を行う。また、関連のテーマを班ごとに設定して、資料検索・分析作業ののち、研究レポートの発表を行う。テキストは第1回の演習で指定する。なお、テーマ以外に、キャリアについて学び、また、世界市民としての感性を磨く機会を設ける。授業計画は、諸事情により変更することがある。

【学習目標】

米国発金融危機と実物経済大不況の現実を知る。班別の共同研究を通じて、問題を多面的に考察する能力を身につける。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス：班分け、自己紹介、スケジュール決定、テキスト指定
- 第2回 文献検索ガイダンス
- 第3回 パワーポイント使用法
- 第4回 キャリアについて考える
- 第5回 交換留学生との交流会
- 第6回 テキスト輪読：担当班がレジメ作成・発表、全体で討論
- 第7回 テキスト輪読：担当班がレジメ作成・発表、全体で討論
- 第8回 テキスト輪読：担当班がレジメ作成・発表、全体で討論
- 第9回 テキスト輪読：担当班がレジメ作成・発表、全体で討論
- 第10回 テキスト輪読：担当班がレジメ作成・発表、全体で討論
- 第11回 研究レポートの発表
- 第12回 研究レポートの発表
- 第13回 研究レポートの発表
- 第14回 まとめ

【成績評価の方法】

演習参加態度、発表やレポートの内容、試験などの総合評価（出席は前提）

科目名 クラス 講義区分	
演習ⅡB 11<秋>	
津田直則	2単位

【講義概要】

- 1) 与えられたテーマについてインターネット記事を読んで要約するとともに自分の意見を述べる。
- 2) 取り上げるテーマは、世界中の労働・経済・金融・企業問題のトピックス
- 3) 作成した文章はファイルに残し、いくつかのファイルをつなげていく。
- 4) ファイルをつなげ最終レポートを作成する。

【学習目標】

- 1) 資料を「読む力」とまとめて「書く力」を養う。
- 2) レポートを体系的に編集する力や「考える力」を養う。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション：
 ①授業紹介、学習目標、スケジュール、成績評価についての説明
 ②自己紹介
 ③レポートの体系的編集方法の説明
 ④情報検索の学習（新聞、雑誌、インターネット、書籍）
- 第2回 労働・経済問題第1回
 第3回 労働・経済問題第2回
 第4回 労働・経済問題第3回
 第5回 労働・経済問題第4回
 第6回 レポート発表と討論
 第7回 金融・企業問題第1回
 第8回 金融・企業問題第2回
 第9回 金融・企業問題第3回
 第10回 金融・企業問題第4回
 第11回 レポート発表と討論
 第12回 最終レポート作成
 第13回 最終レポート作成
 第14回 ふりかえりと反省会

【成績評価の方法】

試験 0% レポート 40% 出席 60%

科目名 クラス 講義区分	
演習ⅡB 12<秋>	
中村勝之	2単位

【講義概要】

いわゆる近代経済学（マイクロ・マクロ経済学）は数学を積極的に駆使して論理性を追求する。これは経済事象を「標準的枠組」で分析することを可能にする反面、（それを過度に追求するあまり）地域で特徴的な属性を捨象する面を否定できない。この演習で読んでいくテキストは近代経済学の成立する上で重要となる人物を取り上げながら、彼らが指摘する経済分析における「多様性」を強調する。これを感じることで、近代経済学の理解を深めていこう。

【学習目標】

講義概要で示したとおり、近代経済学が何を考えていたのか、その多様性をつかんで欲しい。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
 ※この演習を通じて「KJ法」という手法を用いる。具体的にはテキストの該当箇所を精読し、その中から「キーワード」を考えられるだけあげてもらおう。次にあげたキーワードから、幾つかの共通項で「グループ化」する作業を行う。最後にグループ化された共通項を論旨にそって結びつけ、それを「フローチャート」という絵にしていく。
 ※これら一連の作業は参加者全員で行う。そのため参加者の作業の進捗具合でゼミ進行が変わってくることに注意。

【成績評価の方法】

試験 100%
 演習初期段階と最終段階で行われる「テスト」の出来栄で評価する。

【教科書】

根井雅弘 物語 現代経済学 中公新書1853

【参考文献】

川喜田二郎（1967）『発想法』中公新書136
 川喜田二郎（1970）『続・発想法』中公新書210

【備考】

演習情報についてはホームページ (<http://rio.andrew.ac.jp/~nakamura/>) を参照すること。

科目名 クラス 講義区分	
演習ⅡB 13<秋>	
西川 憲二	2単位

【講義概要】

経済問題について興味をもつこと、考えることを試みていきたい。とりわけ、働くということの意味を、ビデオ教材をもちいて、みんなで議論していきたい。

【学習目標】

経済問題について、考える力、発表する力の向上を目標とする。

【講義計画】

- 第1回 授業の進め方
- 第2回 ビデオ教材の選択
- 第3回 ビデオを見て議論と要約
- 第4回 ビデオを見て議論と要約
- 第5回 ビデオを見て議論と要約
- 第6回 ビデオを見て議論と要約
- 第7回 ビデオを見て議論と要約
- 第8回 ビデオを見て議論と要約
- 第9回 新聞の経済記事から発表と要約
- 第10回 新聞の経済記事から発表と要約
- 第11回 新聞の経済記事から発表と要約
- 第12回 新聞の経済記事から発表と要約
- 第13回 新聞の経済記事から発表と要約
- 第14回 新聞の経済記事から発表と要約

【成績評価の方法】

レポート 30% 出席 70%
発表、レポート、出席

科目名 クラス 講義区分	
エンタテインメント・ビジネス論 <春>	
岸本 裕一	2単位

【講義概要】

わが国の経済全体に占める第3次産業のウェイトは年々増大している。そして、この第3次産業の内包も大変多岐にわたるようになってきた。この講義では、このような第3次産業のうちで、エンタテインメント産業と呼ばれる分野に焦点を当て、主としてマーケティング論の分析枠組みによって分析を展開しようとするものである。ところで、エンタテインメントとは、何であろうか？芸能界のスキャンダルやゴシップを集めたものではない。『エンタテインメント経済学』の著書のあるH. ヴォーゲルによれば、「快い気晴らしの状態を刺激し、亢進し、発生させるものの総称」と定義している。こうしたものを生産し流通させる産業がエンタテインメント産業ということになる。

さて、分析の対象となるエンタテインメント産業には、メディア依存型エンタテインメント産業として、映画、放送、ゲームなどが、また、ライブ型エンタテインメント産業として、ギャンブル、スポーツ、舞台芸術、テーマパークなどが、また、音楽は両方の性格を兼ね備えるものとして現れてくる。これらは、これまでの重厚長大産業を念頭に置いた経営学では手に余るような側面もあることから、その対極としての軽薄短小のメジャーでもって、やや柔軟な発想も要求されることもあるかもしれない。近年“Japanese Cool”ともはやされる、コンテンツ・ビジネスとも重なり、新たな成長ビジネスの内情を探りたいものである。

【学習目標】

この講義は若い諸君には興味のある内容となっていると思うが、エンタテインメント産業は実は知識集約型産業である事から、幅広い教養と猛烈な知的関心が要求される。それを携えて聴講していただき、エンタテインメント産業の全貌を把握していただきたい。

【講義計画】

- 第1回 コンテンツ&エンターテインメント・ビジネスをめぐる課題と視角
- 第2回 音楽ビジネス・マーケティングの展開①
- 第3回 音楽ビジネス・マーケティングの展開②
- 第4回 音楽ビジネス・マーケティングの展開③
- 第5回 J-POPの海外浸透
- 第6回 ギャンブル産業・マーケティングの新展開（カジノ開設の是非）①
- 第7回 ギャンブル産業・マーケティングの新展開（カジノ開設の是非）②
- 第8回 舞台芸術と観客動員
- 第9回 歌舞伎とビジネスの相互関連
- 第10回 放送ビジネスマーケティング—特にFM放送をめぐる—
- 第11回 食におけるエンタテインメント
- 第12回 ショッピングにおけるエンタテインメント
- 第13回 エンタテインメントを通じたまちづくり
- 第14回 今後のエンタテインメント・ビジネスの展望

【成績評価の方法】

期末試験の出来具合

【教科書】

使用せず。

【参考文献】

1. 岸本裕一・生明俊雄共著『J-POPマーケティング』、中央経済社、2001年。
2. 谷岡一郎・岸本裕一編著『カジノマーケティングと地域活性化戦略』、大阪商業大学研究叢書、2006年。
3. Vogel, H. : Entertainment Industry Economics, 6th ed., Cambridge University Press, 2004.

【備考】

<08生>のみ履修可

科目名	クラス	講義区分
応用言語学概論 <春集>		
橋内	武	4単位

【講義概要】

応用言語学は、1940年代後半から50年代前半にかけて言語学の異言語教育への応用として成立したが、現在では学際的言語学として言語学と隣接科学の中間領域に位置づけられている。その他に、言語問題の学という立場や「ことばの職業」研究であるという立場もあり、一筋縄ではいかないのが、応用言語学である。本講では、これら4つの応用言語学についての基本事項を講ずることをもって応用言語学への誘いとする。

【学習目標】

履修者にことばの多面性に気付いてもらい、将来英語教員・日本語教師・言語聴覚士や通訳などのことばの職業に就くために必要なことばに対する見方を養ってもらうことが、学習目標となる。

【講義計画】

- 第1回 イントロダクション（授業計画・教科書・評価法等）
 第2回 応用言語学とは何かー目的と対象と方法
 第3回 言語問題の学ーその1 言語障害
 第4回 言語問題の学ーその2 識字
 第5回 言語問題の学ーその3 言語の消滅
 第6回 言語問題の学ーその4 ことばの乱れ
 第7回 言語問題の学ーその5 誤訳
 第8回 外国語教育学ーその1 言語教育政策
 第9回 外国語教育学ーその2 シラバス・デザイン
 第10回 外国語教育学ーその3 外国語教授法（指導法）
 第11回 外国語教授法ーその4 教科書と教材開発
 第12回 外国語教授法ーその5 学習用辞書の編集と使い方
 第13回 外国語教授法ーその6 言語テストと評価
 第14回 学際的言語学ーその1 言語学的失語症学
 第15回 学際的言語学ーその2 言語心理学ー言語習得論
 第16回 学際的言語学ーその3 言語人類学ー言語と文化
 第17回 学際的言語学ーその4 社会言語学ー言語変種・変異
 第18回 学際的言語学ーその5 言語地理学ー方言地図
 第19回 学際的言語学ーその6 法言語学ー言語と法
 第20回 学際的言語学ーその7 言語経済学ー言語の市場
 第21回 学際的言語学ーその8 文体論ー詩と広告文
 第22回 ことばの職業ーその1 英語教員
 第23回 ことばの職業ーその2 日本語教師
 第24回 ことばの職業ーその3 言語聴覚士
 第25回 ことばの職業ーその4 通訳者と翻訳家
 第26回 ことばの職業ーその5 もの書き（作家）
 第27回 ことばの職業ーその6 晰家（落語家）
 第28回 まとめと補遺

【成績評価の方法】

授業への出席と積極的参加：20%
 レポート（A4 ワープロ3枚1200字）：20%
 期末試験：60%

【教科書】

山内 進編著『言語教育学入門』大修館書店

【参考文献】

大谷泰照、『日本人にとって英語とは何か』、大修館書店、2007。
 小池生夫編、『応用言語学事典』、研究社、2003。
 白畑知彦ほか著 『英語教育用語辞典』、大修館書店、1999。
 ジョンソン・ジョンソン編（岡秀夫監訳）、『外国語教育学大辞典』、大修館書店、1999。
 鈴木貞次編、『言語科学の百科事典』、丸善、2006。

【備考】

<02~07生>は読替一覧参照の事。

科目名	クラス	講義区分
応用言語学研究 <秋集>		
Michael	Carroll	4単位

【講義概要】

授業はすべて英語で行う。

This course examines the relationship between English grammar and communication, through looking at the three aspects of language: form, meaning and use. Grammar is simply 'the way a language is used. Therefore students will learn about grammar by analysing their own speech and writing, as well as examples of language use by fluent speakers and writers, to see how language users create meaning through making grammatical choices.

【学習目標】

Students will learn how to understand language not as a system of rules, such as they might have learned in high school, but as a way of communicating meaning in context. In order to do this they will record and transcribe interviews with English speakers, and analyse these interviews to see how English speakers make grammatical choices in real life. At the same time they will use the textbook to review basic English grammar by explaining it to other students.

【講義計画】

- 第1回 What is Applied Linguistics? What is Discourse Analysis? Grammar and Communication.
 第2回 Text: Impact Grammar
 第3回 Discourse Analysis 1
 第4回 Text: Impact Grammar
 第5回 Discourse Analysis 2
 第6回 Text: Impact Grammar
 第7回 Discourse Analysis 3
 第8回 Text: Impact Grammar
 第9回 Discourse Analysis 4
 第10回 Text: Impact Grammar
 第11回 Discourse Analysis Project 1
 第12回 Text: Impact Grammar
 第13回 Discourse Analysis Project 1
 第14回 Text: Impact Grammar
 第15回 Discourse Analysis Project Transcription
 第16回 Text: Impact Grammar
 第17回 Discourse Analysis Project Analysis
 第18回 Text: Impact Grammar
 第19回 Discourse Analysis Project Analysis
 第20回 Text: Impact Grammar
 第21回 Discourse Analysis Project Analysis
 第22回 Text: Impact Grammar
 第23回 Presentations
 第24回 Text: Impact Grammar
 第25回 Presentations
 第26回 Text: Impact Grammar
 第27回 Evaluation and Summary
 第28回 Evaluation: Impact Grammar

【成績評価の方法】

Interview and transcription 33%; Interview analysis (report and presentation) 33%; Quizzes 33%
 No more than 6 absences will be allowed.
 欠席6回以上の場合、単位を認めなくなります。

【教科書】

Rod Ellis and Stephen Gaies Impact Grammar Longman

【備考】

英語による講義です。
 <02~07生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
海外研修セミナー <秋集>	
小池 誠	4単位

【講義概要】

大学内における週1回のゼミ学習と、海外における約2週間の研修活動を組み合わせたユニークな科目です。東南アジアのシンガポールとインドネシアのバリ島を訪問する予定です。東南アジアの最先端をいく華やかな都市の消費文化と、まだまだ開発が進んでいない農村社会の様子を学びます。2～3月に予定している海外研修の詳細に関しては、7月中旬にセミナーの説明会を開催し、具体的な旅程と経費などについて話します。

【学習目標】

1年次の学生が海外での実体験にもとづき、2年次以降の専修において勉強を進めていく上で、動機付けとなるような科目を目指しています。秋学期週1回のゼミでは、訪問先の歴史と文化に関して受講者が自ら調べたことを発表し、受講者の間でディスカッションします。また、訪問先ではグループごとに調査テーマを決めて、参加者が基礎的なフィールドワークに取り組みます。また、訪問先で現地の大学生との交流会を実施します。帰国後、海外フィールドワークの成果をレポートにまとめ、報告会で発表することになります。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンスと他者紹介
- 第2回 グループ分けと役割分担
- 第3回 シンガポールについて学ぼう
- 第4回 シンガポールに関する資料調査とプレゼンテーション(1)
- 第5回 シンガポールに関する資料調査とプレゼンテーション(2)
- 第6回 シンガポールの調査テーマについて話し合う
- 第7回 インドネシアとバリについて学ぼう
- 第8回 バリ島に関する資料調査とプレゼンテーション(1)
- 第9回 バリ島に関する資料調査とプレゼンテーション(2)
- 第10回 バリ島の調査テーマについて話し合う
- 第11回 調査テーマの検討
- 第12回 健康管理と海外滞在ガイダンス
- 第13回 旅行社によるガイダンス
- 第14回 研修スケジュールの作成

【成績評価の方法】

単位取得のためには海外研修への参加が義務付けられます。また、出席を重視し、ゼミでの発表とディスカッションへの積極的な参加と、帰国後にまとめる報告書の内容を総合的に評価して成績をつけます。

【参考文献】

授業中に必要に応じて紹介します。

【備考】

〔08～09L生〕のみ履修可

科目名 クラス 講義区分			
会計学基礎	01 <秋>	全 全 谷 谷	在 在 武 武
会計学基礎	02 <秋>		
会計学基礎	03 <秋>		
会計学基礎	04 <秋>		
2単位			

【講義概要】

「会計」(accounting)は「企業の言語」(the language of business)と言われます。日本人なら日本語で話をし、アメリカ人なら英語で話をするように、「企業人」(business persons)は〈会計〉で話をしているというわけです。英語も知らないで、アメリカ社会で高い報酬は期待できません。同じように、会計を知らずして、経済社会での成功(出世)も期待できません。この講義では、企業の言語の基本的な会話法を伝授します。

【学習目標】

春学期の「商業簿記」で学んだ内容を基礎にして、会計についての基本的な知識の習得を学習目標とします。講義は、テキストの目次をもとにした下掲の授業計画にそってすすめられます。ただし、豊富な章題の内容をそのまま全部学習するのではなく、国内外の経済動向、受講生の関心等を勘案しながら、取捨選択的に講義されます。

【講義計画】

- 第1回 この科目のオリエンテーション
- 第2回 第1章：会計とは何か；その①
- 第3回 第1章：会計とは何か；その②
- 第4回 第2章：基本的な会計情報とは？；その①
- 第5回 第2章：基本的な会計情報とは？；その②
- 第6回 第3章：決算書の情報を分析するには？；その①
- 第7回 第3章：決算書の情報を分析するには？；その②
- 第8回 第3章：決算書の情報を分析するには？；その③
- 第9回 第4章：税金はどのように計算するのか？
- 第10回 第5章：コストと会計情報はどのように結びつくのか？
- 第11回 第6章：経営管理に会計情報をどう役立てるか？
- 第12回 第7章：業績測定・評価に会計はどのように使われているのか？
- 第13回 第8章：財務諸表は本当か？
- 第14回 第9章：会計は職業とどう結びつくのか？

【成績評価の方法】

授業の出席状況、課題(宿題)の達成状況、および学期末筆記試験の総合点で評価します。

【教科書】

小林哲夫・全在紋・朴大栄(共編著)まなびの入門会計学 中央経済社
【毎時間必携】

【参考文献】

参考資料は適宜配布します。

【備考】

この授業は、正当な理由(電車の延着その他)がない場合、開始10分以降の入室を禁じます。

科目名	クラス	講義区分
会計学原理 <秋集>		
中村恒彦		4単位

【講義概要】

本年度の会計学原理では、会計理論の歴史、会計学の方法論、最新の会計理論、国際会計と幅広い項目について学習します。学習内容が非常に高度であるため、ひとつひとつの理論をゆっくりと学習していく予定にしています。また、財務諸表論や簿記関連科目と重複する部分が多いので、関連科目を履修することをお勧めします。

【学習目標】

この講義を通じて、論理的な考え方がどのようなものかについて理解が深まればよいと思います。論理的な考えた方に固執することはいけませんが、自分の視野を広げるためにも論理的な考え方が必要となります。会計学者や会計士や企業の財務担当者が考える論理の世界について体感していただければよいと思います。

【講義計画】

- 第1回 会計学のイメージ①
- 第2回 会計学のイメージ②
- 第3回 複式簿記①
- 第4回 複式簿記②
- 第5回 期間計算①
- 第6回 期間計算②
- 第7回 固定資産会計①
- 第8回 固定資産会計②
- 第9回 監査①
- 第10回 監査②
- 第11回 会計学の発展①
- 第12回 会計学の発展②
- 第13回 会計学の方法論①
- 第14回 会計学の方法論②
- 第15回 利益概念①
- 第16回 利益概念②
- 第17回 貸借対照表①
- 第18回 貸借対照表②
- 第19回 損益計算書①
- 第20回 損益計算書②
- 第21回 キャッシュフロー計算書①
- 第22回 キャッシュフロー計算書②
- 第23回 株主持分計算書①
- 第24回 株主持分計算書②
- 第25回 国際会計①
- 第26回 国際会計②
- 第27回 概念フレームワーク①
- 第28回 概念フレームワーク②
- 第29回 総まとめ
- 第30回 期末テスト

【成績評価の方法】

- ・ 期末試験 (100点) + 宿題・課題等 (10点程度) または
 - ・ 期末試験 (100点) + レポート + (30点) + 宿題・課題等 (10点程度)
- 詳しい評価方法については、初回の講義で説明する。

【教科書】

加古直士+大塚宗春『財務会計の理論と応用』中央経済社
 こちらの教科書は、購入する必要はありません。
 友岡賛 歴史にふれる会計学 有斐閣アルマ
 こちらの教科書は、入手してください。
 平林喜博 近代会計成立史 同文館
 こちらの教科書は、購入する必要はありません。

科目名	クラス	講義区分
介護演習 01 <春>		金津春江
介護演習 02 <春>		金津春江
介護演習 03 <春>		川井太加子
介護演習 04 <春>		川井太加子
2単位		

【講義概要】

授業は講義及び演習の形態をとし、單元ごとに一定の講義により必要事項の説明及び関連事項の知識的整理をし、技術の基本部分に関する知識の定着をはかる。その上で技術の提供方法等に関するデモンストレーションによって知識の具体化をはかり、演習によって具体的な方法を学ぶ。

【学習目標】

加齢や心身の障害を持ちながら、どのようにすれば今ある能力を最大限に活かした日常生活を送ることを援助できるということを基本に、介護技術について、その原理原則、基本を踏まえた方法を習得する。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 コミュニケーション
- 第3回 環境作り
- 第4回 ベッドメイキング
- 第5回 移動と移乗
- 第6回 食事介助
- 第7回 口腔ケア
- 第8回 排泄介助
- 第9回 衣服の着脱の介助
- 第10回 足浴・手浴
- 第11回 緊急時の対応
- 第12回 福祉用具の使い方
- 第13回 介護過程の展開
- 第14回 介護過程の展開
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 25% レポート 25% 出席 50%

科目名 クラス 講義区分	
介護概論 01 <秋>	金 津 春 江
介護概論 02 <秋>	川 井 太加子
2単位	

【講義概要】

介護を取り巻く社会的問題を取り上げながら、介護の機能、介護を支える制度、他職種との連携について学ぶとともに、対象別では、認知症のケアとターミナルケアを取り上げ、講義を中心に事例やビデオ、資料を基に理解を深める。また、基本的な介護技術については体験学習を行う。

【学習目標】

介護の概念や対象およびその理念等について学ぶとともに、保健医療関係者及び関連機関との連携、協力のあり方について理解する。また、基本的な介助方法の知識・技術を習得する。

【講義計画】

- 第1回 1 オリエンテーション
 2 介護の機能および範囲
 3 加齢に伴う心身の変化
 4 高齢者体験・車椅子体験などの演習
 5 介護専門職と保健・医療専門職との連携
 6 介護技法 1) 身体の自然な動き
 2) 食事
 3) 排泄
 4) 移動
 7 コミュニケーション技法
 8 痴呆高齢者の理解と介護
 9 ターミナルケア

【成績評価の方法】

試験 40% レポート 20% 出席 40%

【教科書】

社会福祉士養成講座14介護概論 中央法規

科目名 クラス 講義区分	
外国史 01 <通期>	
山 崎 充 彦	4単位

【講義概要】

「歴史」とは、実に多様な側面を持つ。政治に焦点を当てれば「政治史」に、経済なら「経済史」、思想の流れを主軸とすれば「思想史」となる。この講義では、「政治史」・「政治思想史」・「社会史」・「文化史」など、特定の領域だけに限定することは出来るだけ避け、政治・経済・社会・文化など様々な観点から歴史を捉え、また、特定の地域・時代に偏ることなく、(日本を含めた)すべての歴史は常に「世界史」の一環であるとの見地から講義する。

【学習目標】

「歴史とは年表の羅列」、「事実の羅列」であるなどという「大いなる錯覚」や、「歴史とは階級闘争」などと歪曲してきた思考=「歴史という名の政治イデオロギー」に対して、全く異なる観点からの歴史の見方を提示し、学生諸君の思考の素材を提供していく。

【講義計画】

- 第1回 I 歴史学とは(総論)
 「歴史研究の持つ問題性」について一唯物史観批判
 第2回 西欧中心史観の問題性と、その克服
 第3回 歴史をどう「解釈」するか。
 第4回 歴史学における「政治的なるもの」と、その問題点
 第5回 II 世界の歴史(各論)
 「ヘレニズムとヘブライズム」
 第6回 ローマ帝国と成立と興亡、その世界史的影響
 第7回 キリスト教の成立とその世界史的意義
 第8回 中国の「歴史観」-「二十四史」とは？
 第9回 東アジア世界の成立と展開 (漢・隋・唐・宋王朝の特質)
 第10回 イスラーム世界の成立(預言者ムハンマド)
 第11回 (東)ローマ帝国(ビザンツ帝国)とその文化の世界史的意義
 第12回 中世ヨーロッパ世界の現状と「誤解？」
 第13回 中世ヨーロッパ国家の特質(キリスト教会と国家との関係)
 第14回 東西文明の交流(ルネサンスへのイスラーム文明の影響)
 第15回 絶対主義国家の成立と展開(T. ホブズの状態観)
 第16回 ヨーロッパにおける市民革命とその理論(J. ロックの国家観)
 第17回 ヨーロッパにおける「宗教改革」の発生
 第18回 ヨーロッパの「宗教改革」の意義
 第19回 イスラーム世界の発展(オスマン帝国、サファビー朝、ムガル帝国)
 第20回 「キリスト教」対「イスラム教」-？
 第21回 明・清帝国の展開(中国文明の興隆)
 第22回 近代主権国家の成立とその特質(ウェストファリア体制など)
 第23回 19世紀ヨーロッパの隆盛(なぜ、ヨーロッパ国家が優勢に立ったのか)
 第24回 ヨーロッパの世界進出(アジアの植民地化、アヘン戦争)
 第25回 ロシア帝国の内情と文化-ドストエフスキーを生んだもの
 第26回 第1次世界大戦とロシア革命
 第27回 戦間期の世界(ヴァイマル共和国、世界恐慌、ファシズムの抬頭)
 第28回 第2次世界大戦
 第29回 20世紀の「大虐殺者列伝」(ヒトラー、スターリン、毛沢東、金日成・・・)
 第30回 冷戦とアジア諸国の独立

【成績評価の方法】

試験 100% レポート 0% 出席 0%

このシラバスは、講義の一つの目安であり絶対的なものではない。

受講生の関心など諸事情によって、部分的に変更したり、特定のテーマについて、深く掘り下げて、数回に亘って講義するなど、柔軟に対応する予定である。

【教科書】

特定のテキストは使用しない。

なお、大学の講義は、高校と違い、講義内容の全てを板書するわけ

ではない。
この講義では、板書は必要最小限しか行わない。従って、受講生は、担当者の講義内容を、自主的にノートに筆書することが求められる。
板書を写すだけでは、講義出席の意味は全くないであろう。筆書能力の欠如したもの、または苦痛を感じる者には、あらかじめ履修忌避を勧告しておく。

【参考文献】

随時、紹介する。

【備考】

この講義では出欠調査は行わない。授業中の私語、携帯電話等の使用、漫画などを読むことは絶対に許さず、退室を命じる場合もある。その点了解の上、登録・受講されたい。

科目名 クラス 講義区分	
外国史 02 <秋集>	
梅田 百合香	4単位

【講義概要】

講義では、古代から現代までのイギリスの通史を学ぶとともに、イギリスを軸として、ヨーロッパ、アメリカ、アジア、中東、アフリカなどについても考察する。
講義に合わせて、イギリスの歴史や社会に関する映像資料を視聴し、理解を深める。

【学習目標】

かつて日本のイギリス史は、イギリスの「近代性」や「先進性」にばかり注目していた。講義では、こうしたステレオタイプの歴史観の修正を試みるイギリス史の新潮流を踏まえながら通史を学ぶことによって、保守性と先進性を合わせもつこの国の社会と文化の特徴を理解していくことを目指す。
また、イギリスが、イングランド、ウェールズ、スコットランド、北アイルランドという四つの文化圏から構成されていることに留意しつつ、その政治と社会のシステムをつかむことを目標とする。日本は戦後、議会制民主主義の原点ないし近代市民社会のモデルとしてイギリスを仰いできたが、実はイギリスは、日本とは著しく異なる伝統的な諸制度（例えば、国教会制度、コモン・ローの法システム、貴族制度など）を基盤として成り立っている。講義では、とくに階級社会など、こうしたイギリス独特の諸制度や文化について理解できるように促す。

【講義計画】

- 第1回 講義ガイダンス（方針、評価、イントロダクション）
- 第2回 イギリスの歴史的風土と社会
- 第3回 「イギリス」の成立 —ノルマン王家—
- 第4回 アンジュー帝国 —ブランタジネット王家—
- 第5回 百年戦争 —イングランド王家対フランス王家—
- 第6回 ばら戦争 —ランカスター王家とヨーク王家—
- 第7回 近世国家の成立 —テューダー王家—
- 第8回 エリザベス朝から革命の時代へ —テューダー〜ステュアート王家—
- 第9回 ビューリタン革命 —ステュアート王家—
- 第10回 ビューリタン革命 —クロムウェル革命政権期—
- 第11回 名誉革命 —再興ステュアート王家—
- 第12回 イギリス帝国の形成 —ハノーヴァー王家—
- 第13回 アメリカの独立とイギリス帝国 —ジョージ三世〜ヴィクトリア女王—
- 第14回 第一次世界大戦と帝国の変容 —ウィンザー王家—
- 第15回 第二次世界大戦と帝国からの自立 —ジョージ六世およびエリザベス二世—
- 第16回 四つの文化圏からなる連合王国Ⅰ（イングランド・ウェールズ）
- 第17回 四つの文化圏からなる連合王国Ⅱ（スコットランド・アイルランド）
- 第18回 イギリス社会を構成する三つの階級（上流階級）
- 第19回 イギリス社会を構成する三つの階級（中流階級）
- 第20回 イギリス社会を構成する三つの階級（労働者階級）
- 第21回 イギリスの政治制度Ⅰ（統治機構）
- 第22回 イギリスの政治制度Ⅱ（議会：貴族院と庶民院）
- 第23回 イギリス帝国と植民地
- 第24回 帝国支配の遺産Ⅰ 帝国からコモンウェルスへ
- 第25回 帝国支配の遺産Ⅱ アフリカの非植民地化
- 第26回 現代イギリスの政治と社会Ⅰ サッチャリズム
- 第27回 現代イギリスの政治と社会Ⅱ ブレア政権のイギリス
- 第28回 講義のまとめ
- 第29回 試験

【成績評価の方法】

試験 80% レポート 20%
中間期のレポート提出（前半15回までの範囲）20%と学期末試験80%。
レポート提出は必須条件である。

【教科書】

特定のテキストは用いず、毎回レジュメを配布する。

【参考文献】

イギリス史の参考文献は、川北稔編『イギリス史』山川出版社、一九九八年。その他講義中に適宜紹介する。

【備考】

なお、授業計画については、受講者の理解度や進行状況等によって変更する場合がある。

科目名	クラス	講義区分
外国書講読 11 <通期>		
石 黒 亜 維	4 単位	

【講義概要】

2008年の世界同時金融危機以降、しばしばアジア諸国の結束が議論されるが、そのなかでも特に日本と中国の関係は、経済的・政治的に重要とされている。他方で日中間には、歴史認識、経済権益などをめぐってさまざまな問題が存在し、ことあるごとに民衆的ナショナリズムが噴出する状況にある。このような日中関係を中国のマスメディア（媒体）はどのようにとらえているのであろうか。本講義では、中国で発行されている新聞・雑誌、出版物等から、主に日中関係、日中文化比較に関するトピックを取り上げ、関連する中文を講読する。適宜歴史的な文献も利用する。

【学習目標】

中国に対する理解を深め、日中相互認識の特徴をとらえる。中文講読を通じて、日中双方のロジックを理解する。

【講義計画】

- 第1回 中国のメディア事情①
- 第2回 中国のメディア事情②
- 第3回 中国の新聞を読む①
- 第4回 中国の新聞を読む②
- 第5回 中国の新聞を読む③
- 第6回 中国の新聞を読む④
- 第7回 中国の雑誌を読む①
- 第8回 中国の雑誌を読む②
- 第9回 中国の雑誌を読む③
- 第10回 中国の雑誌を読む④
- 第11回 中国の現代文化を理解する①
- 第12回 中国の現代文化を理解する②
- 第13回 中国の現代文化を理解する③
- 第14回 中国の現代文化を理解する④
- 第15回 復習およびまとめ
- 第16回 中国の新聞を読む⑤
- 第17回 中国の新聞を読む⑥
- 第18回 中国の新聞を読む⑦
- 第19回 中国の新聞を読む⑧
- 第20回 中国の雑誌を読む⑤
- 第21回 中国の雑誌を読む⑥
- 第22回 中国の雑誌を読む⑦
- 第23回 中国の雑誌を読む⑧
- 第24回 中国の歴史文化を理解する①
- 第25回 中国の歴史文化を理解する②
- 第26回 中国の歴史文化を理解する③
- 第27回 中国の歴史文化を理解する④
- 第28回 日中文化比較①
- 第29回 日中文化比較②
- 第30回 復習およびまとめ

【成績評価の方法】

筆記試験、出席状況および授業中の小レポートから総合的に判断する。

【教科書】

オリジナル教材として適宜配布する。

【参考文献】

必要に応じて参考文献を指示する

科目名	クラス	講義区分
外国書講読 12 <通期>		
田 村 剛	4 単位	

【講義概要】

環境問題には、地球温暖化、大気汚染、ゴミ問題、森林の減少、生物多様性問題など、様々なものがある。これらは複雑かつ広域化する傾向があり、我々にとってますます深刻な問題となっている。

本外国書講読では、環境問題とは何か、経済と環境とはどのようなつながりがあるのかなどを概観する。その上で経済学的な視点から、環境問題がどんな要因から生じているか、環境問題の進行に歯止めをかけて環境の質を高めるにはどのような政策があるかなどについて考える。

また本講義では、1授業あたり2～3ページ程度を数人で分担し、順番に翻訳を行ってもらい、その都度解説を加える形で進める。なお、発表者がわからなかった箇所については、他の人に答えてもらう場合があるので、参加者は予習が必要となる。

【学習目標】

本外国書講読では、環境問題に対する理解を深めるとともに、テキストの輪読を行うことにより、英語の読解力を高めることも目標とする。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション・・・授業の目標、内容紹介、進め方、成績評価、環境問題の現況
- 第2回 環境問題の背景
- 第3回 環境問題の現況
- 第4回 環境問題の課題
- 第5回 経済と環境の関係（1-1）・・・物質収支の考え方
- 第6回 経済と環境の関係（1-2）・・・環境資源の多面的機能
- 第7回 経済と環境の関係（2-1）・・・経済主体、需要と供給など
- 第8回 経済と環境の関係（2-2）・・・市場メカニズム
- 第9回 経済と環境の関係（2-3）・・・外部性、公共財
- 第10回 経済成長・人口増大と環境・・・経済成長、経済成長を制限する要因、環境容量
- 第11回 持続可能な発展・・・持続可能な発展の定義、条件および操作原則
- 第12回 環境問題が生じる要因（1）・・・収入、費用、利潤最大化
- 第13回 環境問題が生じる要因（2）・・・市場の失敗、外部費用、社会的最適生産水準
- 第14回 環境問題が生じる要因（3）・・・政府が介入する理由、政府の失敗
- 第15回 環境政策・・・全体的な議論
- 第16回 市場を活用した環境保護政策（1-1）・・・課徴金
- 第17回 市場を活用した環境保護政策（1-2）・・・デポジット制度
- 第18回 市場を活用した環境保護政策（2-1）・・・環境税①
- 第19回 市場を活用した環境保護政策（2-2）・・・環境税②
- 第20回 市場を活用した環境保護政策（2-3）・・・環境税③
- 第21回 市場を活用した環境保護政策（3-1）・・・許可証取引制度①
- 第22回 市場を活用した環境保護政策（3-2）・・・許可証取引制度②
- 第23回 環境経済学の現実への適用・・・各国のケース・スタディ①
- 第24回 各国のケース・スタディ②
- 第25回 各国のケース・スタディ③
- 第26回 各国のケース・スタディ④
- 第27回 各国のケース・スタディ⑤
- 第28回 まとめ・・・今後、環境政策をどのように考えていくか

【成績評価の方法】

出席状況、翻訳の出来具合、発言などを考慮して総合的に評価する。

【教科書】

プリントを配布する

科目名 クラス 講義区分	
外国書講読 41 <通期>	
隅 田 孝	4 単位

【講義概要】

マーケティングをいかに効率よく戦略的に計画・実践するかということは、事業分野を問わずほとんど全ての企業にとって非常に重要な課題である。そして企業がマーケティングを計画・実践するには生産、製品、販売、顧客、市場などさまざまな環境と密接に関係をもっていることを認識しなければならない。

本講義では、英語文献を通して、上述したマーケティングの核となる概念をしっかりと理解していく。また、マーケティングへの理解はもとより、平行して英語への理解についてもしっかりと学んでいく。特に、英文講読に必要な文法力の鍛錬に多くの比重を置く。TOEFLサンプルを使用し文法解説を行う。よって、受講生の理解度を測りながらマーケティングの理解、英語文献読解力、TOEFL・TOEIC対策などさまざまな目的に対応した講義を行っていく。

【学習目標】

- ①英文法の理解。
- ②英文によるマーケティング用語の理解。
- ③TOEFL・TOEIC対策

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス（講義の進め方、評価方法など）
- 第2回 経営の成功方式①
- 第3回 経営の成功方式②
- 第4回 グローバル経済①
- 第5回 グローバル経済②
- 第6回 made in ? （アパレルの事例）
- 第7回 made in ? （航空機の事例）
- 第8回 made in ? （書籍の事例）
- 第9回 格差とは？
- 第10回 経営環境の変化
- 第11回 企業を取り巻く新たな要素
- 第12回 needs（ニーズ）
- 第13回 wants（ウォンツ）
- 第14回 demands（ディマンズ）
- 第15回 前期試験
- 第16回 product（製品）
- 第17回 value（価値）
- 第18回 cost（費用）
- 第19回 satisfaction（満足）
- 第20回 exchange（交換）
- 第21回 transaction（取引）
- 第22回 relationship（関係性）
- 第23回 market（市場）
- 第24回 marketing（マーケティング）
- 第25回 marketer（マーケター）
- 第26回 marketing management（マーケティング管理）
- 第27回 the production concept（生産概念）
- 第28回 the product concept（製品概念）
- 第29回 the selling concept（販売概念）
- 第30回 後期試験

【成績評価の方法】

試験 50% レポート 0% 出席 50%

【教科書】

プリントを配布する。

科目名 クラス 講義区分	
外国書講読 42 <通期>	
隅 田 孝	4 単位

【講義概要】

マーケティングをいかに効率よく戦略的に計画・実践するかということは、事業分野を問わずほとんど全ての企業にとって非常に重要な課題である。そして企業がマーケティングを計画・実践するには生産、製品、販売、顧客、市場などさまざまな環境と密接に関係をもっていることを認識しなければならない。

本講義では、英語文献を通して、上述したマーケティングの核となる概念をしっかりと理解していく。また、マーケティングへの理解はもとより、平行して英語への理解についてもしっかりと学んでいく。特に、英文講読に必要な文法力の鍛錬に多くの比重を置く。TOEFLサンプルを使用し文法解説を行う。よって、受講生の理解度を測りながらマーケティングの理解、英語文献読解力、TOEFL・TOEIC対策などさまざまな目的に対応した講義を行っていく。

【学習目標】

- ①英文法の理解。
- ②英文によるマーケティング用語の理解。
- ③TOEFL・TOEIC対策

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス（講義の進め方、評価方法など）
- 第2回 経営の成功方式①
- 第3回 経営の成功方式②
- 第4回 グローバル経済①
- 第5回 グローバル経済②
- 第6回 made in ? （アパレルの事例）
- 第7回 made in ? （航空機の事例）
- 第8回 made in ? （書籍の事例）
- 第9回 格差とは？
- 第10回 経営環境の変化
- 第11回 企業を取り巻く新たな要素
- 第12回 needs（ニーズ）
- 第13回 wants（ウォンツ）
- 第14回 demands（ディマンズ）
- 第15回 前期試験
- 第16回 product（製品）
- 第17回 value（価値）
- 第18回 cost（費用）
- 第19回 satisfaction（満足）
- 第20回 exchange（交換）
- 第21回 transaction（取引）
- 第22回 relationship（関係性）
- 第23回 market（市場）
- 第24回 marketing（マーケティング）
- 第25回 marketer（マーケター）
- 第26回 marketing management（マーケティング管理）
- 第27回 the production concept（生産概念）
- 第28回 the product concept（製品概念）
- 第29回 the selling concept（販売概念）
- 第30回 後期試験

【成績評価の方法】

試験 50% レポート 0% 出席 50%

【教科書】

プリントを配布する。

科目名 クラス 講義区分	
外国書講読 51 <通期>	
的 場 香 織	4 単位

【講義概要】

私たちの身近なテーマを題材に、英語の外国書を輪読する。「レイ・ヴィトン」はなぜ高いのか、日本人はなぜ髪を染めたがるのか、恋愛がうまくいく身長差って何センチなのかといったポップな話題から、9.11テロ以降のアメリカ社会はどう変わったのか、食品の安全とは何かといったシリアスな話題まで、英語で読み解き、議論する。

またテーマ・話題に関連するDVD鑑賞をしたり書籍・資料を読んだりする時間も設定する。

【学習目標】

第1の学習目標は、英語の読解力や文法力を身につけることである。これらの力を「楽しく」「興味をもって」学習することで養えるよう、比較的身近なテーマを課題にしたテキストを教科書に選択している。

第2の目標は、これらの身近なテーマを入りにその背景にある問題の本質を解明し、現代社会をさまざまな観点から見直す力をつけることである。参加者で議論する時間を設け、読解力だけでなく議論する力も同時に養ってもらいたいと考えている。

【講義計画】

- 第1回 講義の概要説明
受講上の注意（授業計画、評価の仕方など）
- 第2回 Monogram Man(1) その1
- 第3回 Monogram Man(1) その2
- 第4回 Monogram Man(2) その1
- 第5回 Monogram Man(2) その2 + Discussion
- 第6回 The Siren Call of Blonde Power(1) その1
- 第7回 The Siren Call of Blonde Power(1) その2
- 第8回 The Siren Call of Blonde Power(2) その1
- 第9回 The Siren Call of Blonde Power(2) その2
- 第10回 The Siren Call of Blonde Powerに関するDVD鑑賞
- 第11回 Love Is in the Air その1
- 第12回 Love Is in the Air その2 + Discussion
- 第13回 Urban Outfitters その1
- 第14回 Urban Outfitters その2 + Discussion
- 第15回 レポート
- 第16回 レポート内容の発表
- 第17回 Is Fresh Always Best? その1
- 第18回 Is Fresh Always Best? その2
- 第19回 Is Fresh Always Best? に関するDVD鑑賞
- 第20回 America's Real Identity Crisis その1
- 第21回 America's Real Identity Crisis その2
- 第22回 America's Real Identity Crisis その3
- 第23回 America's Real Identity Crisis に関する新聞記事の検討
- 第24回 Campus Hate Parade? その1
- 第25回 Campus Hate Parade? その2
- 第26回 9.11 その1
- 第27回 9.11 その2
- 第28回 9.11 その3 + Discussion
- 第29回 これまで扱ったテーマに関するDiscussion
- 第30回 試験もしくはレポート

【成績評価の方法】

- 試験 25% レポート 25% 出席 50%
- ①「出席」には、担当する箇所の訳、授業中の発言や態度なども含まれる。
- ②「試験」または「レポート」は、学期末に実施する。

【教科書】

Hiroaki Natsume, Shinya Kawahara World Outlook Asahi Press

【参考文献】

講義のなかで適宜指示する。

科目名 クラス 講義区分	
外国法－英米法の歴史と現在 <通期>	
沼 口 智 則	4 単位

【講義概要】

外国法の中で英米法を講義する。英米法は、イギリス法とアメリカ法に分かれる。《春学期》は、総論として英米法の歴史を概観しながら、コモン・ロー（Common Law）のシステムについて説明していく。次にイギリス法を中心に、コモン・ローとは何か、その特質とは何かということについて、人権の成立とその発展の歴史的背景を踏まえて講義を進めていきたい。《秋学期》は、アメリカ法を中心に司法審判制のしくみ・アメリカ連邦制の特徴・判例法原則などを具体的判例の紹介・分析を通じて明らかにしていく。同時にアメリカ法文化の特徴を日本の法文化との比較の中から考察し、日本の「法治社会」（＝「訴訟型契約社会」）のいくえも展望していきたい。

【学習目標】

英米法の思考方法をしっかり身につけてもらい、実定法解釈学的思考とはまた異なる考え方の基本を学んでほしい。人権や三権分立の意義を理解してもらいたいと考える。

【講義計画】

- 第1回 春学期のシラバス紹介 ——イギリス法中心——
- 第2回 英米法概説(1) 英米法とは？
- 第3回 " (2) コモン・ロー
- 第4回 " (3) エクイティ
- 第5回 " (4) 法の支配
- 第6回 イギリス法(1) イギリス法小史 I マグナ・カルタ
- 第7回 " (2) " II 権利請願
- 第8回 " (3) " III 権利章典
- 第9回 " (4) 議院内閣制
- 第10回 " (5) 権力の分立
- 第11回 英米法と日本への影響(1) ※ビデオ学習「日本国憲法を生んだ密室の9日間」
- 第12回 " (2)
- 第13回 " (3)
- 第14回 まとめ（夏休みの課題レポート）
- 第16回 秋学期のシラバス紹介 ——アメリカ法中心——
- 第17回 アメリカ法(1) アメリカ法小史 I
- 第18回 " (2) " II
- 第19回 " (3) " III ※アメリカの大統領制
- 第20回 " (4) アメリカの陪審制 I
- 第21回 " (5) " II
- 第22回 " (6) " II ※ビデオ学習「12人の怒れる男」
- 第23回 " (7) 陪審制と日本の裁判員制度 I
- 第24回 " (8) " II
- 第25回 " (9) アメリカの司法審査 I
- 第26回 " (10) " II
- 第27回 " (11) " III
- 第28回 " (12) アメリカ法と日本への影響 I
- 第29回 " (13) " II
- 第30回 まとめ（論述式試験）

【成績評価の方法】

試験 60% レポート 30% 出席 10%

【参考文献】

春・秋学期のシラバス紹介のとき基本文献を示すとともに、講義の中でその都度、紹介していく。

【備考】

テキストは使用しない

科目名 クラス 講義区分	
会社法 01 <春集>	
瀬谷 ゆり子	4単位

【講義概要】

経済社会の動向に影響されることの多いこの分野は、現在に至るまで頻りに法改正が行われており、2005年に商法典から分離した形で新会社法が成立した（2006年5月施行）。膨大な会社法本体の条文に加えて、会社法施行規則、会社計算規則を擁するすべてを扱うことは困難である。したがって、授業では、技術的な部分は除外し、会社法の根幹をなす制度の理解を中心に据えることになる。なお、必要に応じて金融商品取引法の検討は行っていくことにする。

【学習目標】

経済社会における中心的な法主体としての会社、とりわけ株式会社に関する法規整の理解を目指す。会社の設立、その機関構成と運営のルール、さらには解散に至るまでの基本的な法制度の全体像を描くことができるようになることを目標とする。法人概念は押さえてあるという意味において、民法は履修済み（あるいは履修中）であることが望ましい。

【講義計画】

- 第1回 商法1（会社法）の履修に当たって
会社法の全体像
- 第2回 取引社会と会社 会社概念と法人性
- 第3回 企業形態の選択
- 第4回 会社の種類
- 第5回 理念型としての法人の特質
- 第6回 株式会社の歴史と会社法の変遷
- 第7回 株式会社制度の特質
- 第8回 株式会社設立
- 第9回 会社の資金調達（設立時）
- 第10回 機関構成
- 第11回 設立登記（法人格取得の要件） 設立手続の瑕疵一払込の
仮装を含む一
- 第12回 株式
- 第13回 株式譲渡
- 第14回 自己の株式の取得・処分
- 第15回 運営機構総論
- 第16回 株主総会
- 第17回 業務執行機関一取締役・取締役会制度
- 第18回 業務執行機関一代表取締役・代表執行役
- 第19回 取締役・執行役の行為規制
- 第20回 監査制度一大会社の場合と大会社以外の場合
- 第21回 役員の実任一 対会社、対第三者
- 第22回 決算と利益配当
- 第23回 資金調達その1 募集株式の発行
- 第24回 資金調達その2 新株予約権
- 第25回 資金調達その3 社債発行
- 第26回 解散・清算
- 第27回 企業再編1
- 第28回 企業再編2

【成績評価の方法】

試験 100% レポート 0% 出席 0%
期間内に数回行うクイズは、加点要素として用いる。

【教科書】

酒巻俊雄、尾崎安央編 新会社法一改訂版一 青林書院

【参考文献】

最新の六法。
その他、授業中に適宜指示します。

【備考】

<02~07生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
会社法 02 <秋集>	
吉見 研次	4単位

【講義概要】

この講義では、商法のうち会社法について講述する。会社法といえは会社のすべての法律問題を扱うものと誤解されがちだが、実際には会社法の守備範囲は限定的である。しかも、その内容は学生諸君にとって、いかにも疎遠なものである。「会社勤め」をする人にとっても、あまり役に立ちそうにない話ばかりである。さらに、他の法律と比較しても煩瑣で技術的な規定が極めて多いのが、会社法の特徴といえる。学習意欲の旺盛な諸君が、こうした会社法の特徴をよく認識した上で受講することを期待したい。

【学習目標】

- ①会社法の全体像を把握する。
- ②株式会社法の基本的な仕組みを理解する。
- ③株式会社法の重要条文の内容を理解し、正確な知識を修得する。
- ④株式会社法の主要判例の概要を理解する。
- ⑤株式会社法の主要な論点につき学説の概要を理解する。

【講義計画】

- 第1回 会社法の歴史と構成
- 第2回 会社の法的性質
- 第3回 会社の種類
- 第4回 法人成りと法人格否認
- 第5回 会社の政治献金等
- 第6回 株式会社の設立とその手続
- 第7回 株式会社の定款
- 第8回 株式の仮装払込等
- 第9回 株主の権利・義務
- 第10回 種類株式
- 第11回 株式の譲渡
- 第12回 自己株式
- 第13回 株式の併合・分割等
- 第14回 株式会社の機関と株主総会
- 第15回 株主総会の招集・議事
- 第16回 株主総会の決議
- 第17回 取締役
- 第18回 取締役・会社間の関係
- 第19回 取締役会
- 第20回 会計参与・監査役
- 第21回 監査役会・会計監査人・委員会
- 第22回 役員等の責任
- 第23回 株主代表訴訟等
- 第24回 株式の発行
- 第25回 新株予約権と社債
- 第26回 計算書類
- 第27回 資本金と剰余金の分配
- 第28回 会社の再編
- 第29回 補論とまとめ
- 第30回 試験

【成績評価の方法】

試験 100%
正誤文選択による短答式の学期末試験を予定している。各問いずれも4肢選択方式の計20問（1問5点、計100点）を出題するつもりである。短答式の試験は簡単だと思われるかもしれないが、実際にはそうではない。特に近年、不合格者の数が顕著に増加しているので、履修者は真剣に学修に励んでもらいたい。

【教科書】

菅野和夫他（編）ポケット六法平成22年版 有斐閣
他社の六法でも可（最初の授業時に紹介する）

【参考文献】

柴田和史『株式会社の基本 [第3版]』（日経文庫ビジュアル）
神田秀樹『会社法 [第10版]』（弘文堂）
江頭憲治郎『株式会社法 [第2版]』（有斐閣）
江頭憲治郎他（編）『会社法判例百選』（有斐閣）

【備考】

<02~07生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
カウンセリング [2] <春>	
岡井 哲明	2単位

【講義概要】

悩み多き時代である。虐待やいじめ、自殺や他害の話題が新聞を賑わさない日はない。心の問題に深く関係していると思われることは多く、カウンセリングなど心理治療に対する期待は大きい。

カウンセリングは、元々アメリカで教育相談として発展してきた対人援助技法であるが、日本に導入されて以来、相当に広がり多くの人々により実践され、今やカウンセリングという言葉を知らない人は少ない。

本講義では、カウンセリングについて、その具体的な心理的援助が、実際に、どのような理論に基づいて展開されているのか、構造的なカウンセリングにおける約束事などルールの必要性を含めて、分かりやすく講義する。

また、必要に応じて、講義だけに止まらず、ロールプレイなどの模擬実践による体験学習を組み入れる。

【学習目標】

カウンセリング理論についての、基礎的な知識や技術などを学び、更に、実践的なカウンセリングのロールプレイを体験し、実践学としてのカウンセリングについての理解を深める。

また、今後、対人援助に向かうであろう受講者にとっての一助となることを目指している。

【講義計画】

- 第1回 「こころ」とは何か
- 第2回 カウンセリングとは
- 第3回 カウンセリングの歴史
- 第4回 カウンセリングの理論と技法
- 第5回 カウンセリングにおける構造化
- 第6回 カウンセリングの過程
- 第7回 カウンセリングの効用と限界
- 第8回 模擬体験実習①
- 第9回 模擬体験実習②
- 第10回 模擬体験実習③
- 第11回 模擬体験実習④
- 第12回 模擬体験実習⑤
- 第13回 模擬体験実習⑥
- 第14回 模擬体験実習⑦及び実践のまとめ

【成績評価の方法】

試験 0% レポート 30% 出席 70%
理論と模擬実践を通じての講義であるため、やむを得ない場合を除いて、出席することが重要。

【参考文献】

講義の都度紹介する。

科目名 クラス 講義区分	
科学技術史 <通期>	
松永 俊男	4単位

【講義概要】

西洋科学の流れを概観し、日本における西洋科学の受容について述べる。

西洋科学の源流は古代ギリシアにある。講義ではまず、ギリシアで科学が生まれた経過を探求し、ギリシア科学がイスラム文化圏で受け継がれ、発展した経過を追う。ついで、イスラム文化の導入により、ヨーロッパで科学革命が起こり、近代科学が発展していった経過を述べる。

講義の後半では、江戸時代に主としてオランダ語を介して西洋の科学が日本に導入された経過を追い、明治以降の西洋科学の導入について考察する。

【学習目標】

科学の発展の大筋を理解することが基本的な目標である。そのためには、時代ごとの科学の特徴と、著名な科学者の事績を把握しておくことが必要である。

【講義計画】

- 第1回 はじめに
- 第2回 古代ギリシア：科学的精神の誕生
- 第3回 アリストテレスの生涯と業績
- 第4回 アレクサンドリアの科学
- 第5回 イスラムの科学
- 第6回 ヨーロッパ中世の科学
- 第7回 キリスト教と近代科学
- 第8回 ルネサンス期の科学と魔術(1)ホロスコープ占星術
- 第9回 ルネサンス期の科学と魔術(2)錬金術
- 第10回 ルネサンス期の科学と魔術(3)コペルニクスの生涯と業績
- 第11回 ガリレオの生涯と業績
- 第12回 ニュートンの生涯と業績
- 第13回 18世紀の科学(1)啓蒙思想
- 第14回 18世紀の科学(2)化学革命
- 第15回 19世紀の物理学：電磁気学と熱力学
- 第16回 19世紀の生物学(1)進化論
- 第17回 19世紀の生物学(2)ダーウィンの生涯と業績
- 第18回 20世紀の物理学：相対性理論と量子力学
- 第19回 20世紀の生物学(1)遺伝学
- 第20回 20世紀の生物学(2)分子遺伝学
- 第21回 20世紀の地球科学：大陸移動説とプレートテクトニクス
- 第22回 日本における科学の導入(1)南蛮学・蘭学・洋学
- 第23回 日本における科学の導入(2)長崎出島
- 第24回 日本における科学の導入(3)大阪の天文学と伊能図
- 第25回 日本における科学の導入(4)緒方洪庵と適塾
- 第26回 近代日本の科学(1)
- 第27回 近代日本の科学(2)
- 第28回 近代日本の科学(3)
- 第29回 まとめ
- 第30回 テスト

【成績評価の方法】

受講生が百名以内の場合は、毎回の授業時の小テストを中心に評価する。受講生が多数で毎回の小テストが無理な場合は、年、数回にとどめる。いずれの場合も学年末テストを実施する。レポートは出題しない。

科目名 クラス 講義区分	
科学思想史 <秋集>	
本 間 栄 男	4 単位

【講義概要】

「歴史の中の科学」 科学というものの考え方の成立の歴史的背景を探求する。古代ギリシャから20世紀前半までの主に西洋の科学思想が対象である。

【学習目標】

個々の具体的な科学知識を学ぶのではなく、歴史の中で科学が果たしてきた役割を知ることによって、現代の我々の社会での科学技術との関わり合い方について自分なりの見解をもてるようになること。

【講義計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 「科学」とは何か
- 第3回 ソクラテス以前の自然思想(1)
- 第4回 ソクラテス以前の自然思想(2)
- 第5回 プラトンとアリストテレス
- 第6回 古代ギリシャの芸術
- 第7回 古代アレクサンドリアの科学
- 第8回 古代末期の思想
- 第9回 イスラム圏の科学と中世ラテン世界の科学
- 第10回 ルネサンス技術と科学
- 第11回 ルネサンス三大発明(1)
- 第12回 ルネサンス三大発明(2)
- 第13回 天文学の革命
- 第14回 ガリレオ
- 第15回 科学革命論
- 第16回 ニュートンと啓蒙思想
- 第17回 博物学の時代
- 第18回 江戸時代日本の西洋科学
- 第19回 19世紀科学のイメージ
- 第20回 19医学の革命
- 第21回 ダーウィンと進化思想
- 第22回 19世紀物理学の進歩
- 第23回 万国博覧会と科学
- 第24回 ノーベル賞
- 第25回 マリー・キュリー
- 第26回 アインシュタインと20世紀科学の宿命
- 第27回 20世紀の物理学
- 第28回 20世紀の生命科学
- 第29回 まとめ
- 第30回 まとめ

【成績評価の方法】

レポートと出席によって評価する。

【教科書】

テキストは使用しない。

【参考文献】

参考文献は各回毎に指示する。

科目名 クラス 講義区分		
学外研修-インターンシップ 01 <秋>		吉 田 恵 子 寺 田 友 子
学外研修-インターンシップ 02 <秋>		
2 単位		

【講義概要】

(1) 事前研修

オリエンテーション(概要、心構えについて)、エントリーシートの書き方、業界・職種研究、マナーなど、就業体験を行うにあたって必要なことを学びます。(全6回予定)

(2) 実習期間

夏期休暇中(5日間)。実習期間中、実習簿を記述し、実習先担当者のチェックを受け、終了後担当者に提出すること。

(3) 事後研修

実習結果の報告(パワーポイントを使って、グループごとに実習先企業の方々を前に報告会をおこなう。)

【学習目標】

学生が夏休みなどを利用し、企業や官公庁、非営利団体等のさまざまな職場で一定期間就業体験を行う制度です。この就業体験を通して、大学における学びの意義を認識し、学生の自立とキャリア形成を支援する教育プログラムです。

また、実習を通じて、多くの社会人と関わることにより、自分の進路についての問題意識や目的意識を持つことができ、働くことの意義等を考える契機になると思います。

本学のインターンシップは、就職先等選択するために行うものではないので、希望する業界、企業等において必ずしも実習できるものではありません。

【成績評価の方法】

事前研修、事後研修、実習先からの評価、実習報告書などを含めて総合的に評価する。

【備考】

秋学期に履修登録すること。

<07生>のみ履修可

か
行

科目名 クラス 講義区分	
学際科目－日本の仏教 <秋集>	
梅山 秀幸	4単位

【講義概要】

インド生まれの仏教は日本に渡ってきて、変容を遂げた。その変容の過程を聖徳太子や、空海、最澄、源信、法然、親鸞といった祖師たちの著作をたどり、さらには『源氏物語』や『平家物語』などの古典文学や絵巻物、仏画、仏像を鑑賞することによって明らかにしていきたい。

【学習目標】

日本において初めて仏教が根付いたのは桃山学院のあるこの和泉であった。仏並あるいは納花という、由緒のある地名が大学の近くにはある。聖徳太子も行基も、そして役の行者もこの地域と因縁が浅くない。足元を見つめながら、仏教の日本人の精神性に与えた影響を考えてみたい。

【講義計画】

- 第1回 六道絵を見る
- 第2回 極楽浄土について
- 第3回 当麻曼荼羅について
- 第4回 アジャセ王の物語
- 第5回 法隆寺(1)
- 第6回 法隆寺(2)
- 第7回 聖徳太子(1)
- 第8回 聖徳太子(2)
- 第9回 奈良の寺々(1)
- 第10回 奈良の寺々(2)
- 第11回 行基
- 第12回 鑑真
- 第13回 『万葉集』と仏教
- 第14回 最澄と空海
- 第15回 法然
- 第16回 親鸞
- 第17回 京都の寺々(1)
- 第18回 京都の寺々(2)
- 第19回 『源氏物語』と仏教(1)
- 第20回 『源氏物語』と仏教(2)
- 第21回 『源氏物語』と仏教(3)
- 第22回 チャングムと知恩院の観世音菩薩三十二応身図
- 第23回 平家物語』と仏教(1)
- 第24回 『平家物語』と仏教(2)
- 第25回 夏目漱石を読む
- 第26回 谷崎潤一郎を読む
- 第27回 宮沢賢治を読む
- 第28回 小津安二郎の映画
- 第29回 ベルナルド・フランクの見た日本の仏教
- 第30回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 60% レポート 20% 出席 20%

【参考文献】

梅原猛『地獄の思想』(中公新書)

科目名 クラス 講義区分	
学部入門講義 01 <春>	
中井 紀明	2単位

【講義概要】

入学した時点で直面する悩みの一つ：「時間割を作らないといけないけど、どのコースを取ればいいのか?」。いや、その前に迷うことがあるはず：「そもそもこの学部にはどんなコースがあるか?」、「どんな先生がいるのか?」。通常は「先輩」に聞けば参考になるが、2008年度から発足したばかりの国際教養学部ではそういうわけにはいかない。

そこでこの学部入門講義がお助けマンを演じる。この授業は「インテグレーション」という形をとる。どういうことかまず説明する。国際教養学部は5つの専修(ヨーロッパ・アメリカ文化専修、英語コミュニケーション専修、アジア文化専修、Japanese Studies専修、メディア文化専修)に分かれていて、専任教員はみんないずれかの専修に所属している。この授業では、同じ先生が期間を通じて毎回話す従来のパターンではなく、それぞれの専修を代表する複数の教員が自分自身の担当分野に基づいて一回ずつ講義をすることになる。したがって、コースが終了した時点ではこの学部がどんな学部なのか、どんな先生がいるのかなど一通りわかるはずだ。学生諸君は2回生の時から進みたい方向によっていずれかの専修の科目を主に選ぶことになるが、そのときにこの学部入門講義で聞いた様々な話が大いに参考になる。

【学習目標】

国際教養学部はある特定の教育理念で設置されている。それは、「世界の市民を養成する」という理念。「世界の市民」とは、グローバル化が進む21世紀の世界において、幅広い教養を持ち、氾濫する情報を批判的に判断して、主体的に行動できる人間、世界に大きく羽ばたき活躍できる能力を持つと同時に地域にも貢献できる人間のことである。講義する教員一人ひとりはそのようなビジョンを踏まえて話を進める。

【講義計画】

- 第1回 4月8日：「イントロ・オリエンテーション」(中井紀明)
- 第2回 4月15日：「古代中国から何が見えるか」(串田久治)
- 第3回 4月22日：「19世紀アメリカ文学の愉しみ」(佐々木英哲)
- 第4回 5月13日：“English Grammar and Communication” (Michael Carroll)
- 第5回 5月20日：「外国人に日本語を教えるのはむずかしい？」(水沢昭江)
- 第6回 5月27日：「ほんとうは楽しいメディアリテラシー～メディアの世紀を理解するために～」(境真理子)
- 第7回 6月3日：「越境する『日本イメージ』」(片平幸)
- 第8回 6月10日：「19世紀ロシアとロシア文化～ドストエフスキーを中心に」(国松夏紀)
- 第9回 6月17日：「英語科教育法～最近の文法指導」(島田勝正)
- 第10回 6月24日：「知っているつもりで知らないアメリカ」(藤森かよ子)
- 第11回 7月1日：「ユーモアを通してフランス文化へアプローチしませんか？」(Annie Raux Yamasaki)
- 第12回 7月8日：「英文構成法の再考」(清水真一)
- 第13回 7月15日：「ハンブルと仮名の比較」(青野正明)
- 第14回 7月22日：「中国～『面倒な国』のイメージを超えて」(Philip Billingsley)

【成績評価の方法】

レポート 80% 出席 20%

2回生以降の進路を決めるのに重要な科目なので出席を重視する。毎回の講義に対する感想、意見、疑問などを書いて(小レポート)提出する義務がある。(そのときの担当者に添削されて後に返ってくる。

期末レポート：『もっとも興味を抱いた講義を授業の前半(4月15日～6月3日)・後半(6月10日～7月22日)から一つずつ選んでそれぞれ4000字程度で内容を要約し、興味を持った理由と、あなたの考えを書きなさい。』

【教科書】

プリントを配布する。

【参考文献】

授業で言及する。

科目名 クラス 講義区分	
学部入門講義 02<秋>	
中 井 紀 明	2単位

【講義概要】

入学した時点で直面する悩みの一つ：「時間割を作らないといけな
いけど、どのコースを取ればいいのか?」。いや、その前に迷うこ
とがあるはず：「そもそもこの学部にはどんなコースがあるか?」、
「どんな先生がいるのか?」。通常は「先輩」に聞けば参考になる
が、2008年度から発足したばかりの国際教養学部ではそういうわけ
にはいかない。

そこでこの学部入門講義がお助けマンを演じる。この授業は「イン
テグレーション」という形をとる。どうということかまず説明する。
国際教養学部は5つの専修（ヨーロッパ・アメリカ文化専修、英語
コミュニケーション専修、アジア文化専修、Japanese Studies専修、
メディア文化専修）に分かれていて、専任教員はみんないずれかの
専修に所属している。この授業では、同じ先生が期間を通じて毎回
話す従来のパターンではなく、それぞれの専修を代表する複数の
教員が自分自身の担当分野に基づいて一回ずつ講義をすることにな
る。したがって、コースが終了した時点ではこの学部がどんな学部
なのか、どんな先生がいるのかなど一通りわかるはずだ。学生諸君
は2回生の時から進みたい方向によっていずれかの専修の科目を主
に選ぶことになるが、そのときにこの学部入門講義で聞いた様々な
話が大いに参考になる。

【学習目標】

国際教養学部はある特定の教育理念で設置されている。それは、「世
界の市民を養成する」という理念。「世界の市民」とは、グローバ
ル化が進む21世紀の世界において、幅広い教養を持ち、氾濫する情
報を批判的に判断して、主体的に行動できる人間、世界に大きく羽
ばたき活躍できる能力を持つと同時に地域にも貢献できる人間のこ
とである。講義する教員一人ひとりはそのようなビジョンを踏まえ
て話を進める。

【講義計画】

- 第1回 (10月7日)「イントロ・オリエンテーション」(中井紀明)
- 第2回 (10月14日)「日本社会のもう一つの側面：歴史の闇に隠
されてきた人たち」(寺木伸明)
- 第3回 (10月21日)「美の宝庫イタリア」(和栗珠里)
- 第4回 (10月28日)「ネイティブは英語をどう発音しているのか
——はじめての英語音声学」(南条健助)
- 第5回 (11月4日)「シェイクスピアの文化史——アイデンティ
ティ・ジェンダー・自然」(小野良子)
- 第6回 (11月11日)「イギリスとアイルランドの歴史と文化～帝
国、移民、そして文学」(日下隆平)
- 第7回 (11月18日)「ほんとうは楽しいメディアリテラシー～メ
ディアの世紀を理解するために～」(境真理子)
- 第8回 (11月25日)「日本語＝外国語＝人間の脳の働き」(有川康
二)
- 第9回 (12月2日)「モンスーンアジアの風土」(深見純生)
- 第10回 (12月9日)「現代アメリカの詩を読む～男と女を考える」
(中井紀明)
- 第11回 (12月16日)「遊牧の暮らしへのいざない」(原山煌)
- 第12回 (1月13日)「アート・アニメーションの世界」(佐野明子)
- 第13回 (1月20日)「言語と心」(Kevin R. Gregg)
- 第14回 (1月27日)『「恨(ハン)」と「もののあはれ」～似て非
なるもの 日韓比較研究』(梅山秀幸)

【成績評価の方法】

レポート 80% 出席 20%
2回生以降の進路を決めるのに重要な科目なので出席を重視する。
毎回の講義に対する感想、意見、疑問などを書いて(小レポート)
提出する義務がある。(そのときの担当者に添削されて後に返って
くる。
期末レポート：『もっとも興味を抱いた講義を授業の前半(10月14
日～11月18日)・後半(11月25日～1月27日)から一つずつ選んで
それぞれ4000字程度で内容を要約し、興味を持った理由と、あなた
の考えを書きなさい。』

【教科書】

プリントを配布する。

【参考文献】

授業で言及する。

【備考】

第1回：担当者中井紀明による学部入門講義の教育理念や学部を構
成する5専修についての話。専修のおおの設置趣旨、教授する内
容や目標を紹介し、それぞれの専修において何を学ぶことができる
か、あるいは学ばなければならないかを具体的にわかりやすく説明
する。

第2回～第14回：5専修を代表する計13名の教員による講義。
アジア文化専修を代表する教員3名(第2回、第13回、第14回)、
メディア文化専修を代表する教員1名(第6回)、
英語コミュニケーション専修を代表する教員3名(第4回、第9回、
第12回)、
ヨーロッパ・アメリカ文化専修を代表する教員4名(第3回、第8
回、第10回、第11回)、
Japanese Studies専修を代表する教員2名(第5回、第7回)
(担当する教員の都合により順序を変更する可能性があるため、そ
のつどアナウンスする。)

インテグレーション科目

【備考】

第1回：担当中井紀明による学部入門講義の教育理念や学部を構成する5専修についての話。専修のおおの設置趣旨、教授する内容や目標を紹介し、それぞれの専修において何を学ぶことができるか、あるいは学ばなければならないかを具体的にわかりやすく説明する。

第2回～第14回：5専修を代表する計13名の教員による講義。
 アジア文化専修を代表する教員2名（第9回、第11回）、
 メディア文化専修を代表する教員2名（第7回、第12回）、
 英語コミュニケーション専修を代表する教員2名（第4回、第13回）、
 ヨーロッパ・アメリカ文化専修を代表する教員4名（第3回、第5回、第6回、第10回）、
 Japanese Studies専修を代表する教員3名（第2回、第8回、第14回）
 インテグレーション科目

科目名 クラス 講義区分

家族社会学 <通期>

畠中宗一

4単位

【講義概要】

現代社会における家族現象を、富裕化社会の諸命題に依拠しつつ、社会システムと家族システムの交差領域及び家族システム内におけるサブシステムの交差領域で出現する問題群に焦点化しながら、理念型としてのhealthy familyを実現していくための枠組みを探索する。

【学習目標】

家族システムに関する学際的な知識を動員して、理念型としてのhealthy familyを実現していくための基礎的条件を考察する。

近代家族は、個人化原理、愛情原理、平等原理によって特徴づけられる。私事化の肥大化と規範意識の希薄化という社会状況が進行するなかで、それぞれの原理間の矛盾が増幅されてきている。また社会システムに内在する規範への過剰な同調行動によって、家族成員は、それぞれの自己実現を阻止される。このような認識のもとに、家族変動および家族臨牀の視点から現代家族の諸相を浮き彫りにする。

【講義計画】

- 第1回 家族とは何か：山根家族論のキーワード
 第2回 富裕化社会の家族問題
 第3回 子どものウェルビーイングを実現する家族の要因(1)
 ：母親の就労が子どものウェルビーイングに及ぼす影響
 第4回 子どものウェルビーイングを実現する家族の要因(2)
 ：家族関係が子どものウェルビーイングに及ぼす影響
 第5回 子どものウェルビーイングを実現する家族の要因(3)
 ：入所年齢が子どものウェルビーイングおよび情緒的自立に及ぼす影響
 第6回 情緒的自立(1)：情緒関係が織り成す多様なメッセージ
 第7回 情緒的自立(2)：情緒は関係性のなかで育まれる
 第8回 情緒的自立(3)：情緒を育てることの意味
 第9回 情緒的自立(4)：癒しのメカニズム
 第10回 情緒的自立(5)：手間隙をかけることの意味
 第11回 情緒的自立(6)：甘えは情緒的自立を促す
 第12回 情緒的自立(7)：甘えはエネルギーの充電
 第13回 情緒的自立(8)：情緒を育てるための環境
 第14回 情緒的自立(9)：情緒的自立はどのように育つのか
 第15回 情緒的自立(10)：対人関係と情緒的自立
 第16回 なぜ家族は支援を必要とするのか
 第17回 家族支援論(1)：安らげない家族
 第18回 家族支援論(2)：煩わしさを回避する家族
 第19回 家族支援論(3)：コミュニケーションを取れない家族
 第20回 家族支援論(4)：孤立化する家族
 第21回 家族支援論(5)：自立志向で疲れる家族
 第22回 家族形成の諸段階1：青年期の異性交際
 第23回 家族形成の諸段階2：パートナーの選択
 第24回 家族形成の諸段階3：結婚と同棲
 第25回 家族形成の諸段階4：子どもの養育と社会化
 第26回 家族形成の諸段階5：中・高年期の危機と役割の再編
 第27回 家族の危機
 第28回 家族の情緒構造
 第29回 家族機能の変化
 第30回 家族の未来

【成績評価の方法】

レポート 80% 出席 20%

レポート

【教科書】

畠中宗一 情緒的自立の社会学 世界思想社

前期使用

畠中宗一 家族支援論：なぜ家族は支援を必要とするのか 世界思想社

後期使用

【参考文献】

森岡清美・望月嵩『新しい家族社会学』培風館

畠中宗一・木村直子『子どものウェルビーイングと家族』世界思想社

【備考】

前期・後期のテキスト終了後は、家族社会学の基本的なテーマをアトランダムに取り上げる。